三、金貸

(1) 沙閻王 SHA YEN WANG

沙は姓、閻王は渾名。春林棧止宿。金貸をして暮してゐる。彼は大觀里の阿片管煙所のボーイに貸しがあるので、管煙所に來た客の殘した阿片の灰を掻き集めたものをこつそり貰つて飲んでゐる。勿論モヒもやればやつてゐる。貸金の最高は一圓位であり、普通三十錢から五十錢位。三十錢は食事のため、五十錢はモヒ一包購入のためと見て差支へない。貸金の方法には左の二種類ある。

1. 逃逃利 PENG PENG LI

逃逃利と稱する利息のこと、卽ち一日十割の利息である。抵當物件を必要とせず、期間は無制限、元金利息を返却し終りたる日を以て終りとなす。但し利息のみは毎日絕對に取り立てられる。

2. 閻王利 YEN WANG LI

閻魔の利息と云ふこと。衣服その他の物品を抵當として受取り、その抵當品の賣價の五分の一位の金を貸し、日歩五分利となす。三日間にて流質せしむる規定である。流質せる品物は、宿内或は鬼市或は屑屋に賣却せられる。

(2) 楊福林 YANG FU LIN

山東人、三十餘歳、春林棧止宿。短身痩軀、協和服を着用してゐるが跣足。彼は一本の注射器を持つてゐる。モヒを持ち來れる患者に一回十錢の手數料を取つて注射してやるのが彼の商賣である。彼の所有する豆油燈は闇を明るくしてゐる、注射に用ゐるための燈である。小皿に豆油を入れて棉花を捻つたものを浸しそれに點火するやうになつてゐる。彼は同宿の二、三名と徒黨を組み 揆拂ひを專門とし、常員には無料で注射をしてやつてゐる。彼は猛烈なモヒ癮者である。

第七節 阿片

今では官土(政府發賣阿片)と私土(密賣阿片)とが北滿の密賣中心地ハルビンに於て必死になつて鎬を削つて暗闘して居る。

日本人は阿片を道德問題として取上げ、漢民族は生活を充實せしむる糧として考へてゐる。阿片の神聖な樂業を味つた人間が、その後で下品な人間臭い道德的戒律の悦樂に墮落するやうなことはしない。それ程、阿片の性格は漢民族の思想と性格とに一致してゐるのである。阿片は神性の向上を信ずる人間への努力を忘却せしめると共に、より熾烈な本能へと驅り立てる。然るが故に彼等はあの羅綾の花びらの底に潜む毒汁の魅力の束縛に自ら進んでその俘囚となるのである。

阿片は日本に於ても佛教と共に足利時代から用ゐられ、特に參籠と稱して密閉せられた小部屋に佛陀を記り護摩(燔燒)を焚いて信者を極樂淨土に導き、信者は知らず識らず阿片の中毒者となり、遂には參籠せ

ずに居られなくなり、果ては夢寐の中に坊主に犯された等々の事實に就いては人の知る所である。

大觀里の第三十四管煙所を中心として近隣の木賃宿其の他に展開せらるる惨情景は佛陀等とは凡そ縁遠いものである。

凡そ此處に棲息する連中は不潔に出來上つてゐる。

木賃宿の小部屋の闇がりで、ベソをかきながら、阿片の煙に包まれてゐる女房は梅毒で鼠蹊部が化膿するまでの疼痛を耐えながら淫賣するためであり、屋根裏で尻を丸出しにしてゴソゴソやつてる奴は、阿片の吸飲管に殘留した阿片の煙脂を紙に塗つて肛門に貼りつけてゐるのであるが、これで羽化登仙の夢を見て一眠りしやうと云ふ計劃である。

先づ大觀里の第三十四管煙所に足を運んで見よう。

(一) 管煙所の組織及び概況

一、雇員　二名

1. 所長　張錫三　四十八歳
   原籍　山東黄縣城西官道北十六家村
   現住所　長興街十二號
   滿洲滿月日　五年前

家族　六名(妻一、男二、女二)
住職　康徳元年管煙所開設當時より
教育　五年間
宗教　佛教

2. 司賬(帳簿を司る役即ち帳場)・葛春芳　三十八歳
   原籍　熱河省凌源縣
   現住所　香坊安埠街百三十六號
   家族　十名(母一、弟三、妻一、妹三、子一)
   住職　住職前は私煙館を開いて阿片を密賣してゐたが、康徳五年一月一日哈爾濱市第六十八號管煙所の帳場を勤め、康徳六年現管煙所に轉勤
   教育　三年間
   宗教　佛教

二、傭人　十名

1. 灯　長(阿片吸飲に要する豆ランプのことを灯と云ひ、客者に吸飲道具・豆ランプ其の他の世話をするボーイの係長である)　一名
   阿片

2. 看灯的(前記のボーイ達)　九名

三、經　營(日額にて示すと)

(1) 人件費　一日　十四圓八十六錢

雇員　二名　計三圓七十六錢

傭人　十名　計十一圓十錢

(2) 備品

煙　槍(阿片吸飲の煙管)　五十三本

煙　灯(阿片吸飲用豆ランプ)　三十一個

四、癮者

(1) 癮者數(康德七年十月現在)

男　百四十一名

女　六十四名

計　二百〇五名

(2) 賣却煙膏個數

一日　六八一個

一月　二、〇四三個

(3) 癮者吸飲量別表(一日)

吸飲量	人員	所用個數
一錢	四人	四個
二	五三	一〇六
三	一二三	三六九
四	二三	九二
五	二	一〇
計	二〇五	六八一

(4) 吸飲時間

午前九時より午後四時まで

(二) 第三十四管煙所に於ける密取引(大觀里)

一、所長・司賬及び看灯的の關係

管煙所十二名の職員が共謀して密取引をなし居ることは說明するまでもないことであるが、內輪喧嘩の起きぬ點より推量するに密賣其の他の方法に依つて得た利益の分配が公平に、卽ち職分の高低に應じた分

記法が行はれてゐるのであらう。

凡て支那社會に於ては利益の獲得に就いては極端に秘密を守り、然も共同の盡力を吝まないのであるが、その利益分配に際してその利益が一人乃至數人の者に獨占せられ、若くは不當に多く獲得せられたる時は、必らず破綻を生じ不平不滿を招來する。それはそれとして次に此の管煙所に於ける黒幕の數々を擧げて見よう。

二、煙膏取得方法

彼等は政府發賣の煙膏を管煙所内に於て左の如き方法に依つて取得してゐる

(1) 癮者の吸飲許可通帳上に定められてある所の、許可せられたる吸飲個數中より、一個或は二個を癮者より買收する。

(2) 癮者にして貧困なる者は吸飲費に苦むため、管煙所では其の貧困癮者をして無料にて吸飲せしめ、その癮者は又自己の吸飲量を減少せしめ、殘餘の分を管煙所に提供する。

(3) 癮者に對してその通帳に規定せられてゐる吸飲個數通りに賣らずして、賣却せし如く記帳して置き、殘餘分を取得する。

(4) 癮者にあらざる者にして吸飲許可證を得てゐる者に就いては管煙所に於て詳細知悉し居るため、その偽癮者は吸飲許可證にある個數の半數を管煙所に提供してゐる。この偽癮者は勿論持ち歸つて密賣する

譯である。

(5) 管煙所に於ては阿片吸飲に際して殘留する煙灰を回收してゐるが、此の煙灰は哈爾濱市埠頭區斜紋街十六の禁煙總局奉天工廠の哈爾濱分廠に送附せられ、分廠に於ては奉天工廠より配給せられた規格阿片に對して、各管煙所より回收せる煙灰を三〇%位混合して阿片煙膏を作り、更に各管煙所に配給するのであるが、その回收する煙灰の品質の如何に依つて煙膏のモヒ含有量に差を生ずるため、各管煙所では癮者をして煙灰の再使用を禁止してゐる。所が煙膏を一回吸飲して殘留した煙灰には多量のモヒ分を含有し居るために、癮者はその煙灰を別な煙膏に混じ合せて二回乃至三回吸飲するのである。ために煙灰の含有するモヒ分は完全に皆無となり、煙灰としての役割を果し得ざる劣惡な灰となるのであるが、その監督者たる看灯的卽ちボーイは見て見ぬ風を裝うて癮者から賄賂として煙膏一個若くは金錢を收賄するのである。

(6) 更に管煙所では煙灰の回收に際して、癮者の持參して來た煙灰が質が劣惡であるとか、量が少いとか難癖をつけて癮者が新たに買はんとする煙膏を高く賣り若くは少量に賣りつける。

(7) 癮者にして阿片密賣所より密賣阿片を購入の上、管煙所に來り、その吸飲に際して管煙所發賣の煙膏と交換吸飲する者多く、これを默許する時は管煙所密賣の阿片賣行高に影響するため、管煙所に於ては極力之が發見に眼めて居る。但し發見せられても是れ亦賄賂にて解決するのであるが、その賄賂の方法には規定吸飲個數の一部を管煙所に提供するか若くは金錢がある譯である。

以上の如くにして取得せられた煙膏は密輸せられた生阿片又は煙膏と一緒にせられ、更にそれに僞の混合物即ち「料子」(LIAO TZU)を混合して量を増加せしめて密賣するのであるが、その料子には左の如きものがある。

(三) 料子

一、阿片に關する名稱

(1)「鴉片」(YA P'IEN) 阿片のこと。「阿片」とは云はぬ
(2)「大煙」(TA YEN) 一般には「鴉片」と云はず「大煙」と云ふ
(3)「西土」(HSI T'U) 熱河産の阿片。「土」とは阿片のこと。
(4)「東土」(TUNG T'U) 熱河以外の滿洲産の阿片。東に産する阿片と云ふ意
(5)「官土」(KUAN T'U) 政府發賣の阿片
(6)「私土」(SSU T'U) 密賣阿片
(7)「煙漿」(YEN CHIANG) 滿洲に於ける罌粟には九種の品種があり、その包頭から採取せらるる漿液の産出には差等があるが、その採取した漿液は乳白色で煙漿と呼ばれる。
(8)「稀土」(HSI T'U) 煙漿の腐敗を防ぎ保存に便するため日光で乾燥し、約三分の一に濃縮すれば黒褐色のものとなる。これを「稀土」と云ふ。薄い阿片と云ふ意

(9)「煙磚」(YEN CHUAN) 稀土を更に乾燥して固き阿片としたものを謂ふ。煙漿の約四分の一位の量となる。之を油紙にて包裝し、更にその外面を木綿等にて包み乾燥せる場所に貯藏する。この「煙磚」が生阿片として賣買されるものであるが、密輸されるのも此の時が最も多い。
(10)「煙膏」(YEN KAO) 煙磚に十倍の清水を加へ之を濾過して稀汁となし之を銅鍋で煮る。煮つめるに從ひ水泡が漸次大きくなる。木箆にて攪拌し硬化せしめ飴狀黒褐色の煙膏となる。煙土の七割前後の煙膏が出來る。
(11)「煙灰」(YEN HUI) 煙膏吸飲に際して吸煙器具中に殘留する殘渣物にして、黒色の粒狀又は粉狀の物質である。煙灰は煙膏製造に際して三〇%以上の混合を必要とするため、政府では各管煙所をして回收せしめてゐる。
(12)「料子」(LIAO TZU) 以上簡單に說明せし煙漿・稀土・煙磚・煙膏及び煙灰に對して、その增量材として混合せしめる不當な混合物を「料子」と謂ふ。

二、民間に使用せらるる料子

料子の使用目的は阿片に僞物を混合して不當利得を得んとするにあるが、從つてこの混合物に依つて阿片の品質に差等を生ずる譯である。料子には重量を增すためのものと、量を增すためのものとあり、その製法は祕密にせられてゐるが、普通左の如き料子が使用せられてゐる。

(1) 煙草に混合せらるる料子(リヤウズ)

1. 豆腐汁

(2) 稀土に混合せらるる料子(リヤウズ)

1. 豆腐汁

2. 黒褐色のビール壜又はサイダー壜の粉末

3. 滑石の粉末

壜及び滑石の粉末は品質に關係なく、重量を増すために混合せられるので、煙草製造の際、水に不溶解なるため殘渣として除去せられる。

(3) 煙磚・煙膏に混合せらるる料子(リヤウズ)

1. 黄豆・大豆を碎き粉末となし之を水にて捏ね油で煎つて焦し、濾して沈澱せしめ、之を更に水で煮つめエキス狀態にする。大豆の粉をエキス狀態にすると四割程度のエキスを得る。大豆より製せる料子(リヤウズ)は比較的吸飲に障りがないとせられてゐるが、之にその他の皮絲料子(リヤウズ)・麺筋料子・香料等を適當に混合して使用せられてゐる。

2. 豚皮 豚皮料子(リヤウズ)・豚皮膏又は皮絲料子と云はれてゐる。豚の皮の脂肪を原料とし、之を油にて煎つて粉末となし、更に水を加へて煮て濾過し、又更に煮つめてエキス狀態となす。

3. 麺筋 メリケン粉に少量の水を加へ捏ね合せ、微温湯にて能く煉り水洗ずるとメリケン粉の蛋白質が固まり、粘着性を帶びる。之を植物油又は豚油を以て煎り焦し、水にて煮つめてエキス狀態となす。

4. 綠豆粉 豆素麺の原料であるが、之も料子(リヤウズ)として使用せられる。

5. 果物 特に林檎が最もよいとせられ、關東州では專らこの料子(リヤウズ)が使用せられてゐる。

6. 甘草 甘草のエキス

7. 曇栗稗 曇栗稗を煮つめたエキス。曇栗稗には多少のアルカロイドを含むため、滿人は喘息・腹痛等の治劑として用ゐてゐるが、煙膏の料子(リヤウズ)としては餘り適當でないが、使用せられてゐる。

8. 砂糖 黒砂糖及び赤砂糖

9. 樹皮 樹皮を用ゐてゐることは事實なるも名稱に就ては未調査

大體以上の如き料子(リヤウズ)に種々の香料を添加して使用せられてゐるのであるが、阿片そのものは燒くと膨脹し垂れ下る性を持ち、而も火の上に於ては粘着性強きため、料子(リヤウズ)としてもこれに相應せるものが所謂る良質の料子(リヤウズ)と云はるるのである。卽ち結局料子(リヤウズ)には植物性の蛋白が有效だと云ふことになる。動物性のものは强烈な匂ひを有するため料子(リヤウズ)としては大體不適當であり、不良の料子(リヤウズ)は吸飲器の穴が詰り、臭味を有し、火を消してしまふ。

又同質料子にしてもそのエキスを煙土に混合する場合と、煙膏に混合する場合とでは料子が變質をなし、製出量その他に差異を生ずるため、密造者の極めて苦心を要する點である。

(4) 煙灰に混合せらるる料子

1. 饅頭　饅頭を黒焦げにした灰
2. 茶葉　茶の葉を黒焦げにした灰

(四) 煙灰及び包裝紙

一、煙灰の意義・收得量及び用途

煙灰とは阿片煙膏吸飲の際、吸煙器具中に殘留する殘渣物を云ひ、黒色の粒狀又は粉狀の物質である。學理的に云へば吸煙煙膏の約六〇%の煙灰を生ずと云はれて居るが、實驗的經驗に依れば、吸飲の方法その他により煙灰の品質及び量に大差ありと云はれ、大體煙灰の收得量は煙膏の約四〇%に當り、五〇%以上に達することが出來ない。卽ち百グラムの煙膏を喫して、四十グラムの煙灰を生ずるを以て普通量とせられて居る。

此の煙灰は五%乃至三%のモヒを含有する爲め、政府では各管煙所をして煙灰を回收せしめ、奉天工廠製造の規格阿片に對して回收煙灰約三〇%を混入せしめて阿片煙膏を造つて居るため、癮者をして煙灰の再吸飲を禁止して居るのであるが、癮者に於ては煙灰にモヒ分を含有し居るを承知するため、前記の如くボーイその他に賄賂を贈りて二回三回と吸飲し、その結果饅頭を焦した灰等を煙灰として政府に提出して居るのである。

二、回收煙灰鑑定成績書

哈爾濱分廠管轄下に於ける管煙所卽ち哈爾濱市内七十七箇所及び十七縣旗の管煙所より回收せし煙灰を奉天工廠に於て鑑定せし結果は左表の如くなる。但し奉天工廠製官製煙膏より生ずる煙灰と同等の品質を有するものを上となし、逐次中・下・劣の四段階を以て表示されて居るが、卽ち

煙灰上……七十五點以上の品質を有するもの
煙灰中……五十點以上の品質を有するもの
煙灰下……二十五點以上の品質を有するもの
煙灰劣……二十五點以下の品質を有するもの

回收煙灰鑑定成績書　第一表　(哈爾濱分廠ノ分)

種別	可溶分	煙膏得量	マイエル試藥	摘要
哈爾濱市第一管煙所	五〇・一八%	五六・三八%	劣	阿片分を殆ど含まず煙灰として價値劣等
第二〃	四四・〇〇	四九・四三	劣	同右

第三〃	四六・四八	五二・二二	劣	同右
第四〃	四七・六四	五三・三四	劣	同右
第五〃	五一・〇五	五七・三五	劣	同右
第六〃	五六・六三	六三・六二	劣	同右
第八〃	五四・六八	六一・四三	劣	同右
第九〃	二九・二二	三二・八三	下	煙灰を加工せるものと認む
第一〇〃	四八・三九	五四・三六	劣	煙灰としての價値なし
第一一〃	六〇・〇二	六七・四四	劣	同右
第一二〃	四五・八五	五一・五一	劣	同右
第一三〃	四九・〇一	五五・〇六	上	普通の煙灰と稱し得べし
第一四〃	四九・三九	五五・四八	劣	煙灰としての價値なし
第一五〃	四〇・五九	四五・六〇	中	煙灰を多少加工しあるものと認む
第一六〃	四一・〇八	四六・一五	劣	煙灰としての價値なし
第二〇〃	四九・八四	五五・九九	下	煙灰を加工せるものと認む
第二一〃	五五・六九	六二・五七	劣	煙灰としての價値なし
第二二〃	四六・六六	五二・四二	劣	同右
第二三〃	五一・二七	五七・六〇	上	普通の煙灰と稱し得べし
第二四〃	四五・八八	五一・五四	劣	同右

第二六〃	三五・一一	三九・四四	劣	煙灰としての價値なし
第二七〃	四五・四七	五一・〇八	劣	同右
第二八〃	五〇・八九	五七・一七	劣	阿片分を殆ど含有せず煙灰としての價値なし
第二一〃	三八・三八	四三・一二	劣	同右
第三三〃	四三・四三	四八・七九	劣	同右
第三三〃	四八・五七	五四・五七	上	普通の煙灰と認む
第三四〃	四五・六八	五一・三一	劣	煙灰としての價値劣等
第三五〃	四四・二六	四九・七三	下	煙灰を加工せるものと認む
第三六〃	五三・四〇	五九・九九	劣	煙灰としての價値なし
第三七〃	四九・七四	五五・八八	劣	同右
第四一〃	四一・二〇	四六・二九	中	煙灰を多少加工せるものと認む
第四二〃	四一・〇二	四六・〇八	劣	煙灰としての價値劣等
第四六〃	五二・六〇	五九・一〇	劣	同右
第五二〃	四二・六六	四七・九三	劣	同右
第五四〃	三九・九六	四四・八九	中	煙灰を多少加工せるものと認む
第五五〃	四二・三三	四七・五六	劣	阿片分を殆ど含まず煙灰としての價値なし
第五七〃	四七・〇八	五二・八九	劣	同右
第六一〃	四五・二二	五〇・八〇	上	普通の煙灰と認む

第六二〃	四四・五九	五〇・一〇	劣	中	煙灰としての價値なし
第六四〃	四三・〇八	四八・四〇	下	劣	煙火を加工せるものと認む
第六七〃	三三・〇四	三七・一二	劣	劣	煙灰としての價値劣等
第六八〃	四八・三一	五四・二七	劣	劣	同・右
第六九〃	四七・三二	五三・一六	劣	劣	同 右
第七一〃	五〇・三四	五六・五六	上	上	普通の煙灰と認む
第七二〃	四五・四〇	五一・〇一	劣	劣	煙灰としての價値なし
第七三〃	四五・四六	五一・〇七	劣	劣	同 右
第七四〃	四〇・〇三	四四・九七	劣	劣	同 右
第七六〃	五二・五〇	五八・九八	劣	劣	同 右
第七七〃	五二・八九	五九・四二	劣	劣	阿片分を殆ど含まず煙灰としての價値劣等
珠河縣	三〇・六八	三四・四七	下	劣	煙灰を加工せるものと認む
呼蘭縣	四七・一七	五三・〇〇	劣	劣	煙灰としての價値なし
葦河縣	四二・八四	四八・一三	上	上	普通の煙灰と認む
安達縣	四〇・六七	四五・六九	上	劣	同 右
延壽縣	二九・四〇	三三・〇三	劣	劣	煙灰としての價値劣等
阿城縣	四六・二四	五一・九五	劣	劣	同 右
双城縣	四四・三六	四九・八四	中	劣	煙灰を多少加工せるものと認む

肇州縣	三〇・五二	三四・二九	劣	劣	煙灰としての價値なし
五常縣	五〇・三二	五六・五三	劣	劣	同 右
木蘭縣	四五・六七	五一・三一	劣	劣	同 右
肇東縣	三二・八三	三六・八八	劣	劣	同 右
巴彦縣	四八・六四	五四・六五	劣	劣	煙灰を多少加工せるものと認む
賓縣	四九・五六	五五・六八	中	劣	普通の煙灰と認む
青岡縣	四三・一八	四八・四六	上	劣	煙灰を多少加工せるものと認む
蘭西縣	四四・六一	五〇・一二	中	劣	同 右
東興縣	四三・二九	四八・六四	中	劣	普通の煙灰と認む
郭爾後族	四六・八七	五二・六六	上	劣	煙灰としての價値なし

備考

上記六六種の中品位檢定に於て上に屬するもの僅か十種にして、其の他のものは夫々得量に著しき減少を來たさゞる條考慮し、佗物を以て加工せるものと思考せられ、煙灰として價値なきもの大多數にして一驚せり。

間牧煙灰鑑定成績書　第二表　（錦州分廠の分）

種別	可溶分	煙膏得量	マイエル試藥	摘要
彰武縣	二二・二九	二五・〇四	中	一部加工せるものと認む

錦中縣	四一・三九	四六・五〇	上	普通の煙灰と認む	
錦州縣	四一・二五	四六・三四	上	同右	
錦西縣	五一・二八	五七・六一	上	同右	
吐默特右旗	五三・一四	五九・七〇	上	同右	
盤山縣	二九・三七	三三・〇〇	劣	阿片分を全く含有せず煙灰としての價値劣等	

備考

以上六種の中、盤山縣を除き他は普通の煙灰と認められるも、盤山縣の如きはマイエル試藥に對する反應全く呈せず、煙灰としては全く無價値のものと認めらる　以上。

哈爾濱分廠に於て回收せられたる煙灰は如何に劣惡であるかに就ては、以上第一表鑑定成績表に於て分明せる如く、又その評語として『煙灰として價値なきもの大多數にして一驚せり』と云はれし如く、且亦第一表哈爾濱分廠に於て回收せし煙灰成績表は、第二表錦州分廠の成績表に比して如何に劣惡であるか、あまりにも距離のあることを知ることが出來るであらう。斯くの如く哈爾濱の特異性は化學鑑定の上にも明瞭に看取せらるる譯である。

殊に哈爾濱第三四管煙所即ち大觀里の煙灰は、煙灰としての價値劣等云々の評語をうけて居る點に注意して次に進まう。

三、包裝紙

包裝紙とは阿片の煙泡(煙膏を薄く延べ、大體一回の吸飲に便利な大きさにしたもので、政府發賣の煙泡は一個一・二五グラムの重量がある)を包む紙のことである。

(1)　包裝紙の回收

現在政府では各管煙所をして包裝紙を回收せしめてゐる。その原因とする所は、

1. 不正の防止
2. 包裝紙に附着せる煙膏の回收

の二點にあるが、その回收は市縣旗に一任する外なく、市縣旗の管煙所に於ては、その實際回收方法として『吸包』(HSI PAO 癮者が管煙所で吸ふ煙泡のこと)と『走包』(TSOU PAO 癮者が管煙所より煙膏を買つて自宅に持ち歸つて吸ふ煙泡の包みを云ふ)とに區別して回收して居るが、回收後市縣旗に於てはその發給數に照合して、回收數を點檢するのでもなく、且亦全部破れて居るため數多きためとに由り事實上、枚數の點檢すら出來ず、從つて回收は何等不正防止の役割をなして居らぬ現狀にある。

回收せられた包裝紙は奉天工廠に送附せられ、其處でその儘釜に入れて煮られ、包裝紙に附着した煙膏を採つてゐる。然も包裝紙二十萬枚より煙膏七十兩の得量があるのみで、極めて非能率的なものである。

(2)　包裝紙の僞造

阿片

政府發賣の煙泡の包裝紙はその印刷樣式極めて簡單であり、且亦その紙質は極めて薄き普通の紙を使用し居るため、民間の僞造は極めて簡單である。且亦阿片は吸濕性强きため必ず粘着し、一回使用せし包裝紙は必らず裂けて再使用不可能なるにもかかはらず、政府發賣の煙泡なりと稱して密賣する故一般吸飮許可證なき者まで購入し得べく、且亦その包裝紙が千差萬別なる實狀より見て阿片の密賣と包裝紙の僞造とは明確な事實である。

(3) 然るに最近の政府發賣の阿片は漸次劣質となりたるに反し、密賣阿片の方が遙かに良質なるため、密賣阿片には從前使用せられたるが如き政府の包裝紙に模寫せる僞造包裝紙を用ふることなく、普通の紙又は布等に包んで密賣してゐる。

(4) 筆者が此の政府公設の大觀里第三十四管煙所に於て購入せし密賣阿片の包裝には三種類あり。一包五十錢の包裝には紙質の極めて粗惡なる紙を用ゐ、然もその裁斷は機械又は剪に依るものにあらずして、指端を以て引きちぎりたる紙に煙膏を包んで居り、一包二圓五十錢の包裝は政府の包裝紙より良質のものを用ゐ、鋏を以て裁斷せられ居るも、包裝紙の表面には政府の包裝紙の如き印刷等は施されてゐない。三圓五十錢包の包裝は紙を使用せずして純綿の厚い布を以て包裝してあつた。

四、管煙所に於ける密賣阿片の鑑定

前記大觀里第三十四管煙所密賣阿片の鑑定成績書左の如し

煙膏鑑定成績書

番號	產地	等級	成分	發展狀態	斗路順	吸食麻醉時間	香味程度	煙味程度	感想
.50	混	外	二〇	下	呆	二〇	下	下	焰燒の時惡くて且つ焦る、之は煙灰を加へて製せる煙膏で料子の臭あり又斗路も滯澁す
3.50	混	外	五〇	中下	稍遲	三五	中下	中下	包が平凡、缺點は無く混合煙灰の爲斗路稍々塞る
2.00	混	外	四〇	中下	稍遲	三〇	中下	中下	煙灰を加へて製せる煙膏にして多少、料子の味があり斗路も滯り且焦げる

化學鑑定は檢體少量の爲鑑定不可能

康德七年十月二十四日

禁煙總局工廠　試驗股

(五) 阿片の密輸

北滿に於ける阿片の密集散地は勿論このハルビン傳家甸であるといはれてゐる。遺憾ながら筆者の短時日に於ける調査に於ては所謂小物だけで大物が引掛る筈もない。

筆者は阿片密輸の主體を獨斷的に下記の如く睨んでゐる。卽ち國內密賣の連中は所謂小物であり、大し

た問題はない。只國外へ密輸する者に就いては滿洲國の現狀よりして相當の注目を拂ふ必要あるものと思料せられる。

現在爲替管理の强化に伴つて滿洲國より國外へ金を持ち出すことは必然困難を極めつつある。然るに此處に如何なる困難をも克服して金を國外に持ち出さずに居れぬ連中が居るのである。卽ち支那に現住しつつ滿洲に投資してゐる所の商業資本家又は地主等はその滿洲に於ける利益金又は小作料を支那に輸送しなくてはならない。滿洲國幣を國幣のままで支那に輸送することは普通に行はれて居るが、これはその危險を突破して輸送し得たとするも、國幣を聯銀券等と兌換する點に於て再び極めて高價なる手數料と危險とに遭遇することを覺悟せねばならない。從つて彼等は斯くの如き愚策を選ばずして、熱河の阿片若くは金塊を購入して、此等を支那へ密送する方法を取るのである。而も熱河の國境線は密輸者にとつて此の上もなく好條件を提供してゐるのである。我々日本人は長城が北支と滿洲國とを截然と區劃してゐるものなりとの一大錯覺が、滿洲國施政の上に一大錯誤を招來してゐることを反省すべきであらう。

尙は彼等の外に滿洲に土地財産を持ちつつ現在は支那に居住する連中がある。彼等も亦この巧策に從ふであらうことは想像に難くないのである。

聖人孔子の子孫は事變前までこの滿洲から年七十萬圓の小作料其他を擧げつつあつたのを、事變後に於ては三十數萬圓以上の入手困難となりたるため、目下鏡泊湖附近の土地を賣却すべく劃策中である。滿人商業資本家中最大を以て目され新京・奉天・哈爾濱その他各地に大百貨店・銀行・粮棧その他を經營する益發號一家は河北省樂亭縣の人間である。某一族は父某々の滿洲各地にある厖大な遺產を以て現在北京に於て豪奢な生活をしてゐる。

以上は一、二の例に過ぎぬが、以上の如き實狀にある連中はその純益金・小作料又は資產の送金に苦惱してゐる連中である。只筆者としては以上の如き單なる個人的臆測が明るみへ持ち出されるまで輕々しき斷言を憚る可きであり、只々諸賢の參考に供しその明察に訴へんとするのみである。

一、熱河の阿片

熱河全耕地面積　一五〇萬町歩

內　阿片耕地面積　三萬町歩　二%

粟・高粱耕地面積　九〇萬町歩

熱河全農產物價格　三七、〇〇〇萬圓

內　阿　片　一三%　五、〇〇〇萬圓

粟　一二%　四、五一〇萬圓

高　粱　一一%　三、九七八萬圓

二%をもつ耕地の阿片が一三%の收益を擧げてゐる。密輸阿片を加算するならば二倍以上の收益となる

阿　片

り、然も七月一箇月間にこの現金が入ることは農民にとつて重大である。二%より占めぬ阿片の耕地を粟・高粱等の糧食地としても熱河の民食は解決しない。阿片は治安その他に關係しつつも、農民自身にとつてこれに代る良作物はない現狀である。

熱河阿片のモヒ含有量　一二%
臺灣阿片のモヒ含有量　四%
ペルシヤ阿片のモヒ含有量　八%

熱河の阿片は料子を五〇%混入しても臺灣產の阿片よりモヒ含有量が多いことは注目すべき點である。

二、密輸の實例

熱河に於ては康德六年度最底一千萬兩の阿片が收穫されたと見られたのに、政府で收買し得た阿片は僅かに三〇〇萬兩であつた。建國以後政府機關で收買した時の最高收納成績は產出量の五〇%乃至六〇%であり、政府が民間に委託して收納せしめた時は八〇%の收納成績を擧げてゐる。卽ち政府より請負ひたる大滿號は現地滿人の商人ブロックに更に下請負をなしたため、現地の事情に精通する商人は自身の利益となるため一所懸命に收買したためである。

さて康德六年度に於て一千萬兩の阿片が收穫されたとの豫想に對して、政府で收買し得た阿片は僅かに三〇〇萬兩と云ふので、熱河省では省縣旗の全職員果ては警察學校の學生まで總動員して所謂鐵土工作（鐵は渡す、土は阿片卽ち阿片の收納工作）をやつて阿片の收納に全力を擧げた。その結果農民を打つ臧るはまだしも、姙娠した女の腹に上つたとか、女の尻から自轉車の空氣入で空氣を入れた等々と協和會で取り上げ、遂には參議府できまで問題にされてゐた。

この鐵土工作で七三、〇〇〇兩の阿片を集め、その結果民心を離反せしめ、中央からは行政が滲透してゐないからだと叱られてゐる時に、一方では公然と密輸出が行はれてゐた。康德六年度北支に於ては一兩三十餘圓までしたが、平均二十圓前後と云はれてゐる。熱河に於ける政府の收買價格は一兩二圓八十錢の時、密輸者の收買價格は五、六圓。値に開きがあるため密賣は當然である。然も現在熱河の民衆の生活が苦しいので、北支より人が來て札びらを切つて金を貸し、出來た阿片と交換して行くのである。

密輸には種々の方法がなされて居ることではあらうが、今此處に筆者が密輸專門の匪首より直接聞いた方法を記して見よう。

筆者が阿片密輸護衛の匪首某と對談したのは康德七年七月九日のことであつた。以下その會見記錄である。

寧城縣黑河頭道營子居住唐宋山・郭占忠・謝諸臣の三名は武器携帯の上、阿片の密輸に從事してゐたが、昨年隆化縣張家營子に於て官憲のため武器及び阿片を沒收せられてから、この匪首某と語らひ、彼の護衛のもとに密輸を續けてゐるのであるが、此の匪首の經驗せる中の最も小規模の密輸經驗を記して見よ

う。

(1) 主謀者　密輸常習犯唐宋山
　　匪首某(元滿洲國軍人)
(2) 出資者　唐宋山
(3) 被雇傭者　同村農民　一二名
(4) 携帶武器　短銃　二梃　彈丸　六〇發
　　長銃　一梃　彈丸　一〇〇發
(5) 阿片の入手　寧城縣黑河頭道營子及び附近の農民より阿片一兩(五〇グラム)五圓の割にて二、六五〇兩を現金にて收買し、一三、二五〇圓の支拂をなす(當時政府の牧買價格二圓五〇錢)。牧買後更に農民十二名を雇傭し、阿片を麻袋に入れて八名をして之を擔がせ、四名をして食料品其他を擔がせ、首謀者二名・農民十二名・計十四名にて頭道營子を發足す。阿片の牧買時その他に於て若し警察官に發見せられる場合は阿片一兩に就き二十錢の贈賄をするを以て普通としてゐる。
(6) 密輸經路　頭道營子——西大梁——三道溝門兒——張家營子(隆化縣)——大黑山——紅旗(灤平縣)——金溝屯——長沙玉——小口子(長城)——北支密雲縣大窩舖徐滿海宅——北京
　　彼等は夜間山間の路を選び、晝間は山間に寢を採り、時々民家にて食糧を調達しつつ密雲縣大窩舖の徐滿海の家に到着。阿片一兩に就き十五錢即ち三六〇圓を十二名の農民に與へて彼等を歸國せしめ、兩名の首謀者は一先づ阿片を其處に隱匿し置きて、兩名北京に到りて正式なる納稅手續をなす。
(7) 納稅手續
　1. 運照費　一八九圓二五錢
　運照費とは 阿片運搬許可書發給手數料にして、阿片一兩(滿洲の一兩は五〇グラムなるも、北支の一兩は三五グラムなれば滿洲にて 購入せる二、六五〇兩は北支に於て三、七八五兩となる)に付き五錢の手數料。
　2. 贈賄　一八九圓二五錢
　運搬許可書發給の手數料は交納せるも、係の官吏に對して一兩につき五錢の贈賄を必要とす。
　3. 自動車により阿片運搬費　七五七圓
　密雲縣大窩舖より北京統稅局を經て前門の阿片賣捌店たる土藥店までの運搬代は、阿片一兩に就き二〇錢。
　4. 警察派出所に對する贈賄　一八九圓二五錢
　阿片を自動車に積載して北京城門安定門に至り、そこの派出所にて阿片の量を秤り、運搬許可證明書の數量と照合し捺印を請ひたる後、一兩に就き二〇錢の贈賄。

5. 統稅　七五七圓

安定門より北京前門統稅局に至り統稅一兩に就き二〇錢の印紙を貼付。その阿片を卸店たる土藥店に運ぶ。

(8) 阿片の賣却

1. 土藥店の住所及び屋號

北京前門外珠寶市兒義和成土藥店

2. 土藥店に於ける手數料

土藥店に對しては阿片の保管と賣却とに對して阿片一兩に付き(阿片の質によつて異る)平均四五錢、即ち一、七〇三圓二五錢の支拂をなせり。

3. 阿片の賣却價格　五〇、七三五圓

一兩に付き　上　二〇圓

中　一九圓

下　一八圓

彼等の總賣却價格は五〇、七三五圓なりき。

(9) 阿片密輸出收支表

摘要	支出	收入	備考
阿片購入費	一三、二五〇・〇〇 円	円	一兩(五〇グラム)五圓にて二、六五〇兩購入
農民旅費	三六〇・〇〇		一兩につき一五錢の旅費、十二名分
運照費	一八九・二五		一兩につき五錢の手數料
賄賂費	一八九・二五		一兩につき五錢。運搬許可證發行者へ贈賄
阿片運搬費	七五七・〇〇		一兩につき二〇錢。密輸より北京土藥店まで
賄賂費	一八九・二五		一兩につき五錢。北京安定門警察官への贈賄
統稅	七五七・〇〇		一兩につき二〇錢
阿片賣却手數料	一、七〇三・二五		一兩につき平均四五錢
阿片賣却價格		六八、一三〇・〇〇	一兩につき平均一八圓
支出總計	一七、三九五・〇〇		旅費を含まず
差引收益		五〇、七三五・〇〇	

三、北支統稅に現れた密輸阿片

北支統稅局に於ける阿片に課せられたる統稅を見るに

民國二七年度　二四三萬圓

阿片

民國二八年度　一六〇萬圓

阿片一兩に就き二〇錢の統稅なるため、一六〇萬圓にて八〇〇萬兩の阿片となる。このうち密輸より輸入されたものは三〇五萬兩と明瞭になつて居り、殘餘四九五萬兩の阿片は熱河より密輸せられたものである。熱河より北支へ稅をかけられたる密輸阿片四九五萬兩の外に、個人密賣による國內外の密賣阿片は相當大量にのぼるものと思料せらる。

第八節　鮮人モヒ密賣者

此の大觀園內の辛じて自分だけを曳摺つて歩いてゐる亡者共に「ダニ」のやうに喰らひ付いて最後の一滴の血まで吸ひ續けて冷笑してゐる者に鮮人のモヒ密賣者がある。彼等は惡の神の極印を捺され、完全に貪慾と殘忍とに生れついてゐる。各木賃宿に忌はしい土蜘蛛のやうに網を張りめぐらして、自ら轉落して來る獲物を待ち構へてゐるのは此の鮮人のモヒ密賣者である。

(一)　政府發賣のモルヒネ及びヘロイン

現在滿洲國禁煙總局の奉天工廠では、鹽酸海洛因（エンサン・ヘロイン）と鹽酸嗎啡（エンサン・モルヒネ）の錠劑とを製造して、海洛因及び嗎啡として管煙所に於て賣却せしめてゐる。

錠劑一個の主藥含有量は

1　海洛因は〇・一グラムのヘロインと〇・一グラムの乳糖（一個の重量〇・二グラム）

2　嗎啡は〇・一グラムのモルヒネと〇・一グラムの乳糖（一個の重量〇・二グラム）

であるが、之を使用する時は、粉末にして水に溶して注射するか、粉末の儘使用するかである。（使用法については第四節宿泊人の嗜好・モルヒネの項參照）。價格は康德六年七月より一グラム（五錠）一圓で卸し、全滿管煙所で一グラム二圓五十錢卽ち一個二十五錢で賣却せしめてゐる。

(二)　鹿鳴の密仕入法

大觀園及びその附近に於ける麻藥密賣者は殆ど全部（四十軒の密賣者中、三十九軒は鮮人、一軒は滿人）を鮮人とするため、密輸入徑路は北鮮と北支とである。但し大觀園に於ける直接販賣者は、每日仕入れ來る點、然も賣却完了と共にその日は必らず休業する點、又は警察官の目を恐れてゐる點等より推察するに、彼等は決して直接密輸入に當る者にあらずして、國際的密輸入者の手より仲買人に、更に數人のブローカーと相當數の人手を經て仕入れ來ること想像に難くないのである。大觀園の密賣者を檢擧して手蔓を得て疾風迅雷的に大ぎ大ぎに卸密賣者を手繰つて行つても、大物に辿り着かぬうちに處置出來るやうに仕組まれてあるとのことである。密輸入者・密造者・販賣・徑路・聯絡・資金關係に就いては未調査なるも、大觀園その他に於ける政府發賣の麻藥を中心とする麻藥入手の方法に就いて見よう。

一、政府發賣麻藥買占め

鮮人モヒ密賣者

1. 以前政府に於てモヒ患者にモヒ吸飲許可證を發給せし際、傳家甸の警察官が一枚の許可證發給に就き、十圓より二十圓の贈賄を要求せしを奇貨とせし鮮人は、滿人モヒ患者にその贈賄資金を出資し、滿人をして自己の吸飲個數より多くの數を報告せしめて許可證を得せしめ、毎日その剩餘麻藥を集買する。政府の發賣價格一個二十五錢のものを滿人に買はせ、それを一個一圓で買ひ集めてゐる。

2. 滿人自身にて許可證を貰ひたる者も、皆その申立て虛僞にして、自己の實際吸飲個數より多き數の許可を得、甚しきに至つては全然吸飲せざるにもかかはらず許可證を得て毎日管煙所より購入して、それを直ちに他に轉賣して一家安樂に暮してゐる者もある。その密賣價格は一個に就き二圓なりしも、康德七年頭初より新にモヒ吸飲許可證を發給せざることになりたるため、二圓八十錢の高價に密賣され居る由なり。兎に角斯くの如きものも多くは鮮人の手に買ひ占められてゐる。

二、朝鮮總督府が民間をして製造せしめつつある代用麻藥を入手す

先に朝鮮總督府が阿片十年禁斷政策の失敗を糊塗するために(總督府では阿片癮者皆無と發表せしも、癮者は麻藥吸飲者に移行した)民間をして代用麻藥を製造せしめて現在もその發賣を許可してゐる。その原料は硝酸・ストリキニーネ・鹽酸・ジヒドロモルヒネ・靑酸・リユウサンアトロピン等であるが、滿洲に於てもその密賣者を鮮人とするため、以上の如き藥品が使用せられてゐる。

三、其他

熱河產の阿片が北支へ密輸出され、北支に於てその一部が麻藥に製造せられて、滿洲へ逆輸出せられたものが相當數あり。

(三) 密賣麻藥及び混合物

鮮人は以上の如き方法に於てモヒを仕入れ、それを原料としてそれに僞物の混合物を混入して量を增して販賣してゐる。

一、密賣方法及び價格

大觀園及びその附近に於ては、そのモヒの密賣は公然たる祕密であり、大觀園及びその附近の居住者の風態さへしてゐれば簡易に賣つてくれる。鮮人密賣の麻藥は大抵二包となつて居り、その一包は普通の粉藥の包位の大きさをもち(モヒ或はヘロイン)、他の一包は極めて小さく且つ少量のもの(プロカイン)である。此の小包のプロカインは五十錢包のモヒ或はヘロイン購入の時は無代贈呈と云つた形であるが、プロカインのみ單獨で購入する時は一包二錢である。

麻藥の代價は五十錢包以上、一圓包・二圓包等あり、購入量に制限を加へて居らない。包紙は粗惡な西洋紙或は新聞紙等を用ゐてゐるのもある。

尙此のプロカインはヘロインやモヒ丈を注射すると疼痛を伴ふため、これを混合して注射するか、若くは先づプロカインのみを注射して然る後にヘロイン又はモヒを注射するものである。鹽酸モルフインと鹽

酸ヘロインとは奉天工廠で製造して居るが、鹽酸プロカインは製造して居らないものである。

二、混合物

混合物として最も效果的なのはモヒ患者の死骸を燒いた骨灰であると云はれて居るが、普通彼等が量を增すためには左の如き混合物を用ゐてゐる。

ブドウ糖・鹽純粉・澱粉・乳糖・歯磨粉・石灰・硼酸・アスピリン・アンチピリン等であるが、その他高價ではあるがマンニットも使用することありとのことである。

附表　鮮人密賣モヒ分析表

（二十一軒のモヒ密賣箇所より筆者の購入せし麻薬にして一包五十錢）

	鑑定	顯微鏡	融點	Fe Cl₃反應	クロール水反應	ゾ反應	フーゼマン氏反應	マルキー試藥	フリヨーデ試藥
A	白色藥包紙	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
	新聞紙包	小葉狀結晶	156°C	−	+	+	−	+	−
B	綠色藥包紙	柱狀晶		+	−	−	+	+	+
	綠色藥包紙	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
C	新聞紙包	小葉狀結晶	155°C	−	+	−	+	+	−
D	綠色藥包紙	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
	新聞紙包	小葉狀結晶	156°C	−	+	+	−	+	−
E	新聞紙包	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
	白色藥包紙	結晶性粉末	156°C	−	+	+	−	+	−
F	白色藥包紙	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
	バラ色藥包紙	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
G	新聞紙包	小葉狀結晶	155°C	−	+	+	−	−	−
H	紅色藥包紙	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
I	綠色藥包紙	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
J	白色藥包紙	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
	新聞紙包	小葉狀結晶	155°C	−	+	+	−	−	−
K	白色藥包紙	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
L	バラ色藥包紙	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
M	白色紙包	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
	白色藥包紙	小葉狀結晶	155°C	−	+	+	−	−	−
N	新聞紙包	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+
	紅色藥包紙	小葉狀結晶	154°C	−	+	+	−	−	−
O	紅色藥包紙	結晶性粉末		−	−	−	+	+	+

鮮人モヒ密賣者

前項藥劑の購入箇所

	新聞紙包	紅色藥包紙	新聞紙包	綠色藥包紙	新聞紙包	白色藥包紙	新聞紙包	紅色藥包紙	新聞紙包	綠色藥包紙	新聞紙包	バラ色藥包紙	新聞紙包	
	P		Q		R		S		T		U			
A	−	+	−	−	+	−	+	−	+	−	+	−	−	小葉狀結晶
B	−	+	−	−	+	−	+	−	+	−	+	−	−	結晶性粉末
C	−	+	−	−	+	−	+	−	+	−	+	−	−	小葉狀結晶
D	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	結晶性粉末
E	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
F	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	小葉狀結晶
G	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	結晶性粉末
H	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	小葉狀結晶
I	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	結晶性粉末
J	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	+	−	小葉狀結晶
	155°C		155°C		155°C		155°C		155°C		155°C		154°C	
	小葉狀結晶		小葉狀結晶		小葉狀結晶		小葉狀結晶		小葉狀結晶		結晶性粉末		小葉狀結晶	
	鹽酸プロカイン		鹽酸プロカイン		鹽酸ヘロイン		鹽酸プロカイン		鹽酸プロカイン		鹽酸ヘロイン		鹽酸プロカイン	
	鹽酸ヘロイン		鹽酸プロカイン		鹽酸ヘロイン		鹽酸プロカイン		鹽酸プロカイン		鹽酸ヘロイン		鹽酸プロカイン	
	鹽酸ヘロイン		鹽酸プロカイン		鹽酸ヘロイン		鹽酸プロカイン		鹽酸プロカイン		鹽酸ヘロイン		鹽酸プロカイン	

以上

附號	住所	國籍	姓名
A	七道街水樁子	朝鮮	金
B	純化街八十一號	〃	金
C	五柳街大昌棧	〃	大昌棧主人
D	大觀園外東市場北横	〃	外號大力丸
E	長春三道街李家大院兒	〃	外號大結巴
F	〃	〃	白
G	大觀園二階興合棧	滿人	女（滿六十餘歲 鰥寡）
H	大觀園里北門內	朝鮮	包子舖の隣り
I	大觀園一階春林棧內北		
J	大觀園一階萬發棧		
K	大觀園階下春林棧		
L	大觀園二階興合棧		
M	大觀園二階慶順棧		
N	大觀園二階中興棧		
O	大觀園一階滿洲棧		
P	大觀園二階慶發棧		

鮮人モヒ常習者

Q	大觀園二階福德棧	〃	高
R	大觀園一階洪陞棧	〃	李
S	大觀園二階致中棧	〃	李
T	大觀園二階太平棧	〃	白
U	大觀里王子良卦館南隣り	〃	安

(四) 大觀園モヒ密賣者住所氏名(四十箇所)

モヒ密賣者住所氏名に關しては、特に調査せしものにあらず、只大觀園木賃宿止宿の連中が、普通に買ひに行く所を記するに止めて置く。上記の如く密賣箇所四十箇所中三十九軒までは鮮人にして、一軒は滿人である。

一、大觀園内に於けるモヒ密賣者

(1) 鮮人密賣者

1. 階下春林棧外北側の一室・金・家族持ち
2. 階下春林棧内・康
3. 階下興合棧内・洪・家族持ち
4. 階下萬發棧内・周・家族持ち
5. 階下滿洲棧内・白・家族持ち
6. 階下洪陞棧内・李
7. 階上德陞棧内・金・家族持ち
8. 階上中興棧内・鄭・家族持ち
9. 階上雙發棧内・韓・家族持ち
10. 階上福德棧内・高・家族持ち
11. 階上致中棧内・李・家族持ち
12. 階上太平棧内・白

(2) 滿人密賣者

13. 階上興合棧内・滿人女(六十餘歳になり、娘に淫賣させてゐる)

二、大觀里内に於けるモヒ密賣者(以下全部鮮人)

14. 大觀里北門内東側・氏名不詳・家族持ち
15. 大觀里東側王子良卦館南隣り・安・家族持ち

三、李家大院兒内に於けるモヒ密賣者

16. 東一階・北端・氏名不詳なるも渾名を大姑娘と呼んでゐる

17. 同一階・白
18. 北樓三階東端・金・三十餘歳。妻三十餘歳・子供三、四人あり、來住してより三、四年。康德七年六月十七、八日頃警察官のため家宅捜索せられ二百餘圓のモヒを沒收せられた。
19. 北樓二階・三番棧內・金・五十餘歳。本年正月開業。
20. 北樓一階東北角・李・三十餘歳。妻三十餘歳・娘十五、六歳。來住してより二、三年。
21. 西樓二階北端・安・三十餘歳。妻三十餘歳・男の子二名、十一、二歳と七、八歳。來住してより三、四年。
22. 西樓一階・金・夫婦とも二十餘歳。來住してより一、二年。
23. 同前金の隣り・白・四十餘歳。妻三十七、八歳・母六十餘歳・娘六、七歳。來住してより四、五年。
24. 東樓一階北端・金・四十七、八歳。五十餘歳の女と、四十餘歳の女と十七、八歳の娘がゐる。來住してより四・五年。
25. 同前南隣りの大障子門內・金・夫婦とも三十餘歳。男の子十三、四歳と五、六歳の二人。來住してより二、三年。
26. 北樓二階振祥棧內東端の一室・李・夫婦とも三十餘歳。今年六月二十一日新しく開業せしものにて賣れ行き良好（開業當時はモヒの含有量が多いので良く賣れる、廣告代りである）

四、其他モヒ密賣者

27. 大觀園北門外（長春街）北側煎餅舖の隣り二軒目・康・三十七、八歳。妻三十餘歳。來住してより二、三年。
28. 同前康の東へ二軒目・潘・三十二、三歳。妻二十七、八歳・男の子七、八歳。
29. 大觀園北門內を西に折れ、便所の所にある小路を北に進んで一軒目。白姓三十餘歳の女・女の子七・八歳。阿片とモヒの密賣、來住してより二、三年。
30. 大觀園南門內を西に折れ、便所の小路を進んで北側に小門あり。金・夫婦とも三十餘歳。阿片のみを取扱つてゐるが時々モヒもある。來住してより二、三年。
31. 大觀園南門外の東・水舖の東隣り、卽ち富錦頭道街二十一號、安・四十餘歳の女。男の子十一、二歳。來住してより五、六年。
32. 大觀園外東市場北樓・渾名を『大力丸』と呼んでゐる。姓氏不詳。
33. 同北樓二階西端・白・女の子二名、三十餘歳と二十餘歳、男の子二名、十三、四歳。來住してより一、二年。
34. 北七道街北端を西に折れ、昇平街の木板塀の所にある電柱の東に塀と同じ造りにて門あり。白・五十餘歳。鮮人男女十數名居住してゐる。來住してより七、八年。

鮮人モヒ密賣者

35. 七道街水樣子を西に折れた所・金・家族持ち。水樣子が彼の渾名になつてゐる。
36. 電車通り七道街西の北側・海成洋服店門内・白・夫婦とも三十餘歳。女の子二人、七、八歳と一、二歳。來住してより三、四年。
37. 電車通り九道街北側、黒の大門内。李・夫婦とも二十餘歳。男の子五、六歳。來住してより一、二年。
38. 正陽街西門驗兒内を南に折れた純化街八十一號・金・夫婦とも四十餘歳。男の子十一、二歳・女の子五、六歳。來住してより七、八年を經、極めて富有である。
39. 正陽二道街を南に折れ、更に西に折れた五物街の大昌棧。この木賃宿は鮮人の經營にして、宿泊人は必らず彼のモヒを買はせられる。彼は政府發賣の麻藥錠劑を一個二圓で收買してゐる。その一個に僞物を混合して十個のモヒを作製し、一個五十錢で販賣してゐる。

第九節　乞食

(一)　乞食組合の起源

支那に於ける乞食は古來より一種の職業とされてゐた。然も乞食には「丐幇」(KAI PANG)と云ふ乞食組合があつて、その發祥地は北京とされてゐる。

一、乞食組合起源に關する傳說

乞食組合結成の起源に就いては『某朝の皇帝が曾てその發祥前に於て乞食として此世に降つたことがあつた。然るにその後生れ更つて皇帝となつた爲めに、前世を思うて乞食組合の結成を勅許し、各戸に於て食を乞ふことを許したものである』と云はれてゐる。以上の如き附會的傳說には勿論根據のないものではあるが、この傳說には立派に皇帝に對する支那社會的理解の一班が暗示せられてゐるものである。そして乞食自身も亦自己の組合に就て、以上の如き傳說に依つて價値附けをなしてゐる點中々面白い。

二、北京に於ける乞食

北京に於ける乞食は一人の『大丐頭』(TA KAI T'OU 乞食の大頭目)が管理し、その部下に多數の小頭目があり、その配下に多數の乞食を擁して極めて嚴格な組織等級が規定せられて居り、その勢力範圍は實に廣汎に亙るものである。現地に於ける乞食がその指揮命令に對して絶對に服從を拂ぐるは勿論、縱へ外來の乞食にしても先づ、土地の頭目に仁義をきらねばならない。そのことを『化子拜桿兒』(HUA TZU PAI KAN ERH 乞食が木杖を拜する)と云つてゐる。

丐頭(乞食の頭目)は終身の職業である。その生活は極めて裕福であり、死後初めて後繼に新しい頭目が推擧されるのであるが、衆望厚く最も老齢の者が推擧せらるる資格があることになつてゐる。その他の乞食は大體年齢を以て順位等級を定めてゐるが、上級の方から順に『老大』(LAO TA 老は敬稱)、次を『老二』(LAO ERH)、その次を『老三』(LAO SAN)と云ふ風に呼稱せられてゐる。子供の乞食のことは一樣に

『徒弟』(T'U TI)と稱してゐる。

頭目は『幫』(PANG 組合)に對する絶大の指揮調停の權力をもち、甲乙の兩乞食に若し地盤爭ひ等のある時は、頭目が之を調停し、甲乙は必らず遵守することになつてゐる。頭目は民家に祝儀(結婚・誕生祝・開店祝等)又は不祝儀(葬式・法事)等のある時は乞食全體を代表して行き、その家格に應じて税金?を徴收するのであるが、例へば結婚祝等のある時、頭目は乞食全體の代表者として祝詞を述べに行く。その家では家格に應じて適當の金錢を贈る。金子を贈られた頭目は、その家の門口に『貴府喜事衆兄弟不得騷擾(御慶事に就き騷擾すべからず)』と書いて貼つて置く。從つてこの貼紙を見た乞食仲間は言ひ傳へて喜び事の終るまでは絶對にこの家の附近に汚穢な姿も現はさねば、まして金錢の强要等はしないのである。若しその家で金を出し澁つたり、惠まなかつたりする時は無數の乞食がやつて來て、結婚祝ひも何もあつたものではなく、到底一騷動や二騷動では治まりがつかぬと云ふ不祥な結果を招來することになると云はれてゐる。

滿洲でもその出棺に際して街を行進する時、數多くの恐しく不潔な男乞食が葬儀屋で用意してゐる葬儀用の衣服を一枚着用に及んで、旗幟や調度品等を持つてぞろぞろ行列を作つてやつて來るのに出遇はすであらう。あれも死者の冥福を祈るために數多くの乞食達に喜捨すると云ふ意味でもあるが、實は乞食達を履備することは彼等乞食達の邪魔を恐れる所からその防止と云ふのが一原因である。

(二) 傳家甸の乞食

この街の乞食には二種類あると云はれてゐる。その一は外來者の乞食であつて、個々に貰ひ歩くものであり、他の一つは乞食の幫(組合)に加入して幫規(組合規定)に從つて乞食をなすものである。但し今回の大觀園中心の調査に於ては、所謂この乞食組合に加入してゐる乞食には一人も出會はして居らない。從つて乞食組合に就いては一、二の乞食より直接聞いた話を記して置くことに止める。

傳家甸では乞食の頭目のことを『坐方的 TSUO FANG TI』とか、『桿兒上的 KAN ERH SHANG TI』と云つてゐる。『坐方的』とは頭目には一定の勢力範圍があつて、頭目はその一地方に坐つて指揮する爲めに斯く呼稱せられるのであり、又『桿兒上的』と云ふのは、桿兒とは木杖のことで、元來皇帝より賜つたもので、皇帝の聖旨を奉じて乞食達を管理するものなりと云ひ傳へられてゐる爲め、その木杖を持つ人と云ふ意味である。又その木杖は黄色(黄は皇帝の色)の絹布にて包まれて居り、常に頭目の家に祀られて居る。若し配下の者にしてその指揮に甘んじない者のある時、又は幫規を犯した者は此の木杖を以て打敲又は打殺して可なりとされてゐる。頭目になる者は土地の勢力者、無賴漢等がなると云はれてゐる。

彼等の生活根據は大體二つあるが、その一つは組合員個々の貰ひ歩きと掻拂ひとであり、今一つは民家に於て祝儀不祝儀のある際、その家では頭目を尋ねて行き、頭目に依賴して門番又はその家の周圍を警戒して貰ひ、若しその期間中その家に盗難遺失品のあつた時は、頭目は責任賠償をなし、その家では彼等乞

食達に食事・饅頭・酒代等を給することになつてゐる。

又「廟會」(MIAO HUI 綠日)がある時には、頭目はその廟の會頭の所へ行つて配下の乞食の員數を報告し、その廟の境内に於て乞食をすることを許可してもらひ、その代りに綠日開催中その境内に何か面倒な事件——喧嘩・盜難等——が發生した場合は、その頭目は配下の乞食を動員して調停に當り或は遺失品の搜索に當り、若し盜品が發見せられざる時は頭目よりこれを賠償するのであるが、但し遺失後三日を經たるものに就いては責任を負はぬことになつてゐる。

以上は集會綠日等のある場合のことであるが、通常日に於ては各配下の乞食は一定の縄張り内を各個に貰ひ歩き或は掃拂ひをなし、その日の獲物はその日の中に全部頭目に差出し、頭目より更に頭目の意思に依つて多少の分配をなし、それに對しては各乞食は絶對に服從するのである。同一組合加入の乞食が途上に於て危險に遭遇して居る時は身を以て救助することになつて居る。又乞食が病氣せし時は全員に於て責任分擔の上、藥の購入、飲食その他一切の面倒を見てやることになつてゐる。乞食の死することを「倒臥」(TAO WO)と云ひ、從來は彼等仲間の者にて、之を埋葬してゐたが、現在ではその大部を市に引渡してゐる。

その他、外來の乞食が自己の地盤内で貰ひ歩いたり、掃拂ひをなしたりする時は彼を「吃生米兒的」(生米を噛じる奴)と云つて、若し組の者に捕らへられる時は物凄い打擲を受けると云はれて居るが、筆者の

調査した範圍内に於ては、以上の如き意味に於ては縄張りもなければ、敵かれた者もなく、隨所隨時貰ひ歩き掃拂ひをなしてゐる。

(三) 大觀園を中心とする乞食

大觀園を中心とする乞食は、組合に加入せずして個々に隨時隨所貰ひ歩き又は掃拂ひをなす者である。

此處では一切のかりそめの同情は役立たない。とどのつまりは幸福が彼等を見捨てるのではあらうが、それ迄彼等は自分達の生活を充分樂しんでゐるのであるから。そして又この大觀園の世界に於て最も人間に近く最も善良なのは彼等なのであるから。

此處には乞食と乞食相手の商賣をやつてゐる者がある。そしてこの彼等の巢の一つは大觀園及びその附近の木賃宿である。滿洲語で乞食のことを「花子」(HUA TZU)と云ふのであるが、木賃宿で「〇〇花店」と看板を出してゐる所があるのもその爲めである。

先づ傳家甸の大通りを駈足で素通りして見よう。

二道街三號布匹雜貨店震亞商店の門前に眞横に寢そべつて、店への往來を止めて因業に金錢を强要してゐる獰猛な奴が目につく。正陽街の舖道で擦り切れて干からびた三人の子供達を抱へて「夫を尋ねて遙々——哈爾濱まで來たが……」と憐憫を訴へてゐる女乞食。南六道街の電車の停留所の泥塵の中に土下坐を

しながら『可憐々々我』(お憐み下さい)と驢馬の如くに咆哮してゐる女乞食。その他、戸毎に立つて重々しい吐息をつきながら憐愍に叫び續けてゐる醜穢な乞食。モヒが切れたのであらう、物に魘かれた宮守のやうに路傍の泥土に喰らひ着いて踠いてゐる乞食。腐爛した脚を舗道に投出して、それを賣物に貰つてゐる乞食。日當りの良い舗道で日向ぼつこをしながら虱を喰つてゐる乞食。電車や自動車の停留場で煙草の吸殼を集めてゐるゆかしい乞食。ブリキの空罐にドロドロの殘飯を入れて、物忘れでもしたやうに人混みの間をヒヨロヒヨロやつて來る乞食。道端の溝水にモヒでも溶いて注射したのだらう、全身殆ど化膿してドブドブしてゐる體をボリボリ搔いてゐる乞食等々。兎に角此等は傅家甸の大通りを眞直ぐに歩いた丈でふんだんに見らるる情景である。要するに彼等も燃え朽ちて自ら涸渇するまで此の街頭に思ひ思ひの姿を曝すのではあらうが、漢民族的な社會として畸形的な發育を續けて來たこの傅家甸としては極めて自然的な點描である。

次に簡單に目に觸れた乞食に就いてその種類と態樣と技巧とを素描することにする。

(四) 乞食の種類・態樣・技巧

一、數來寶(スウライバーオ) SHU LAI PAO

彼等は極めて簡單な器物を器用に手で鳴らし、調子を取りながら、それに合せて句調の良い文句をたて續けに喋り散らすのである。彼等は多く人通の多い商店の前に立つ。人足が彼を取圍んで止る。そこで彼のお喋りが始まる。支那人の『面子(メンズ)』(MIEN TZU)に訴へてせしめようと云ふ寸法だ。乞食の口から迸り出る言葉は、その場その場の情景にぴつたりとした文句が撰ばれ、思はず微笑まれるやうな語句が次から次へと續く。金を惠みさうな主人には、文句の中に

『掌櫃的長的怎麼那麼白・將來一定大發財』

(番頭さん何うしてそんなにお色が白い、今にきつと大儲け)と入れ、太つた肉屋の主人を見れば

『掌櫃的胖敦々・一瓣屁股有半斤』

(丸る丸る太つた番頭さん、お尻のお肉は一摑み半斤)等と仲々如才がない。そこで肉屋のデブ公も遂々銀貨の二つもせしめられると云ふ寸法だ。ところが喋つても喋つても鐚一文も出さぬやうなけちん坊に出會ふと、俄然猛烈な惡罵が奔流する。

『掌櫃的長的怎麼那麼黑・將來總得挨一回 K'EI』

(番頭どんお前は何うしてそんなに黒い、今にきつと指でくじられるぞ)とやられ、更に

『掌櫃的長的怎麼那麼峭・將來總得挨一回肏』

(番頭どんお前何うして そんなに 極道だ、今にきつと鷄姦せられるぜ)と罵り、それでも出さぬと罵言は益々烈しくなり止めどもない。

『不給財・我不來・剩下了錢買棺材!』

(呉れなけア儂ア來やしない、金を剩して棺桶でも買へよ！)とやり、

『你不給・我不乞・看你子死急不急？』

(お前が呉れなけア儂は貰はん、慌てなさんなお前の子供が死にますぞ)と來る。

『唉！掌櫃的・你別生氣・早給一個早々去』

(おい、怒りなさるな番頭さん、早く呉れりア早よう歸るのに)と續く。始末に了へない。結局『與へよさらば去りなん！』である。

數來寶はその用ゐる器物に依つて次の三種に分類せられる。

1. 牛胯骨(ニユウコワグー) NIU K'UA KU

劉貧嘴(リユウピンゾーエ)(劉は姓・貧嘴とは貧乏口と云ふ程の意、外號である)、關內人、三十餘歲、瘦型で小柄、顏色が青黃色、頗る怜悧。左右の手に持つた長さ一尺位の牛の腰骨を器用に搖つて拍子を取りながら、調子のよい文句を立て續けに喋るのであるが、その時骨の端に着けてゐる銅鈴と色彩りの鮮明な絹布が舞つて心よい伴奏をかなでる譯である。その時骨は『吉瓜吉(ジゴワジ)』(CHI KUA CHI)と鳴り、鈴は『花冷々(ホワリンリン)』(HUA LÊNG LÊNG)と目出度い音響を傳へると云はれてゐる。

傅家甸大羅新百貨店の門前で歌つてゐた文句を書いて見よう。

『骨板一嚮新又新・邁步來在大羅新・大羅新百貨店・東西各國把貨辦・西洋綾羅紗・南京辦的是綢緞・東洋海

產物・北京辦的是布綿・各處貨物俱辦到・滿洲貨物也辦全・掌櫃的日進斗金大發財源』

2. 刮竹板(ゴワズーバーン) KUA CHU PAN

汪大肚子(ワンダードウズ)(汪は姓・大肚子はでつぷり腹、汪の腹でつぷ位の意)、吉林人、三十餘歲、肥大漢、容貌赤黑く、時々おどけた姿態で人を笑はす。右手に竹板(二板の竹板の一方の先端を紐で結んでゐる、觸れ合はして音を出させるやうに作られてある。)を搖り、左手に小さい竹板(矢張り二枚か三枚の小さい竹板の一方の先端丈を紐で結びつけて一方は自由に動き、相觸れ合つて音を出す)を搖つて、大小二樣の竹板の觸れ合ふ音色と調子に合せて例の調子で喋り出すのである。

『敲竹板邁大步・眼前來到切麵舖・掌櫃的要大刀・一窩絲盤壽桃・要說桃淨說桃・年年有盤桃會・盤桃會在三月三・白猿偸桃就在雲蒙山・雲蒙山上鬼谷子・鬼谷子看守桃園就在雲蒙山』

『那邊給了這邊來・掌櫃的買賣大發財・你發財吾占光・一年四季來拜望』

『那邊給了・這邊又來・掌櫃的買賣大發財・拿起算盤算一算・那年也賺幾百萬・要飯的也會算・算來算去要了飯・掌櫃的給了吧・傻子的希望沒多大』

3. 敲飯碗(チヤオファンワン) CH'IAO FAN WAN

毛淘氣(マオタオチ)(毛は姓、淘氣は徒ら者と云ふ程の意)、奉天人、十六、七歲、中肉中背、容貌黑く擧動活潑、態度極めて奇嬌に富む。頭髮が額に亂れて、頰には白粉かメリケン粉をなすり着けてゐる。

片手に數個の茶碗を持ち、その茶碗と茶碗を巧妙にぶつつけながら調子を採つて囀り出すのである。

「敲飯碗響丁鐺・淘氣兒來在了大飯莊・先把大司務說上一說・餃子麵條做的好・要說麵孚說麵・和出來一個彈・桿出來一大片・切出來一條線・你說好看不好看・掌櫃的到年底把賬算・洋錢賺了好幾萬・掮到家買地田修宅院・親戚朋友來把你看・光宗耀祖多好看・淘氣吾好話說了多半天・掌櫃的終是不開端・你不給吾知道・淘氣好話無有說到・掌櫃給了吧給了吧・淘氣工夫沒有多大・一個銅子值甚麼・說的掌櫃一勁笑・伸手拿出洋錢票・給了淘氣吾一張・馬上吾就去喝麵湯・掌櫃你發財吾占光・你吃乾的吾喝湯・一拜君二拜臣三拜掌櫃的大量人・掌櫃的不用厭給吾銅子吾就走・掌櫃的不用看給了吾就滾蛋・說的掌櫃的把恩開・一個銅子拿出來・保祐掌櫃的一年四季多發財」

以上で大體三種類の數來寶に就いて說明を終つたのであるが、最後に今一つ彼等の屬言を記して置く。

支那人の所謂「先禮後兵主義」がよく現はれてゐる。

「淘氣好話說了千千萬・掌櫃的還覺着不上算・掌櫃的你不給我不要・細聽我把你的尊容說上一道・掌櫃的長的怎麼那麼白・一定指着臉子發洋財・唉！掌櫃的臉子怎麼那麼黑・不久必得挨回扣・唉！掌櫃的臉子長的怎麼那麼俏・終久必得挨回會！」

二、唱小調兒的 CH'ANG HSIAO TIAO ERH TI

長春頭道街の路上に「聲」と云ふ文字を白い粉で

聲

（双勾字と云ふ）と書き乍ら人を集めて、北京の太平歌詞を歌つてゐた男。齒切れの良い北京の發音である。名前を聞いたらニヤリと笑つて答へない。

三、唱唱的 CH'ANG CH'ANG TI

崔雜拌（崔は姓、雜拌とは混ぜこぜと云ふ意、あだ名である）、濱江省の者とか、四十餘歲。右手に硬い木板二枚を持つて器用に調子を取りながら各商家各住家の前に一軒一軒立つて各種各樣の芝居の歌や臺詞やら、果ては小曲、俗歌等々お望みに應じて歌ふのである。その歌曲が多種多樣な所から「雜拌」（TSA PAN）と渾名されてゐるのである。

四、排刀 P'AI TAO

張大傻瓜（大馬鹿張位の意）、關外人、五十餘歲。正業なく賭場荒しの無賴漢。民衆の蝟集場・賭博場・娛樂場・廟祭等の際、諸肌ぬぎとなり手に短刀（錆びついて光つた所が少しもない）を持ち、双腕に力をこめ呼吸を計つて胸間を撲つのである。撲つて撲つて撲ちまくり、彼の眼光は怪しく光り、額は汗に汚れ、撲たれた胸間の肉は見る間に腫れ上り、紫黑に變じてゆく。彼の腕にはものゝけに魘れたかの如くに猶も力がこめられる。壓し潰されたやうな陰慘な音。それは肉の腫れ上る音である。

「老爺！ LAO YEH 太太！ T'AI T'AI（旦那樣！奥樣！）」撲ち疲れ苦痛にゆがんだ彼は賭場の中か

らでも絞り出すかの如き拳を出して初めて群衆に哀訴する。誰からともなく銅銭が、銀貨が放り投げられる。一しきり投げ終つたのを見すまして彼は再び短刀を振り上げて又もや撲つ姿勢を採る。その物凄い姿勢に促されて再び金が放り投げられる。彼は彼の豫想する金額を得るまで皮を撲ち肉を破り續けるのである。かくして彼は「有難う」も云はずに地上の銅貨や銀貨を攫き集めるのである。

ずつと後で聞いたことではあるが彼は例の短刀で太平橋の賭博場を荒して警察の厄介になつたとか。

五、打磚 TA CHUAN

趙老蠻子（趙は姓、蠻子は野蠻人と云ふ程の意）、龍江省人、五十餘歳、盲目、頭部は禿げ上り常に鼻汁を垂れ流してゐる。人波で路が埋まる程の人道に跪坐して、前方に金錢を受ける破れ笠を置き、煉瓦のかけらを兩手に持つて胸・背・頭・腹と所嫌はずぶち續け、神經がずたずだに碎けたやうな聲を出して「老爺・太々們・少爺・奶々・小姐們哪！捨給我這瞎眼殘廢人一個錢吧！」（旦那様・奥様方・若旦那様・お祖母様・お嬢様方！盲目で片輪な私にお恵み下さい！）と言ひ、續けて「唉！」（AI）と嘆聲を洩らし、再び煉瓦で體をぶち續けるのである。

六、背褡子 PEI TA TZU

王小五、關外人、五十餘歳。麻袋を肩にだらりと掛けて、戸毎に貰ひ歩き食物たると品物たると一切合財此の袋の中へぶち込んで歩き廻るのである。この種の乞食は大抵乞食の親分を持つてゐるのが普通であるが、彼等には仲間約束があつて決して「老爺（旦那様）」とか「太々（奥様）」と云はない。「大叔」（叔父さま）とか「嬸子」（叔母さま）と云ひながら貰ひ歩くを普通とする。これが此の背褡子の幇規（組合規約）だと云はれ、これによつて同類を知り、危難を相互幇助し合ひ、若し幇規を犯せし時は乞食の頭目に罰せらるるとのことである。

七、日落西 JIH LAO HSI

黄瞎子（瞎子は目盲）、三江省の者、六十餘歳。毛の抜けた病馬のやうにひよろひよろしてゐる。兩眼失明、竹杖をついて探り歩きをしながら「發財行好善心的老爺太々們呀！可憐瞎子吧」（お金持の優しい旦那様や奥様方！盲をお憐み下さいませ）と草帽子に金錢を受けてゐる。

八、打玉蜀 TA YÜ KU

孫 拐子（跛の孫）、土地の者にして四十餘歳。痩身長軀。手に直徑三寸位、長さ二尺位、底を皮にて貼りたる竹筒をもちて指先にて器用に彈いて小唄を歌ふ。施しても有難うも云はねば、施す者がなくとも怨みも云はず、跛を引いて去る男。

九、翻太歳 FAN T'AI SUI

馬老巧（年老乞食の馬）、黒河生れ、六十餘歳。惨めに彎曲した體と手足の癩疾を賣物にして、終日汚泥の中に身を轉しながら、怯えた聲で「行好吧！」（お恵み下さい——善いことをしなさい）とか「積德吧！」

（徳をお積みなさい）『噯呀！』と哀訴してゐる。痩せて乾らびた子供が一人つき添つてゐて錢や食物を集めてゐる。

一〇、獨眼龍 TU YEN LUNG

于狼子（狼の于乞食）、雙城縣人、四十餘歳。病みぼうけて首が膛の上で垂直にならない。一眼には眼球なく、一眼は白濁して失明と自稱してゐる。小供等に徒らをされて見えぬ筈の片目を見開いて竹杖を振り廻した爲、子供等は獨眼龍とからかつてゐる。小供を目の仇にしてゐる男。

一一、叫街 CHIAO CHIEH

萬老婆、關外人、六十餘歳。痩せさらばへて毛の拔けた鬪鷄を思はせる容貌。半白の頭髪は汚物で固つてゐる。眼は白濁して、皮の集つた首をしよつちゆう振つてゐる。右手に竹杖をもち、左手にブリキ罐をぶら下げ『積徳行好的老爺太太們呀！有吃不了的殘茶剩飯賞給我一碗半碗吃吧！可憐々々我這無依無靠的苦老婆子吧！』（惠み深い旦那様奥様方！飲み殘し食べ殘しの御飯やお茶を一碗でも半碗でもお願ひ致します！依る邊のない婆をお憐み下さい！）とか『絶忘不了你老們的好處哇！』（決して御厚意は忘れません！）等と恐ろしく長い文句ではあるが、鵝鳥のやうに切れ切れに痛ましい聲で貰ひ歩く。死臭がこびりついてゐる。

一二、駝石頭 T'O SHIH T'OU

張禿子（禿の張）、安東人、三十餘歳。彼は四十餘歳になる盲目の女乞食を背負つてゐる。女乞食の脚部は襤褸でくくられてゐる。彼等は終日往來に呻吟して憐みを乞ふてゐるが、彼等が云ふが如く二人は決して親戚でも何んでもなく、臨時合作である。

一三、墊木手 TIEN MU SHOU

呉癱子（癱子とは麻痺症にかかつた者のこと）、吉林人、五十餘歳。瘋癱を患ひ、行動不自由、兩手に小さい木塊を握り、人波の脚の下を浮浪犬のやうに這ひ廻つて貰ひ歩く。

一四、看照壁 K'AN CHAO PI

劉某、黒龍江省人、四十餘歳。生れて初めて汽車を見た途端に兩足を軋き落されたうすのろの男。傷口を汚れた布で卷いて膝で人波の中を泳ぎ廻つてゐる。

一五、賣凍 MAI TUNG

周聾子（つんぼの周）、關外人、四十餘歳。軀幹は骨張つて落葉樹の幹を思はせるやうに乾枯らびて細長い。ボロボロの薄い衣は體を包み兼ねて持て餘してゐる。三、四歳になる痩せ枯れた女の子を抱いて、後には六、七歳になる一人の男の子が附いてゐる。襤褸衣で腰を卷いて居り瘡で頭の皮が厚くなつてゐる。彼等の上半身の所々が襤褸衣の中からはみ出て、この寒さに凍りついてゐるのであらう。暗紫色に腫れ上つて鼻汁が今にも凍りつきさうだ。

彼等三人がコンクリートの人道に重りあつて呻吟する哀訴の聲は、そのまま三月の寒空に凍りついて中々見向きをして呉れる人すらない。然し假令へ彼等に若し衣を惠んで呉れた人があつたにせよ、その衣は直ちにたたき賣られてしまひ、彼等は再び昨日の姿を街上に曝すことであらう。

一六、裝要死（ズワンヤオスー） CHUANG YAO SSU

趙程氏（趙も程も姓、程と云ふ姓の女が趙と云ふ男と結婚せし時斯く稱す）、興安省人、五十七、八歳の老婆、衣服がきちんとしてゐる。毎日路傍に倒れて鼻汁と唾液を流し、氣息奄々の態。傍に一人の三十餘歳になる女がゐて、思ひ出したやうにその老婆に取り縋つて泣き出すのである。老婆はその女の伯母であり、その老婆は夫を尋ねて哈爾濱に來り、路銀を使ひ果し病を得て宿を追ひ出され、身邊頼る可き人とてなく、慈善家の手に拾はれんとするうちに病愈〻重く、今まさに他郷に死なんとする……と云ふ觸れ方である。所がこの婆さんは一年も前から毎日『今まさに死なんとしてゐる』のである。

一七、裝病（ズワンピン） CHUANG PING

閻張氏（張と云ふ女が閻姓の男と結婚した時かく云ふ）、黒河省の人、三十九歳。顔色は黒く黄色く枯れてゐる。頭髪は薄くまばらに汚れてゐる。歪曲した牙が唇の外に剝き出されて形相仲々に物凄い。彼女は路傍の程良き箇所に陣取つて、眼前に三尺四方位の白紙を擴げてゐる。人が通つても通らんでも金を呉れても呉れんでも襤褸切のやうな首を下げながら、『謝々（シエシエ）！謝々（シエシエ）！』を繰り返へしてゐる。その紙には次の如き文句が書かれてある。

『妾閻張氏於三年前來哈尋夫、不料夫已病故、川資用盡、兼患牙病至今難癒、叩乞仁人君子慈心幇助、來生結草啣環必報

黒河省烏雲縣張家莊人　閻張氏拜懇』

一八、裝痛苦（ズワントンクー） CHUANG T'UNG K'U

李王氏（李と云ふ男と結婚した王）、牡丹江省人、四十餘歳。ひき蛙のやうな女。罐詰の空罐と一本の棒切を身近においで終日賑やかな街角に寢て呻吟するのが彼女の十八番である。例に依つて鼻汁と唾液とを流しながら手を振り、體をよじらし熱にでも攣えたやうに懊惱惑亂を裝ふのである。

一九、裝哭（ズワンクー） CHUANG K'U

金六十、綏化縣人、三十餘歳。彼は毎日兩手を襤褸切かなぞのやうにぶら下げて、小路たると、大通りたると、通行人たると戸毎たるとを問はず腹中食なし一點張りで一日中泣き歩くのである。涙も出ず嘘泣きであることを知つてゐる子供等は『乾打雷不下雨（から雷で雨降らず）』とからかつてゐる。

二〇、裝啞吧（ズワンヤーパ） CHUANG YA PA

韓啞吧（ハンヤーパ）（啞吧は啞のこと）、何處の者か不明、二十餘歳。手に大きな鐵製の鈴を持つて振り動しながら、人を見れば『アウ・アウ』と憐みを乞ふのであるが、人々は皆彼は佯りの啞であることを知つてゐるので相

手にしない。殊に彼は小學生を見ると、さつさと河岸を更へてしまふのもそのためである。頭の毛が擦り切れた鞋ブラシのやうに汚い。

二一、裝幌子（ズワンシャーズ） CHUANG SHA TZU

劉混虫（リュウホンチュン）（混虫は馬鹿虫）、安東人、十九歳。體が太つて、顔が四角で、蓬髪は方に目を蔽はんとしてゐる。人を見れば男女老幼の見境なく、馬鹿面に馬鹿笑を浮べて「大叔你給我點錢吧」（いくらかお恵み下さい）を連發するのはまだよいとして、こ奴は通行人の袖を摑んで金を強要するので皆に嫌はれてゐる。打たんとするとさつと飛び退いて狂人のやうにゲラゲラ笑ふあたり、中々賢いものである。彼は通常小さい破れ廟に寢起きしてゐるさうであるが、何時か警察に連行せられて二三日豚箱にぶちこまれて歸つて見ると、彼のこの三年來粒々辛苦ためた百三十圓の金は、何人かのために盜まれてしまつたとのことである。彼は私に「沒法子（メイファーズ）々々々」と云つて又ニヤリとうすのろのやうに笑つてゐた。

二二、裝拐子（ズワングワーズ） CHUANG KUAI TZU

郭三腿（グオサントイ）（三腿とは三つの足と云ふこと）、奉天人、三十七歳。右腋に一本の木を挾んでゐる。右足が惡いのだ。松葉で右足を包んで歩く時は右脚を地面から一、二寸離して跛を引いて歩くあたり中々本物である。彼は宿を出た途端から跛になるのであるが、一日稼いで歸宿して門をくぐつた途端からやれやれと脚を伸して寢るのである。目付きが痩せて骨張つて蒼白い印象だ。そして彼は土塊のやうに不機嫌に押し默つてゐる男である。

二三、淫賣乞食

1. 周氏、四十餘歳。大觀園北門外李家大院、双蔭棧止宿。色黒く、小柄で盲目。彼女の夫は前年死去。二十餘歳になる悴は苦力に應募して家を出たつきり音沙汰がない。彼女はモヒの妙味を知つたので男が欲しく誰彼の見境なく淫賣する。昨冬より五十餘歳になる乞食とくつついて、この男乞食を養つてゐる。

2. 李氏、關外人、五十餘歳、双蔭棧止宿。背丈高く、痘痕面、目脂と膿汁で腐りかけた鰊のやうな目をしてゐる。彼女の趣味はモヒを吸ふこと、亂を潰すこと、淫賣すること。

3. 張氏、關内人、四十餘歳、双蔭棧止宿。小柄で梅毒で腐蝕してゐる。彼女の身體に關する限り未だ所有權が確立してゐない。誰彼の見境なく淫賣し、その淫賣で得た金を次から次へとモヒ代にしてゐる。宿代を支拂はぬために、四、五日前宿を追拂はれて、目下松花江の堤防の下で淫賣してゐるとか。

第十節　盜品と盜品處理

(一)　物品收得樣式

飢ゑが人間の權利である以上、然もこれをノーマルな方法で充すことが拒絶されてゐる以上、當然のこ

つてゐる男である。

とであるのかも知れないが、それにしても此處の連中は實によく盜む、剝ぐ、奪ふ、殺戮する。

一、搔拂ひ

(1) 大把兒抓 TA PA ERH CHUA 手當り次第搔拂ふ者
(2) 大把兒錢 TA PA ERH CH'IEN 同前
(3) 閃亮子的 SHAN LIANG TZU TI 夜明けに搔拂ふ者
(4) 猾燈花兒的 CH'IA TENG HUA ERH TI 日暮頃の搔拂ひ
(5) 溜門子的 LIU MEN TZU TI 訪問客を裝つて搔拂ふ者
(6) 吃老鐵的 CH'IH LAO T'IEH TI 自轉車專門の搔拂ひ
(7) 吃大輪兒的 CH'IH TA LUN ERH TI 汽車の箱乘り專門

二、掏摸

(1) 小緒 HSIAO LI 掏摸
(2) 扒手 P'A SHOU 同前
(3) 老二 LAO ERH 同前
(4) 高買 KAO MAI 萬引
(5) 二仙傳道 ERH HSIEN CH'UAN TAO 二人組の掏摸

三、詐僞

(1) 丟包兒的 TIU PAO ERH TI 二人組の風呂敷包を以てやる詐僞をする者
(2) 吃假案子的 CH'IH CHIA YIE TZU TI 僞造賣札を以て買物をうけとりに行つたり、又僞造賣札を以て買物を請け出し、その後本物の賣札を以て質に行つたりする者のこと
(3) 賣假藥的 MAI CHIA YAO TI 僞藥賣
(4) 賣假人蔘的 MAI CHIA JEN SHEN TI 僞人蔘賣
(5) 賣假首飾的 MAI CHIA SHOU SHIE TI 僞金銀細工物賣
(6) 吃轉心子的 CH'IH CHUAN HSIN TZU TI 僞時計賣
(7) 使假楚的 SHIH CHIA CH'U TI 僞造紙幣使用者
(8) 吃老蔫的 CH'IH LAO MI TI 二人共同でやる詐僞
(9) 打虎的 TA HU TI 美人局の一種
(10) 放鷹子的 FANG YING TZU TI 美人局の一種
(11) 仙人跳 HSIEN JEN T'IAO 女で男を騙して物品をまきあげる者

四、强請・强盜

(1) 强盜 CH'IANG TAO 强盜

(2) 撰子錢 TS'UAN TZU CH'IEN 四、五人共同の强盜
(3) 鑽進盜出 CH'IEH CHIN TAO CH'U 居坐り强盜
(4) 吃橫兒的 CH'IH HENG ERH TI 匪賊行爲に類する者

五、その他賭博、暴荒し等によつて物品を收得してゐる。

要するに、彼等は皆一樣に今日一日に於ける自己の生命の持續のために盜み、搔拂ひ、果ては他人の衣服を剝ぎ、生命までも奪ひ取るのである。大觀園の存續する限り彼等は永久に盜み剝ぎ奪ひ且つ殺戮をなし續けることであらう。

(二) 搔拂ひとその生活狀態

大觀園及びその附近の木賃宿宿泊者の大半は搔拂ひである。この搔拂ひ達は二樣の分子に依つて構成せられてゐる。その一つは人間の世の中から散々打ちのめされ、一樣にこの大地から締出しを喰はされ、街の浮浪者として埃の場末を散々ほつつき步いた擧句、偶然この宿でめぐり合せた連中であり、他の一つは初めからこの大觀園に於て言てば無賴漢・博徒・半强盜・强請・恐喝・掏摸等々として、大觀園附近の安定勢力として存在してゐた連中で、その自らの惡道に疲れ果てた姿がそれである。

此等の打ちのめされ、去勢され、疲れ果てた彼等に一應の希望を與へるものはモヒである。從つて彼等は一樣に靑黑く痩せこけ、申し合せたやうにモヒ患者である。彼等が灰色に濁つた眼だけを陰慘に光らし

て、手當り次第搔拂ひをする頃には、その人間らしい良心はとうの昔にモヒに換算してしまつて、今では感情も肉體も擦り減るによいだけ擦り減らして、ほんの僅かばかり殘つてゐる痩せ枯れてしまつた自分を種にして搔拂ひに出かけるのである。

激しい饑餓に襲はれつつ嘔吐を催すやうな芥箱の中から野良犬の食ひ餘した食物を尙も漁つてゐたり或は手當り次第搔つて空腹を滿してゐるのは未だ可愛い連中である。闇に憤らされた目をぎよろつかせながら不氣味な爬虫類のやうに夜の街の蔭から蔭を傳ひ步いて麻藥が手に入るまで搔拂ふ執拗な奴。泥沼のやうに澱む月夜の墓場を漁る棺桶專門の男。果ては病み疲れて垂死の蛇のやうに屋內を匍ひまはる病者に喰らひ付いて衣を剝ぎ取る無數の手。その他三、四人組合つて道裡の石灰屋その他から麻袋——一枚七、八十錢に賣れる——のみを專門に盜み、一人一晩四枚か五枚づつ盜むことに定めてゐるゆかしいのや、紙屑籠を背負ひ步きながら適當な獲物を物色して搔拂つた上、その盜品を紙屑の中に匿して持ち歸へる智能犯や、ボロ買ひの眞似事をしながら手當り次第搔拂ふ奴等々種々雜多な搔拂ひがゐる。然しこの大觀園の搔拂ひの中で最も裕福な奴は、春林棧止宿の一見六十四、五歲に見える、その實五十を幾つも越してゐない親爺である。彼は泥色に痩せこけてゐるが、その割りに目だけが光つてゐる。モヒの顏である。人生の所有る身勝手な道樂が彼を餘計憐憫にそして陰鬱に見せてゐる。然しこれが彼の唯一の資本なのである。彼は宿を出た途端から實に細々と、まるで影のない魔物のやうに步ひのである。彼が搔拂つて來る盜品は鍋・

鴉・魚・豚饅頭・饅頭・鹽・メリケン粉・衣服・家具等を實に廣汎に亙つてゐる。彼は昨日も金持の婆さまを騙して——息子を探すに哈爾濱まで來たが病に犯され、賴みとする息子も探し當てられず、歸國したくも金が無い。修德の人にめぐり合つたなら、せめて饅頭でも澤山裏んで戴いてそれを食べながら歸國したいと涙ながらに訴へたといふことである。勿論此奴目が婆さまをくどいた時には、婆さま以外に澤山な聞き手がその場に居合せたことを忘れてはいけない。支那に於ける慈善行爲は總て聽き手と觀衆とを必要とする。婆さま及びそれを取圍む觀衆にも、此奴めまた根も葉もない嘘をついてゐやがると云ふことは、明瞭に解つてゐるのではあるが、大衆の中で婆さまが見込まれてその「面子」(MIEN TZU)に訴へられて合法的に慈悲を强要せられた以上は、それを拒否することは支那社會の秩序が許さないのである。此奴めお芝居を打ちやがつてと云ふことが相手に解つてゐながらも、その相手も亦何等の躊躇なしに、お芝居の相役を立派に勤めをはせて、然も些かの不自然もないのが支那社會の一斷面である。——婆さまは此の老爺を救ふためにではなく、自分自身の「面子」(MIEN TZU)に對する當然の稅金として優しい數々の言葉と共に澤山の饅頭とを惠んで與れたことも事實である。觀衆は婆さまの行爲を功德だ等と見る者は一人もなく、乞食の老爺と金持の婆さまとの間に演ぜられる極めて自然的な僞芝居に放心したやうに吸ひ付けられてゐるだけである。そして又この澤山の饅頭を惠まれた老爺は、その時、その場に於て、瞬く間にその饅頭を一個二錢で賣り盡してしまつたのも間違のない事實であつた。

此處には斯くの如き搬拂ひの外に墓場專門の搬拂ひがゐる。その中でも王惠鄕と云ふ奴が最も獰猛である。彼は四十餘歲の今日まで人生の所有る惡德をし盡して此の大觀園に追ひつめられて來た途端にモヒに捉へられた奴である。——王惠鄕は 筆者が 半年以上仲良しにしてゐる 搬拂ひ 專門の 馮登鈞の 友人である——王惠鄕は彼の仕事場を近郊の 閘河の墓場に 決めてゐる。——閘河義地は道外太平橋公益街にあり市公署が管理してゐる墓場である——彼は眞新しい棺桶を探し歩き、棺桶の蓋をこじ開けて死人の衣服その他一切を剝奪して來て賣り飛して暮してゐる。一回の勞作で最少限度二十圓は手に入ると云ふのが彼の御自慢である。彼はモヒに捉はれて變態的情慾を悅ぶ頃の男を物色して、その相棒に選ぶのであるが、彼は決まつて「若い女の死體を素裸にして樂しむのは、生きてゐる女を樂しむよりずつと味があるぜ」と誘ひ込むのである。

私が此の男に就いて詳細に調査すべく、五月再び彼を尋ねた時、彼は傅家甸十二道街の慈善舍に乞食として收容されてゐた。彼がこの收容所で同じく乞食として收容せられてゐた筆者の友人馮登鈞に語つた所に依れば、この王惠鄕は此處へ收容せられてからも墓あばきを專門にしてゐたが、數日前も相棒と二人で太平橋公益街の閘河義地へ行つて一つの棺を開いて見たが、死體がこの頃の暑氣のために腐爛して膨れ上つてゐた爲め、衣服は剝ぎ奪れず、更に新しい棺を物色して屍臭の滲む衣服その他を剝奪し、古衣屋に賣却して十六圓餘を得、それを二人で等分し、大觀園の木賃宿で何時もの如くモヒと女とを樂しんで來たの

だと云ふことである。

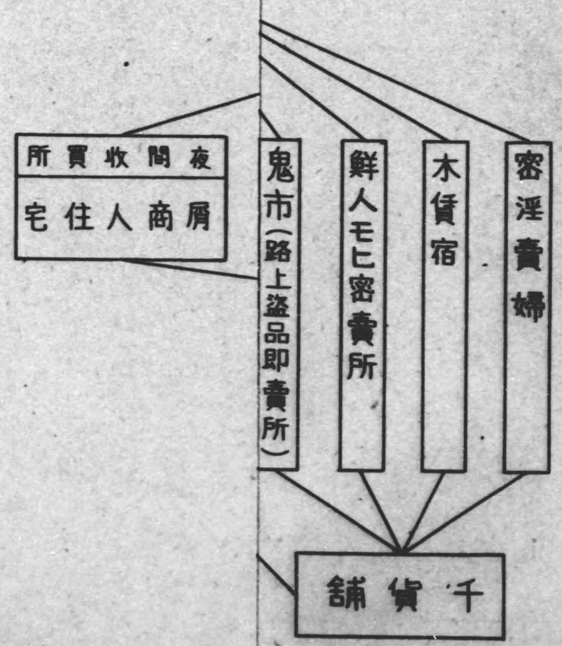
彼は昨日乞食收容所内で病を得、彼の衣服その他は生き乍らにして剝奪せられて病室の土間に放棄せられ、その日の中に息を引取つてしまつた。

以上の掻拂ひに就いて二、三列擧したに過ぎないが、彼等の生活態様にはまだまだ種々雜多な樣式内容を見ることが出來るが省略しておく。大抵白晝掻拂ひに出かける者は概して善良な部類に屬し、夜の十一時頃から出かけて夜明けまでに歸つて來る連中は概して獰惡な奴等である。晝中木賃宿で長々と寢そべつてゐる奴等は此奴等である。割りにまだ元氣の良い奴等は道裡の人家や墓場まで出かけ、その掻拂ひの成績も良く、日に四、五圓平均となり、その他善良な掻拂ひの收入は一日平均二、三圓となるとのことである。彼等のこの一日の勞作に依つて得たその金はその日のうちに一日十錢の宿泊料と、一日二十錢から三十錢の食費を差引いた殘額は全部すつからかんになるまで賭博かモヒか女かに費消せられてしまふのである。

(四) 盜品の種類及び賣却價格

手當り次第掻拂つて來るため、その持ち出される品物の種類は數限りもなく、且亦その賣却價格も時と場所とによつて一樣でないのは勿論である。從つて此處では一應屑物收買所たる千貨舖に於ける收買品及びその價格の二、三を示して置くこととする。

品目	賣却價格(錢)
日常雜貨・衣類一切	時價
家具・食料品一切	時價
銅・鉛一切	時價
門札・看板・木材一切	時價
鼠の死骸	一匹 二
猫の死骸	一匹 一〇
陶土器	一〇斤 一
ブリキ・空罐	一〇斤 二五
針金	一〇斤 二五
鉛・不用雜器	一〇斤 二〇〇
鐵屑・銅屑	一〇斤 五〇
木片一切	一〇斤 一〇
煙草の吸殼	一斤 六〇

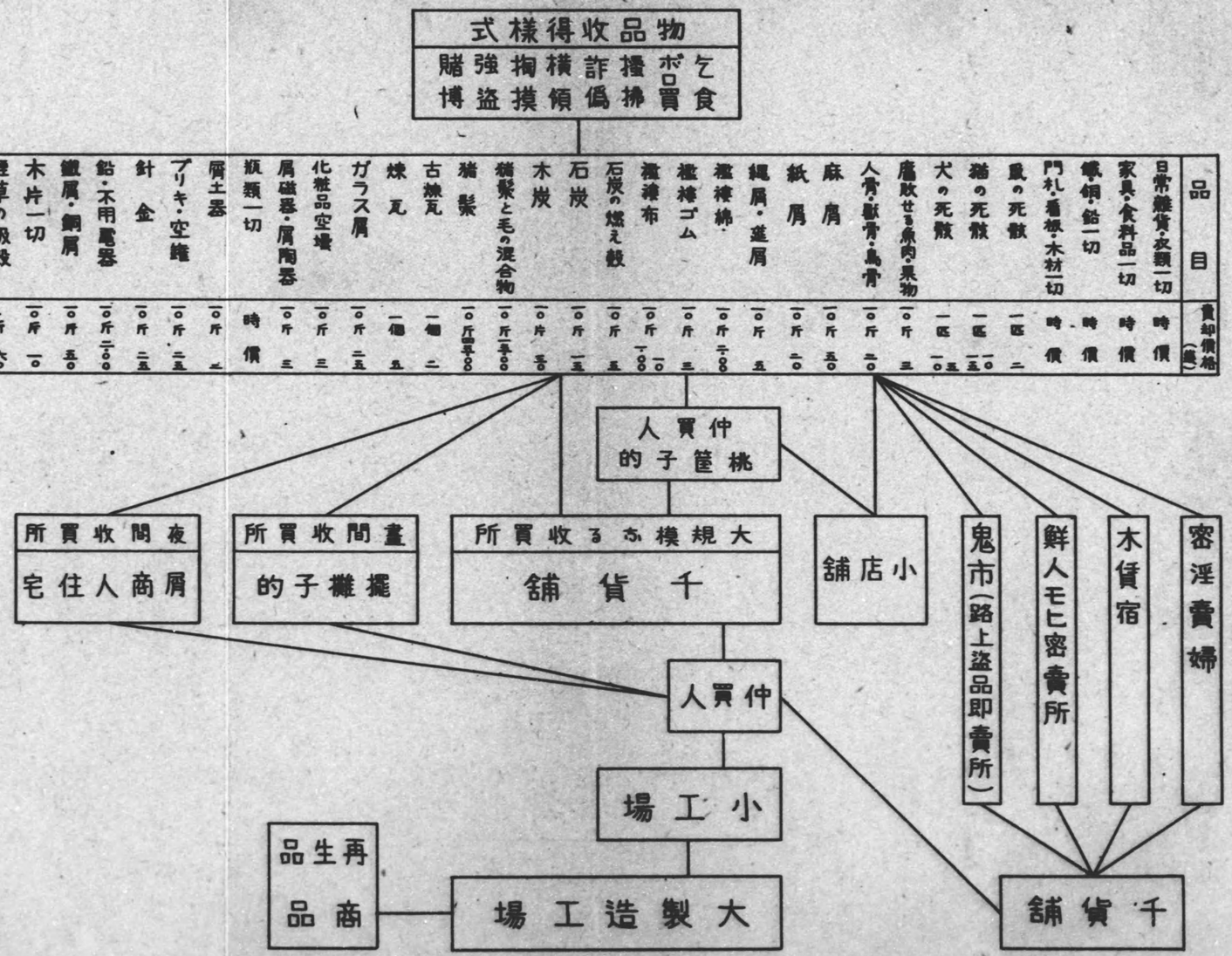


る。彼等のこの一日の勞作に依つて得たその金はその日のうちに一日十錢の宿泊料と、一日二十錢から三十錢の食費を差引いた殘額は全部すつからかんになるまで賭博かモヒか女かに費消せられてしまふのである。

(四) 盜品の種類及び賣却價格

手當り次第掻拂つて來るため、その持ち出される品物の種類は數限りもなく、且亦その賣却價格も時と場所とによつて一樣でないのは勿論である。從つて此處では一應屑物收買所たる千貨舖に於ける收買品及びその價格の二、三を示して置くこととする。

大觀園盜品處理斷面圖



品名	數量	賣却價格（單位錢）	備考
鼠の死骸	一四	二	
猫の死骸	一四	一〇	價格は大小によつて異る
犬の死骸	一四	一五	同前
腐敗せる魚肉	一〇斤	三	
腐敗せる果物	一〇斤	三	
人骨・獸骨・鳥骨	一〇斤	二〇	大連の肥料會社に收買せらる
紙屑	一〇斤	二〇	
綿屑・莚屑	一〇斤	五	
麻屑	一〇斤	五〇	
毛糸屑	一〇斤	二・〇〇	
毛糸ゴム	一〇斤	一・〇〇	
毛糸布	一〇斤	三	小學校の靴箱より盜むゴム靴の底最も多し
石炭の燃え殻	一〇斤	五	
石炭	一〇斤	一五	
木炭	一〇斤	三〇	
猪豚と毛の混合物	一〇斤	一五・〇〇	

猪鬃	一〇斤	四五・〇〇	時價	秦皇島より米國へ輸出せらる
毛皮類			時價	
古煉瓦	一個	一二	時價	
煉瓦	一個	一五	時價	
ガラス屑	一〇斤	二五	時價	
化粧品空壜	一〇斤	三	時價	
屑磁器・屑陶器	一〇斤	三	時價	大小種類によつて異る
瓶類			時價	
サイダー・ビール瓶	一本	七	時價	
屑土器	一〇斤	三	時價	
ブリキ・空罐	一〇斤	二五	時價	
針金	一〇斤	二五	時價	
鉛・不用電器	一〇斤	二・〇〇	時價	
鐵屑・銅屑	一〇斤	五〇	時價	レール、マンホールの蓋等すぐ變形の上賣却せらる
鐵製品・銅製品			時價	
魚肉野菜一切			時價	
食料品一切			時價	
木片一切	一〇斤	一〇	時價	
門札・看板・木材			時價	
日常雜貨一切			時價	
家具類一切			時價	
衣服・帽子・一切			時價	死人の衣服も含む
紙類一切			時價	
皮革類一切			時價	

盜品を直接宿泊料金或は淫賣婦との遊興費或は密賣モヒとの交換等にする時は、屑物商に直接賣却する時より二割方安いのが普通である。又この盜品を路上で即賣する時は、その盜品の品種品質に應じて價格に相異あるは勿論であるが、多くはその掻拂人がその日、否その一瞬に於て必要とする食費或はモヒ代に交換し得れば足れりとしてゐる。從つて購買者側に於ては時に極めてぼろい儲けをすることがある。

(五) 盜品收買所

一、千貨舖（チエンホヲプー） CH'IEN HUO P'U

千貨舖とは雜多な品物の店と云ふ意味で『萬貨舖』WAN HUO P'U とも云はれてゐる。この名稱は店舖の正式な名稱ではないが、掻拂達が云ふ名稱であり且亦この收買所の親爺が自認する名稱でもある。現在傳家句に於ける大規模な收買所としての千貨舖は、何れも自稱資本五百圓から二千圓位までの資本を以

て營業して居り、一日五、六十圓から七、八十圓の收買をしてゐるものであり、目下大規模なるもの九軒あるが、その住所氏名は左の如くである。

住所	姓名	住所	姓名	住所	姓名
南十一道街	張純山	南十二道街	孟學禮	保定街	王振江
南十一道街	張百年	南十二道街	吳殿升	保定街	張玉儀
南十一道街	沈錫山	南十四道街	王金堂	保定街	恒興隆

今玆に千貨舖營業者の一人張純山に就いて見るに、彼は哈爾濱公立正陽南國民學校分校の南隣り、正確には南十一道街十三號に住んでゐる。家主趙鳳祥より二間の家屋と五十坪位の空地を一月十二圓で借り、一家八人で極めて不潔に暮してゐる。その他彼は一人の老人を一日四十錢で雇傭してゐて彼の手助けをさしてゐる。

ひつきりなしに品物を持つて來る搔拂ひや乞食のために秤の休む隙もない。張の言によれば一日三、四十圓から六、七十圓宛の品物を收買する由である。五十坪位の空地には此等の品物がうづ高く積まれて不潔なること此上もない。空地の一番奥には棺桶の死人より剝奪せる衣服・帽子・靴等が積まれてゐた。張の言によれば日本人の長谷川なる者が屑物商の徵稅を市公署より委任せられてゐると稱して毎月六圓づつの稅を徵收してゐる由である。彼の示した領收書には長谷川德榮の署名捺印が明瞭にされてあつた。張は更に一枚の端書大の赤い紙を示して、之は正月に長谷川から貰つた招待狀であるが俺は行かなかつたとのことである。これは千貨舖の主人達を支那料理に招待した時のものであるが、その招待狀には

新年正月三日午前十時粗食差上申度御光來被下度候

康德七年一月一日　長谷川德榮

張純山先生

と書かれてあつた。市から徵稅を委任されてゐると稱する日本人が、彼等千貨舖の主人達を招待するなどと云ふことは、凡そ日本の社會では意味の解らないことである。なほ長谷川某は擔保金と稱して張から十二圓を取つて行つてゐる。同業者吳殿升も長谷川から毎月七圓三十錢の稅をとられてゐる所を見ると、他の同業者も同樣徵收せられてゐることであらう。

尙ほ本營業に關しては資本關係、又は出資者と營業者の關係等相當調査を要するものあるも、こゝには觸れない。

二、挑筐子的（ティヤオクワンズ）　T'IAO K'UANG TZU TI

挑筐子的（挑は擔ぐ、筐子は籠、的は者）とは天秤棒の兩端に直徑一尺六寸、高さ二尺大の籠を釣り下げ

て屑物買を表面の仕事としてゐる奴等である。眞面目に廢品を買ひ歩く者は殆ど無く、多くは住宅街を廻り歩きながらよき獲物を物色して歩く連中である。又街の角等に籠を並べ置いて日向ぼつこをしながら、掻拂ひが獲物を持ち込んで來るのを待ち構へてゐる奴の數も相當なものである。一人で天秤をかつぎながら掻拂ひ歩いてゐる奴等はつつましい連中であるが、この街角や鐵橋の下等に籠を並べてゐる奴等の中には、一つの天秤棒に二人乃至三人が共同の場合があるが、此奴らは最も獰猛な奴等である。

この挑筐子的は以上の如き方法をもつて品物を仕入れながら、一方に於てはその場その場の路傍で賣却もするのであるが、品物の種類品質の如何によつて或は街の小店舗に或は露天屑物商人に或は千貨舖にそれぞれ轉賣するのである。斯くの如く彼等は一面仲買人の性質をも有するを以て『接手的』CHIEH SHOU TI とも呼ばれてゐる。彼等の數的存在に就いては調査するに由ないが、四月一日午後四時大觀園附近の路上に腰を据えてゐる者丈けの數を見るに左表の如くなる。（康德七年四月一日午后四時調査）

場所	天秤數	場所	天秤數
自大新頭道街至大新四道街	四二本	自大新七道街至大新十四道街	八一本
自大新四道街至大新五道街	五六本	大觀園裏門附近	五四本
自大新五道街至大新七道街	七六本	計	三〇九本

猶ほ以上の外この挑筐子的の足溜りとする所は、南馬路鐵道下・江沿兒小市兒・南勳街妓女診斷所の近所・南十一道街・南十二道街・太東街・景陽一面街・景平街・同發街・桃花巷等々である。

夜間に於ける盜品の收買は彼等の住家たる四道街のスンガリー江岸寄りの一帶に持つて行けばよい。中でも大觀園裏道りの『老豆腐房大院兒』が一番有名であり、其處の屑屋は專門に盜品を收買してゐる。この大院兒には門が設けられ、門內に數十軒の家があり、彼等は共同で『更官兒的』CHING KUAN ERH TI と稱する夜番を雇傭して置いて夜十二時に門を閉ぢる慣例になつてゐる。

三、擺攤子的 PAI T'AN TZU TI

擺は並べる、攤子は露天、的は者と云ふ意味で露天雜貨商人のことである。彼等は日當りの良い路傍に蓆一枚又は板數枚を敷いて雜多な商品を商ふのであるが、彼等の商品仕入先は小賣店と掻拂人の手からである。彼等の中には小資本をもつてゐて盜品を抵當として小金を貸してゐる者もある。卽ち掻拂人がその盜品の賣却に際して思つた程の價格で賣却出來ぬ時は、この盜品を擺攤子的の所へ持參して、盜品相當價格の半額又は三分の一の値を以て一時入質するのである。入質中は多く利子を附せず。但し三日を過ぐる時は流質と看做されるのが普通である。

四、小店舖

小規模の鐵工廠、材木工場、ブリキ細工店、古着屋等々がそれである。盜品のうち金目になるものは大

抵以上の如き小店舗に賣却せられるのであるが、その收買せられたる盜品は直ちに變形せしめられて店先に飾られて客を待つのである。

五、鬼市（グーニス） KUEI SHIH

鬼市とは盜品路上即賣所に對する彼等の呼稱である。大觀園の裏門通り正確には長春三道街の新玉理髮館と溫香里遊廓とに挾まれた路上がその即賣所である。毎夜午後七時頃から十時頃まで（時季によつて異る）この鬼市が公然と開設されてゐる。賣却人の多くは大觀園又はその附近の木賃宿に止宿する掻拂人であり、その賣却物はその日の掻拂品であるため、その日その日によつて多種多樣おそろしく雜多である。罐詰の空罐、片一方の鞋、汚れた雜巾より更に數等不潔なタオル、化粧品の空壜、缺けた小皿、鼠の死骸、折れ曲つた釘、鷄の脚、指端のない手袋、恐しく立派な銅製の門燈等々を路上に竝べて賣つてゐる者。店先から盜んで來たばかりの蜜柑箱一箱を持つて群がる雜沓の中を泳ぎながら、蜜柑一個二錢で賣つてゐる者。この蜜柑箱に勝手に四方八方から手が入り持逃げする者、食ひ逃げする者。ウイスキーの角壜一本を持つてゐて一口五錢づつで飮ませてゐる者。多く飮んだ、少く飮んだの口論が始まる。日本人の丹前一枚を『二圓だ、一錢缺けても賣らん』とませた聲で叫んでゐる子供。純綿の絲束を持つて一束三圓と稱して賣つてゐる子供、その側から此の絲は盜んで來たもんぢやない、此の子の父親は絲商であるが病氣のため商賣に出られず、ために斯して賣つてゐるのだとサクラを入れる組合商賣をしてゐる者。曲り角の所で

一人の子供が皮製の立派な手提鞄を五圓と云つて賣つてゐるが、こんな所でこんな品物は仲々買手が附かない。筆者が欲しいと思つて歩み寄るべく人波を分けてゐる中に、一人の奴が客を裝つて一寸見せろと云ひながら、その子供から鞄を取揚げて逃げ出す。子供は追ひかける。男は五十錢札一枚をぶつつけて逃げる。子供は周章して金を拾つて何事もなかつたかのやうに、きよとんとした顏付をして歩き出す。その間隙は暫く間にどす黑い人波で壓し潰されてしまふ。その雜沓の眞中を見るやうに見ぬやうに佩劍を鳴らして通る星一つの警察官。慌てて警察官に會釋して暗闇に引込む目の鋭い男。

闇の鬼市は何時閉幕するとも思はれぬ程の雜踏だ。

六、木賃宿

木賃宿では盜品を公然と收買してゐない。只宿泊人がその日の十錢の宿泊料に窮した擧句、盜品を抵當としてその日一日の安眠を貪らうとする時、木賃宿では相手を見て受取るのである。抵當品に對してはその價格の半額以下の値を以て金が貸し與へられ、三日を過ぐる時は流質と見なす慣習となつてゐる。

七、淫賣婦

女が密賣料金の代りに受取る品物は大抵女の悅ぶ品物である。懷中に美しい布切或は化粧品をしのばせながら路上で女を値切つてゐる奴は、その日掻拂つた化粧壜の大小によつて女との享樂の一時を長くしようと試みてゐる奴である。抵當品として阿片やモヒを欲しがる女は、モヒ癮者か或は梅毒で盜面をつくつ

てゐる女に違ひない。

八、鮮人モヒ密賣所

此の世の地獄大觀園に住む亡者共が最も恐れてゐるのは鮮人のモヒ密賣者である。モヒにとりつかれた亡者共が幽霊のやうに痩せこけた殘骸を資本に、やうやうのことに得た獲物が手に入るや否や一包五十錢の密賣モヒと交換すべく、早速鮮人のモヒ密賣所に驅け込むのである。舌縺れさせながら嗄れ聲で盜品と一包のモヒとの交換を哀訴するモヒ患者、この哀訴を抹殺して唇に邪惡な色を浮ばせながら冷然と値踏みしてゐる鮮人。モヒ患者の弱點につけこんでその値踏みは極めて苛酷である。彼等は自轉車・馬車の類に至るまで一札の證文を入れさして受取るのである。而もその證文には購買價格の數倍の價格が記入せられ、文字を知らぬモヒ患者は指印を捺させられるのである。鮮人はこの受取つた品物を人目につき易き箇所に置いて持主が買ひ戻しに來るのを待ち、その不當の證文を示して數倍の利潤を得て高價に賣却するのである。更に赤盜品を抵當として金も貸してゐるが、木賃宿や露天屑商人等と斉しく三日で流す慣例となつてゐる。

彼等はささし〳〵暴戻無殘な吸血鬼である。

(六) 盜品の行方

千貨舖・換錢子的・擺攤子的・小店舖・鬼市・木賃宿・淫賣婦及び鮮人モヒ密賣者等々に賣却せられた盜品は、そのまゝ個人の手に渡る外は再び仲買人の手を經或は直接小工場に賣却せられ、そこで加工せられた上更に大工場の手に渡り立派な商品として店舖の陳列窓を飾るのである。

盜品その他の物が變形せしめられて商品となる詳細なる再生產過程に關しては未調査なるがため、玆では千貨舖その他に於て調査し得た二、三の極めて微細な例を擧ぐることに留めて置くこととする。

一、鼠の死骸

街頭から襤褸拾ひの手に集められた鼠の死骸は一匹に付き二錢の割で千貨舖に賣られる。仲買人が千貨舖から一匹五錢で收買して毛皮をとる。「皮作坊(ピヅオファン)」(P'I TSUO FANG 皮の鞣工場)では鼠・猫・犬等の皮を一斤四圓より十圓までの値で收買する。この皮のことを「碎皮子(ツイピーズ)」(SUI P'I TZU 細々で雜多な皮のこと)と云ひその種類色合等によつてその値を異にしてゐる。鞣工場ではその毛皮を鞣した上、澤山機ぎ合せて八寸四方大の毛皮を作る。彼等はこの毛皮二枚を以て一幅と稱してゐり、一斤の碎皮子から大體五幅の毛皮が出來る。この皮作坊は太古街の十道街から八道街の山東會館の附近にかけ最も多いのであるが、今玆に太原街十七號李相臣(河北省撫寧縣人三十九歲)の工場に就いて見るに、彼は資本金二百圓(自稱)を以てこの工場を經營し、職人四名、徒弟四名を使用し、職人には一幅に付き十錢の工賃を支拂ひ、一日一人で十二、三幅から十四、五幅の毛皮を張れると云ふ。徒弟には賃金の支拂ひはなさず、三年後卽ち四年目より支拂ひをなすのが普通である。職人及び徒弟の食事は主人持ちである。稅金は一年四季、一季十一圓二十五

錢。

この皮作坊で作られた毛皮は更に『染坊（ヤーシファン）』(JAN FANG 染色工場）の手を經て適當な色に染められ、そこより更に道裡の一流商店たる遠東皮業公司に納められるのであるが、その引渡し價格は一幅の毛皮、黑色のものは一圓二十錢、灰色のものは一圓三十五錢である。遠東皮業公司に引取られたその毛皮は手袋の裏毛又は婦人子供の帽子、外套等の各部分に用ゐられ、街頭の飾窓に季節の魁けとして飾られる譯である。

二、襤褸切

始末に終へぬ襤褸切れは何枚も何枚も糊を以て廣い板の上に繼ぎ合せ重ね合せ天日に晒して厚く大きく固い布とする。これを『格布（ゴフ）』KO PU と云ふ。支那鞋の底や横側の內布卽ち骨組をなすに使用せられ、或は支那枕の固い角を作る內布等として用ゐられるのである。

南十一道街張純山經營の千貨舖の南隣りに『格布房記（ゴブファンジ）』と云ふ家號が見える。この家には張鳳山（河北省豐潤縣人四十七歲）夫婦と子供四人が住んでゐて、この格布を作つて生活してゐる。もう四、五年になるとのことである。彼は隣家の千貨舖より襤褸切れ十斤に就き最高二圓最低五十錢で買つて來る。大體十斤の襤褸切れで薄い格布は十四枚位作れるのであるが、それを作るには多量の糊を必要とし、十枚の格布を作るのに一斤のメリケン粉を必要とする。格布には左の二種類がある。

縱	横	厚さ	價格	一人一日製造能力
一尺三寸	三尺四寸	四枚重ね	四〇錢	一五枚
一尺三寸	三尺四寸	二枚重ね	二〇錢	二五枚

襤褸切れの上等なものは千貨舖から古衣屋に收買せられ、衣服の綻びを繼ぐに用ゐられ、中等品は街の裁縫師である『窮縫婦（チュンフォンフ）』(CH'IUNG FENG FU 路傍に坐して路行く人々の綻びを直す女）の手に買はれ、恐しく汚れて始末に了へぬやうな襤褸切れは格布屋に買はれて格布の原料となる譯である。この格布を作る家はこの近所だけでも三十數軒ある。

三、麻屑

千貨舖では十斤五十錢で收買した麻屑を、青麻・麻繩・毡子・麻袋片・麻刀等を作るに適する如くより分けする。

麻屑	製品名	備考
	青麻	絲にして鞋を縫つたりするものを作る
	麻繩	麻袋を縫ふに用ゐられる
	毡子	毛布を作る所に收買せられてゆく

麻屑	製品名	備考
	麻袋片	麻袋の修繕等に用ゐらる
	麻刀	壁の中に混合せられるものを作る

千貨舖では數名の苦力を雇つて以上の如き仕事をさして居るが、それで結構間に合ふやうな製品が出來るから不思議である。

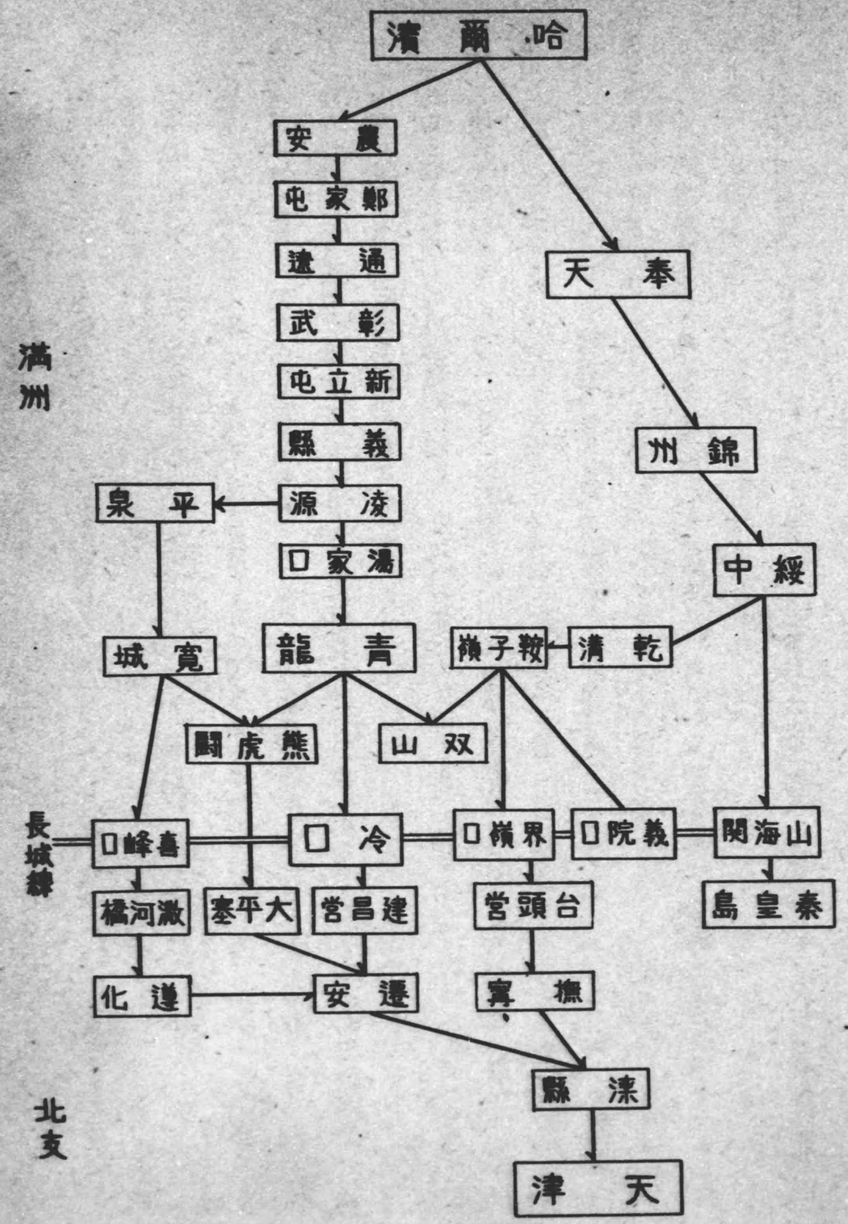
四、猪鬃（チュー・ツン）CHU TSUNG

千貨舖の收買價格は猪鬃一斤四圓五十錢、猪鬃と毛との混合物は一斤一圓五十錢である。猪鬃はその毛の先端が二つに割れて居り、然も强靱なるため、古來支那社會に於ては犯人等の拷問の際に用ゐられてゐる。卽ちこの毛を尿道孔に刺し通して苦痛を與へて白狀を强ひるのである。此の方法は現在も尙ほ農村社會に於て私刑を加へる際用ゐられてゐる。

それはそれとして、この千貨舖に收買せられた猪鬃はその混合物たる雜毛を除き去つて良質の猪鬃とせられ、仲買人の手を經て吻に詰められ羊毛等と稱し、或は鐵道從業員と共謀し、或は大車に積んで熱河の國境に向ひ、天津の米國商人に集められ秦皇島等から米國に密輸されて軍器を磨く刷毛の製造に用ゐられてゐると云ふことである。國境を越す時の價格は一斤十八圓である。豚毛・金・タングステンの密輸系路は挿圖の如くである。

千貨舖に於てより分けられた三等品は地元の洋服屋に買はれて、脊廣等の襟を固くするに用ゐられてゐる。

更に一、二、三等品とより分けられた猪鬃以外の猪毛雜毛は『砧子舖（ジャンズ・プー）』（CHAH UZU P'U 毛氈製造所）に



買ひとられ毛氈を作る原料となる。毛氈の原料としては馬・犬・猫・騾馬・驢馬・猿・猪毛等があるが、千貨鋪よりの收買價格は豚毛十斤五十錢、馬毛十斤一圓五十錢、犬毛十斤一圓であり之等の毛を混用して毛氈を作つてゐる。製造所では冬季專門に各種の毛を集買し、四月の双陽節の頃から毛氈の製造に着手するのであるが、先づ千貨鋪より收買した各種の毛をそのまゝ或は水洗後庭に擴げて天日に晒し、時々掻き混ぜて平均に乾す、乾し上つた毛を綿打をする時の如く打つて毛氈を作るのであるが、三斤の原料毛を打つと二斤四兩の毛が出來上り、これで丁度縱五尺五寸橫三尺三寸の毛氈が一枚出來ることになる。一枚の價格は四十錢から一圓位までである。一日の製造能力は一人七枚位を普通としてゐる。尙ほ餘剩の細毛は薄く伸されて帽子の中身等が作られる。

更に豚毛等を拔いた後に肉皮が殘るのであるが、この肉皮は水分のあるものは百斤一圓で「膠房（チヤオフアン）」(CHIAO FANG 糊製造所)に買はれて行き糊を作る原料となる。水分のある肉皮は百斤一圓であるが、毡子舖卽ち毛氈製造所の近所の者達が之を買つて行き、四百五十斤を乾して百斤の肉皮を得、百斤五圓二十錢で膠房に賣つてゐる。膠房では收買した肉皮を水で洗つて大釜で二十四時間煮詰めて溶かし、百斤から三十斤の糊を製造してゐる。新市街五十六の義和膠房では一日三百斤の製造能力をもつてゐるが、この製造は天候と關係するため、一年間に於ける製造期間は僅かに春秋二箇月である。卽ち陰曆の三月十五日より四月十五日までと八月十五日より九月十五日までである。

糊を作つた様は乾して冬季のオンドルの燃料となり或は肥料となる。

五、煙草の吸殻

よく電車やバスの停留場で煙草の吸殻を拾つてゐる者を見かけることであらう。この吸殻は一斤六十錢で收買せられ、大觀園の北門洞内で俗に『快手公司』(K'UAI SHOU KUNG SSU 快手とは手早い、公司とは會社と云ふこと)製造品の『模腰牌兒』(MO YAO P'AI ERH)と云ふ煙草名で賣出されるのである。煙草の十本入の紙箱は種類の如何を問はず一箱一錢で收買せられてゐるが勿論この再生煙草を入れるためである。再生煙草の製造所は大觀園の近所に三軒ある由なるも筆者の瞥見したのは大觀園の北門洞内に於てである。粗大の薄板一枚を土の上に置いて白紙を敷き、煙草の細切葉を細い圓棒で紙と共にくるりと器用に一廻轉させて糊でくつつけると忽ち一本出來上る。一箱十本入り六錢。ばら賣り三本で二錢。大觀園及び附近のモヒ癮者にモヒ吸飲用として愛飲されてゐる。

第十一節　衣食

(一)　衣服

種類から見ると支那服・朝鮮服及び日本服がある。

支那服と云つても『大褂兒』(TA KUA ERH 長い上衣)を着てゐる者は無く、上半身には『小褂兒』(HSIAO KUA ERH シャツ又は洋服の上衣に類す)等を着、下半身には『褲子』(K'U TZU ズボン)を穿いてゐる。支那服のズボンは前後の區別なく、物臭な支那人が何ちらに足を突こんでもよいやうに出來てゐる。それに前後に穿けるためズボンの膝が拔ける心配もなく飽く迄も實質的に出來上つてゐる譯である。このズボンは『帶子』(TAI TZU 腰帶)と云ふ帶紐で結ばれてゐるのであるが、腰紐を用ゐてゐない者も相當にある。支那人は猿股を穿かないので喧嘩の時ズボンを引張ると尻が出る仕掛になつてゐる。靴は流石に支那靴であるが恐しく汚い。乞食でも素足の者極めて少く、皆靴下を穿いてゐる。着のみ着のままで寢るのであるが、靴は足に穿いたまま縛りつけて寢てゐるのは、寢て居る中に盜まれぬためである。衣服の色合は無地の黒・藍が多く、總して闇の世界には似合の色である。その中で淫賣婦の着てゐる衣服だけは流石に色物であり、原色のけばけばしい長上衣も見られる譯である。

洋服を着用に及んでゐる者は鮮人のモヒ屋か乞食である。乞食の中でおしやれ者は紅卍會發給の搖襪綿でふくぶく脹れた、それでも彼等にとつては素晴しい洋服を着込んでゐる。その洋服の背中には『紅卍會發給之印』と云ふ文字が鮮やかな朱肉で大きく明瞭に捺印されてある。萬國道德總會紅卍會と云ふと全滿全支に網を張つてゐる結社である。支那人ほど道德を口にする者はなく、そして亦支那人ほど道德に見離されてゐる者も少ない。洋服を惠むことも人目を引く乞食に『動く廣告』をしてもらつてゐるに過ぎない。兎に角氣のきいた奴は折角貰つたその洋服をとうの昔に敲き賣つてモヒに交換してしまふてゐるため、彼

等の多くは文字通りに襤褸切を纏つて居る。

朝鮮服はモヒ密賣者の女房。和服はこの木賃宿にモヒの連絡を取りに來る跋の鮮人だけである。要するに彼等の服裝は思ひ思ひの巳むを得ざる趣向を凝してゐる譯である。

この邊の木賃宿では鮮人と淫賣婦とを除いては顏を洗ふ者なく、まして身體等を洗ふ者は絶對にない。それは水や湯に手を入れるとモヒの效果が醒めるからでもある。嘔吐を催すやうな臭氣が大觀園の板の隙まで滲み込んでゐる。健全な人間の臟腑であるならばこの臭氣の中では一時も耐え得ることは出來ないであらう。

(二) 食事

今朝六時哈爾濱に着いた筆者は友人と三人で朝の傳家甸を歩いて見た。大觀園の裏通り長春三道街には朝の太陽が燦々と降りそそいでゐる。私達は此處まで來るうちに既に九個の素裸にされた死體を見て來てゐるのだ。そして今更に又私達の眼前に三つの死體が轉がつてゐる。勿論街路の中央にである。骨張つた顏面の骨が碎けて頰から後頭にかけてどす黑い血が乾き附いてゐる。殺き殺された死體である。その向うに歷の皮が赤く擦剝けて見えるのは、山盛りに積み上げられた塵埃に首を突込んでゐる死體だ。かうした塵埃と死體の轉がる大道の間隙を埋めて盛り上るやうな人を集めてゐるのは屋臺店である。

日當りのよい塀際で着膨れた一群が前屈みに重なり合つてゐる。覗いて見ると、極めて無表情な一人の

親爺が立膝をして、その前に恐しく不潔なバケツを抱へるやうに置いてゐる。そのバケツにはちようど酔ひどれが吐き出したやうなどろどろに濁つたものが一杯盛られてゐる。料理店から一月九圓で拂下げて貰つてゐる所謂る殘飯である。(支那料理屋の殘肉殘飯は全部ボーイ達の收入となる。普通の商店に於ても仕入れた品物は主人のものであるが、その品物を入れて寄越した箱等は全部店員の收入となる。從つて店員達に品物を餘計賣つて貰はうとするならば、品物の品質を良くすることではなく、包裝箱等の店員の收入となる部分を良くするに限る。その時店員達はその品物をより多く客に勸めるであらう)。さてその殘飯は鉄けた大きな茶碗に一杯三錢である。茶碗が五つよりないので、一人が食ひ終るや否や、待ち構へてゐた奴が橫合から汚れた手を出して茶碗と箸とを受取る。茶碗にくらひついて息もつかずに食べ終つた乞食が丁度野良犬がするやうに口端についた油を舌なめずりしてゐる。その樣子を吸ひ付くやうに見詰めてゐるのは、梅毒で腐つた足を日向ぼつこさせてゐる男だ。

その路の兩側には死體の間を縫うて南京豆・瓜子兒(KUA TZU ERH 西瓜や唐瓜の種を乾して鹽味を着けたもので、支那人の好んで撮み食ひするもの)・果物・お茶・燒餅(SHAO PING メリケン粉で作り鐵鍋で燒いたもの)・玉米渣兒粥(YU MI CHA ERH CHOU 玉蜀黍の糠で作つた粥)・豚の臟物等々の種々雜多な屋臺店が數限りなく並んでゐる。此處に群れる彼等の多くは食事と云つても、その時々に自由にやつてゐるのであるが、今假りに街角の屋臺店で食事をしたとしやう。彼等は一日二回か三回の食事で、一回の食

事には『大餅子』(TA PING TZU 玉蜀黍の粉で作る)を一個三錢のものを三個或は四個と、玉米渣兒粥と云ふ粥一碗で充分滿腹してゐる。即ち十錢から十四、五錢もあればよい譯である。金持はそれに『果子』(KUO TZU)と稱する麥粉で作つて油で揚げたものを一本五錢で食べてゐる。果子と云ふのは正しくは『油炸果』と書かれ『油炸鬼』(YU HSA KUEI)と發音せられてゐる。忠臣岳飛を殺した奸臣秦檜を憎んだ民衆が、秦檜の死骸を膾に刻み更に之を油で揚げて食したが、それを記念して出來たのがこの『油炸鬼』である。人間が死すると『鬼』(KUEI)となる。その鬼を油で揚げたものと云ふ意味である。そしてこの殘忍で執念深い風習が全支全滿に擴つてゐる譯である。その他屋臺店では眞黒にどぶどぶした梨、腐つた蜜柑等々がとしどし賣れて行く。

何せ硫黄や雄黄を飮んで寒氣を凌ぎ、唐辛子を喰べて食慾を抑へてゐる連中である。

以上の如き屋臺店等で腹を滿す以外の連中は附近の飮食店で所謂る豪勢な食事をやる譯であるが、その大略は下記飮食店の調査に依つて想像して頂きたい——

一、大觀園內飮食店小賣價格

名稱	發音	價格	名稱	發音	價格
燒麥	SHAO MAI	一個二錢	漿汁	CHIANG CHIH	一碗六錢

燒餅果子	SHAO PING KUO TZU	一個三錢 一個五錢	白飯	PAI FAN	一碗一〇錢
			魚	YU	一匹一〇錢

二、飮食店

(1) 屋號 增發館

主人 李學敬、三十八歲、山東省萊州府人。

經歷 民國十六年春渡滿、二十二年まで大連に於て魚商を營み、弟李學增と共同でこの大觀里に飮食店を經營す。資金二百圓、稅金年額三十七圓八十錢、一日の賣上高四十圓程度、飮食物種類は包子・魚・白飯。麥粉使用量一日三十斤。米使用量一日二十斤。麥粉購買方法は清眞寺、協和會分會より配給をうけ、月七袋。不足の時は一斤三十錢の闇で買つてゐる。米は配給をうけぬため使用の米は全部一斤三十二錢の闇で買つてゐる。糧穀店から御用聞が來て注文をとつて行き、早朝若くは夜中に送り屆けて呉れる。家賃月十六圓。使用人二名、月給二十圓と十二圓。家族兄弟二名。宗教は回教。

(2) 屋號 新々漿汁館

主人 楊忠印、三十四歲、山東省昌府新縣人。

經歷 康德三年春來滿、道外で燒餅と果子とを賣りして歩いてゐたが、後、吉林の大道で

煙草賣をなし、今春(康德七年)五月大觀里の現在の箇所に落着く。家族妻一、子三。宗教は回教。資金百圓。稅金年額三十三圓四錢。飮食物種類は漿汁(豆腐汁)・果子。麥粉使用量月八袋、大豆月三斗、豆油月百五十斤、白砂糖月百二十斤。使用人六名。

(3) 屋號　尙家漿汁館

主人　尙有文、六十五歲、山東省黃縣。

經歷　康德元年春渡滿、渡滿前は傭工をなしてゐた。渡滿後奉天で燒餠舖を開き、康德五年來哈現在の所に落着く。資金百圓。家賃二十圓。家族妻一、子一。使用人三。麥粉月使用量八袋。豆油月百五十斤(聞で一斤六十五錢に買つてゐる)。白砂糖月百二十斤(聞で一斤四十錢に買つてゐる)。稅金八圓二十六錢。漿汁(ジヤンズ)と果子(グヅ)とを賣つてゐる。

第十二節　罵言

罵言、それは人間の咄嗟の間に激發せられる最も端的な表現であり、然もその罵言はそのままその罵る社會の偶らざる所產である限り、罵言も亦その民族性を表明する生きた一つの存在である。私達が彼等の罵言から學び得る所のものは、下向する漢民族社會の實相のみであることを悲しみつつ、次の報告をなさねばならない。

罵言を云ふことを『動大五葷』(TUNG TA WU HÜN)と謂ふ。動とは云ふ。大五葷とは五つの極めて生臭い言葉といふ意味である。卽ち彼等の罵言には必らず『脅』(HSIEH 性交する、入れる)・『日』(JIH 入れる)・『幹』(KAN やる)・『屄』(PI 女性の陰部)・『鷄巴』(CHI PA 陰莖)等の言葉がついてゐるからである。然も彼等は斯くの如き卑猥な罵言を大聲で連發することに依つて、一面相手を痛罵しながらも他面自己の性生活を享樂してゐるのでもある。

滿洲人がいまいましいと云つた時にきまつて云ふ口癖は『他媽的』(TA MA TI)である。『他媽的』とは『他媽的屄』(TA MA TI PI 他は彼、媽的は母の、屄は女陰のこと)の略稱である。孟母三遷の故事をもつ滿洲人の母親達が自分の子供を叱るのに『你這小屄豆子』(NI CHE HSIAO PI TOU TZU 你はお前、這はこの、小は小さい、屄豆子は陰核のこと)である。未だよちよち歩きの三つの子供がこの母に口答へして『媽了個臭屄』(MA LA KO CH'OU PI 媽は母、了個は虛字、臭屄は臭さい女陰を指す)と罵り返すのである。筆者が嘗て滿人小學校の一年生に

『お前達は誰かと喧嘩をしたことがあるの?』と聞くと

『ない』と答へる。

『ぢや、よその人が喧嘩してゐるのを見たことがあるでせう』と聞き返すと

『ある』と云ふ。

『その人達は何んなことを云つて相手を罵つてゐたか覚えてる?』

『うん、知つてる』

『ちや、その罵言を云へるだけ云つてごらん』と云はれて、勇んで答へた一年生の子供達の言葉は殆と全部が女性を姦すること、女陰に關すること等々であつた。そしてこの子供等も喧嘩口論する時には矢張り必ず卑猥な言葉を連發して、云ひ負けた方が負けとなるのである。無心の子供達は斯くの如き穢れた言葉を母から、父から、兄弟、姉妹、叔父叔母、社會全般から學び且つ體得するのである。

官吏が、警察官が、教師が、商人が、農民が、馬車屋が、人力車夫が、婦人が、子供が總ての滿洲人は「爺你媽」(TS'AO NI MA 爺は姦する、你はお前、媽は母)と罵り「臭屄」(CH'OU PI 臭は腐つた、屄は女陰)と呶鳴り返すのである。大衆の面前で然も白晝公々然と街頭の中から、教室の中から、家庭の中から彼等の社會は罵言の氾濫で包まれてゐる。彼等は相手の母・祖母・姉妹等を肉體的に犯し辱めてやるぞと叫びつけることによつて、その鬱憤を晴らし快哉を感じてゐるのである。然も彼等の社會は斯くまでも下劣な言葉に對してすら虚無的不感症に陷つてゐる。

此の大觀園も亦彼等漢民族の世界であり、從つてこの範疇から逭れることは不可能である。大觀園に群る彼等は母から父から、そして社會から學び得た罵言を惜みなく發散又發散させてゐる。今玆に筆者の耳朶に殘る彼等の罵言の二、三を大體最も多く使はれる順に列擧して見よう。但し吾々はこの罵言は決して

此の大觀園のみのものでなく、漢民族社會到る處のものであることを記憶する必要がある。

(一) 他媽的 TA MA TI

『他媽的屄』(TA MA TI PI)の略稱である。他は彼、媽は母、的はの、屄は女性の陰部と云ふことである。この糞垂れ奴が位に譯す以外適當な日本語がない。

(二) 他媽的屄 TA MA TI PI

同 前

(三) 他媽的大屄 TA MA TI TA PI

大は意味を强める語

(四) 他媽的小屄 TA MA TI HSIAO PI

小は輕蔑の意

(五) 媽拉個屄 MA LA KO PI

媽は母と云ふことで相手の母親を指す、拉個は虚字、屄は女陰、お前の母の尻を見ろ位の意

(六) 媽拉個巴子 MA LA KO PA TZU

同前、巴子とは女陰のこと

(七) 臭屄 CH'OU PI

臭は臭い又は腐つたの意

(八) 媽了個臭屄 MA LA KO CH'OU PI
お前の母の臭い尻を見てから物云く

(九) 媽了個大屄 MA LA KO TA PI
大屄は大きい尻

(一〇) 媽了個小屄 MA LA KO HSIAO PI
小屄は小さい尻

(一一) 媽了個血屄 MA LA KO HSIEH PI
血屄は血で汚れた尻と云ふことで、支那語としては極めて強い罵言となる。血と云ふ字のついた罵言は最も非道い惡罵となる。

(一二) 大屄眼兒 TA PI YEN ERH
屄眼兒は孔のこと、大は大きい

(一三) 小屄眼兒 HSIAO PI YEN ERH
小さい尻孔

(一四) 屄豆子 PI TON TZU

豆子とは豆のことで女性の陰核。

(一五) 臭屄豆子 CH'OU PI TOU TZU

(一六) 小屄豆子 HSIAO PI TOU TZU
日本人の女を罵るのにこの語がよく用ゐられてゐる。

(一七) 小屄心兒 HSIAO PI HSIN ERH
心兒と云ふのは子宮のこと、小さい子宮。

(一八) 肏你 TS'AO NI
肏は性交する、姦する、你はお前。お前を姦してやるぞの意。罵言に於て姦する場合、その罵倒する相手に最も近い血縁をもつものであればある程強烈な罵言となる。

(一九) 肏你媽 TS'AO NI MA
お前の母を姦してやるぞ。

(二〇) 肏你娘 TS'AO NI NANG
娘も母の意

(二一) 肏你奶奶 TS'AO NI NAI NAI
奶奶は祖母の意。

(三) 肏你姐姐 TS'AO NI CHIEH CHIEH

姐姐は姉の意。

(三) 肏你妹妹 TS'AO NI MEI MEI

妹妹は妹。

(三) 肏你妹子的 TS'AO NI MEI TZU TI

妹子的は妹のことふことで「肏你妹子的屄」の略稱である。お前の妹を姦してやるぞ。

(三) 肏你妹子的屄 TS'AO NI MEI TZU TI PI

同 前

(三) 肏你祖宗 TS'AO NI TSU TSUNG

祖宗を尊重する支那社會の風習から、その祖宗を辱しめることは大張り罵言となる。

(三) 肏你家十六輩祖宗 TS'AO NI CHIA SHIH LIU PEI TSU TSUNG

十六代間の祖先を汚してやるその意。

(三) 肏你血媽 TS'AO NI HSIEH MA

血の字がつくと意味が強くなる。

(三) 肏你血娘 TS'AO NI HSIEH NIANG

(三) 肏你血妹々 TS'AO NI HSIEH MEI MEI

(三) 肏你血奶奶 TS'AO NI HSIEH NAI NAI

(三) 肏你血祖宗 TS'AO NI HSIEH TSU TUNG

(三) 肏他 TS'AO T'A

他とは彼のこと、お奴を姦してやるぞ。

(三) 肏他媽子個屄 TS'AO T'A MA LA KO PI

お奴の母を汚してやるぞ。

(三) 賣大炕的 MAI TA K'ANG TI

賣は賣る、大炕は大きなオンドル、的は者の意、オンドルが大きいから誰でも來て自由に宿泊出來ることふ意味から淫賣婦ことふ意。

(三) 開大炕的 K'AI TA K'ANG TI

同前、開はその商賣をすることふ意。

(三) 鷄子 CHI TZU、(三) 小鷄子 HSIAO CHI TZU、(三) 鷄巴 CHI PA、(四0) 牛子 NIU TZU、(四一) 老二 LAO ERH、(四二) 拐兒 SHAO ERH

陰莖のことで、總て男性を罵るに用ゐらる。然しこの言葉自體は罵言でない場合にでも用ゐらるる

のである。

(三)、鷄巴頭兒 CHI PA T'OU ERH

龜頭のことで、お前の顔は龜頭と同じだ位の意。

(四) 臭鷄巴頭兒 CH'OU CHI PA T'OU ERH

腐つた龜頭のことである。

(五) 鷄巴毛兒 CHI PA MAO ERH

陰毛のこと、この陰毛野郎め。

(六) 鷄巴毛兒肏的 CHI PA MAO ERH TS'AO TI、 (七) 鷄巴毛兒日的 CHI PA MAO ERH JIH TI、 (八) 牛子毛兒肏的 NIU TZU MAO ERH TS'AO TI、 (九) 牛子毛兒日的 NIU TZU MAO ERH JIH TI

お前は馬鹿野郎に姦されて生れた奴ちやの意。鷄巴・牛子は共に陰莖のこと、肏的・日的は姦された奴の意。

(十) 王八 WANG PA、 (十一) 亡八 WANG PA、 (十二) 忘八 WANG PA

以上は同音同譯の語である。普通馬鹿野郎、恥知らず、畜生等の意味に用ゐられてゐるが、これには色々の俗說がある。卽ち

一、漢民族社會の八德卽ち孝、悌、忠、信、禮、儀、廉、恥の八字を忘れた奴と云ふ意である。滿人の某大官が日本人から掛軸に書を依賴された時、孝悌忠信禮儀廉の七文字を書き與へたさうである。これは第八番目の恥と云ふ字を故意に忘れて書かぬ卽ち『忘八』馬鹿野郎を意味してゐるのである。有難く頂戴した日本人は果してその意味を知るや知らずや。

二、普通龜のことを『王八』と云つてゐる。龜は親子で關係して子を産むと云はるる所から、人倫に悖る奴を目して龜と同類に看做して『王八』と罵るのである。矢張り不倫不德を意味する。

三、龜の雌は蛇の雄と關係すると云はれてゐる。矢張り滿洲人の挨拶語として天氣のことは聞かない。『今日は雨が降るでせうか』と尋ねたとしたら滿洲人は馬鹿にするなと立腹するであらう。降雨の如何に關しては『王八』卽ち龜が最も良く知つてゐるからである。龜は降雨前には必ず水面に浮び出て親子姉妹で關係してゐると云はれる。滿洲國の觀象臺(氣象臺)のことを『王八衙門』WANG PA YA MEN と云つてゐるのは以上の理由からである。

五、唐代の樂人は皆綠頭巾を被つてゐた。龜の頭が綠色のものがあるため綠頭巾を着くる者を目して龜となし、又樂人の妻女は皆歌妓なりしため、妓院を設けて妻女をして淫を賣らしむる者を龜卽ち『王八』と稱したのである。妓樓の主人、妓夫、淫賣屋の亭主、幫間(タイコモチ)或は自分の妻女を他人に盜まれた者等のことを龜に喩へて『王八』と罵るのである。

六、その昔『王八』と云ふ亂倫の極惡人があつた爲め、その名の轉訛したものであるとも云はれてゐる。

(三) 王八蛋 WANG PA TAN、(四) 亡八蛋 WANG PA TAN、(五) 忘八蛋 WANG PA TAN

蛋とは卵のことで、王八の卵と云ふ意。

(六) 王八羔子、(七) 亡八羔子、(八) 忘八羔子、共に WANG PA KAO TZU と發音す。

羔子とは原來羊の子のことであるが、此處では王八蛋と同じである。

(九) 王八犢子、(一〇) 亡八犢子。共に WANG PA TU TZU と發音す。

犢子とは原來牛の子のことであるが、此處では王八蛋と同じ。

(一一) 王八崽子、(一二) 亡八崽子、(一三) 忘八崽子。共に WANG PA TSAI TZU と發音す。

崽子とは原來湖南省地方の言葉で子と云ふ意味であるが、現在では一般に廣く使はれてゐる。蟇童(カゲマ)のことを云ふ。此處では矢張り王八蛋と同じ。

(一四) 王八官、(一五) 亡八官、(一六) 忘八官。いづれも WANG PA KUAN と發音す。

幫閒(タイコモチ)のことを罵つて云ふ。又官吏を罵る語として使はれてゐる。

(一七) 龜羔子 PIEH KAO TZU

龜とは海龜、スッポンのこと、羔子は子と云ふことで、王八蛋と同じ。

(一八) 龜公 PIEH KUNG

姦夫のこと、又は己の妻に賣淫せしむる男、又は妓夫の類を蔑稱する言葉である。

(一九) 龜蛋 PIEH TAN

スッポンの卵のことで恥知らずの子と云ふ意。

(二〇) 喝西北風 HO HSI PEI FENG

或る龍が九種の生物を產んだ。その中に龜の一種があつて、その龜は支那の廟の中で大きな石碑を背に負はせられてゐる。彼は一千年の生命をもち普通の食物を採らず只吹き來る風を吸うて生きてゐるのであるが、西北の風が比較的別な風より大きいため此の風だけを吸うて生命の持續を計つてゐると云はれてゐる所から龜のことを喝西北風(喝は飮む、吸ふ)と云ふのである。此の言葉は碌に食事を攝つて居らぬ貧乏者を罵つて云はれる。但しこの言葉は冗談にも云はれる。

(二一) 兎子 T'U TZU

一、孌童(カゲマ)のことを兎子と云ふ。兎は後脚が長い。男が尻を賣る時は兎のやうに尻を立てねばならぬので尻を賣る奴と云ふ意。

二、清朝時代縣知事等の地方官の希望者が、上官に賄賂として一家一族の莫大な財寶を搾取せられた擧句、やつと地方官の職の資格を得て遠隔の地に赴任するのであるが旅費が無い。自分の故鄕等に赴任したのでは流石に搾取が出來ない。それで任地は必ず遠隔の地が擇ばれるのである。又縣知事をすると云ふこ

とは一家一族の中で最も優秀な者を勉學させ、全財産を注ぎ込んで縣知事と云ふ地位に賭博的投資をすることなのである。從つて一人が縣知事になつた場合は一家一族の者で凡そ徒歩の可能な者は全部その縣知事と共に赴任地に赴いて、縣役所を占領してその投資額を回收し利潤を得るのである。即ち數十人數百人が遠隔の地に赴任するため莫大な旅費を必要とする。又任地に到着し得たとしても未だ地方官の資格を得た丈けであつて實際の職が當がはれてゐるのではない。その爲め現地に到着してからも相當の賄賂と生活費とを必要とするのである。この旅費、賄賂、生活費等は金店から借用するのである。原來この金店なるものは中央の大官連中が經營してゐるものである。支那社會では搾取した現金の投資市場なきため、彼等大官も表面上は金銀細工店を經營し、裏面では官吏相手に金貸をやつてゐる所である。○○縣の知事を拜命したが金を少し融通して呉れと申し込むと、金店では全國の徴稅一覽表が出來てゐて、返濟可能と思はるる範圍内で融通してやり、その赴任に際してこの金店から居催促をやる圖太い男を附けてやるのである。この兎は一寸でも待遇が惡ければ借金を理由としめて使用してゐる。腿とは脚のことで『腿子』T'UI TZU と云ふと密偵の手先をなす奴のことを意味して所構はず大聲で暴れ出すので始末に了へず一同の顰蹙を買つてゐる奴である。

(三) 兎腿 T'U T'UEH

狡猾なる顔附の形容として兎頭蛇眼と云ふ言葉がある如く、兎と云ふ文字は概して狡猾な意味を藏せる。兎腿とは拐匿が警報などを通報する役目の者を云ふ隱語である。

(四) 兎羔子 T'U KAO TZU (五) 兎崽子 T'U TSAI TZU

羔子も崽子も共に子と云ふ意。

(六) 狗崽子 KOU TSAI TZU

狗は犬、崽子は子。

(七) 放他媽的狗臭屁 FANG T'A MA TI KOU CH'OU P'I

放……臭屁は臭い屁を放つと云ふこと。この屁ひり野郎奴。

(八) 狗鷄巴日的 KOU CHI PA JIH TI

お前は犬と關係して出來た奴だ。

(九) 熊蛋 HSÜNG TAN

(九) 熊蛋包 HSÜNG TAN PAO

熊は態度がもそもそしてゐるので愚か者の意、蛋は卵。

愚かで弱々しき奴を罵る、山東人の間に用ゐらる。

(十) 熊餅子 HSÜNG PING TZU

同 前

罵 言

(六) 毛人 FA JEN

やくざ者、無頼者。

(七) 毛蛋 FA TAN

やくざ者の子。

(八) 毛孩子 FA HAI TZU

前差見込みのない子。

(九) 屁蟲 P'I CHUNG

屁ひり野郎。

(十) 賊種 TSEI

泥棒野郎。

(十一) 糊塗 HU TU

糊塗とは曖昧、誤魔化しのことで愚かな、馬鹿野郎の意。

(六) 糊塗人 HU TU JEN

(六) 同 前

(六) 糊塗蟲 HU TU CH'UNG

(七) 同 前

(七) 混蛋 HUN TAN

混とは南方の蠻人の蔑稱であり、又混るこという意味もあり、愚かな者の意である。

(七) 混賬 HUN CHANG

(七) 同 前

(七) 混混兒 HUN HUN ERH

遊民・無賴漢を罵る語。

(七) 混蹇子 HUN HSING TZU

同前、蹇とはがらはしの意。

(八) 傻子 SHA TZU

白痴、うすのろ。

(八) 傻蛋 SHA TAN

うすのろの卵。

(八) 傻花子 SHA HUA TZU

花子とは乞食のこと。

(九七) 櫻小子 SHA HSIAO TZU
小子は子供と云ふこと。
(九八) 櫻瓜 SHA KUA
うすのろ、櫻子と同じ。
(九九) 不是人 PU SHIH JEN、 (一〇〇) 不是貨 PU SHIH HUO、 (一〇一) 不是東西 PU SHIH TUNG HSI、 (一〇二) 不是料 PU SHIH LIAO
貨も東西も料も品物と云ふことで人間を指す。人でなし、碌でなし等の意。
(一〇三) 丫頭 YA T'OU
小女又は下女のこと、女を罵るに用ゐらる。
(一〇四) 丫頭坯兒 YA T'OU P'EI ERH
若い女を罵る語。坯とは人を罵る時發する語。
(一〇五) 小子 HSIAO TZU
男の子を云ひ、男を罵るに用ゐらる。
(一〇六) 不要臉 PU YAO LIEN
臉とは顔のことで支那人の所謂る『面子』のことである。即ち『面子』を要らぬ奴と云ふ意

(一〇七) 小樣兒 HSIAO YANG ERH
樣兒とは樣子、態度等の意、小は侮蔑の意。お前のその恰好を見ろ、そのざまは何んだ位の意。
(一〇八) 雜種兒 TSA CHUNG ERH
混血兒のこと。お前の母が外人と關係してお前を産んだのだ。
(一〇九) 雜種兒肏的 TSA CHUNG ERH TS'AO TI
混血野郎が姦してお前を産んだ。
(一一〇) 鷄巴打鼓 CHI PA TA KU
陰莖が太鼓を敲く。音樂師の下手糞を罵る語。
(一一一) 頭髮倒長着 T'OU FA TAO CHANG CHO
頭髮の毛なみが逆に生えてゐると云ふ意味であるが、含んでゐる意味は、お前はお前の母を姦する心があると云ふことである。これは清朝劉庸の故事に出づるものであるが、即ち劉が陝西に使した時、路で一人の少年を見て之を逮捕し、紅同縣に至り、その少年の父母を召喚して何時結婚せしやを詰問したが言を左右にして答へない。或る夜十二時に再びその父母を呼んで五穀を以て彼等の腹背を擦ると男の背に『子』と云ふ字が現はれ、女の背に『母』と云ふ字が現れたので彼等も初めて一切を白狀した。それによると繼母として嫁した母が夫の先妻の子と關係して夫婦になつてゐたのである。この夫婦の間に出

來た子供は即ち劉に逮捕された少年であつた。劉はその少年の頭髪が蓮に生えてゐるのを見て直ぐその事實を察知して逮捕したと云ふことである。この故事が一般化して罵言になつたと謂はれてゐる。

(一二) 吃草拉糞 CH'IH TS'AO LA FEN
草を食つて糞を垂れる奴、即ちお前は畜生だ。

(一三) 你不是人生父母養的 NI PU SHIH JEE SHENG FU MU YANG TI
お前は人間の父母から生れた奴ちやない。

(一四) 婊子養的 PIAO TZU YANG TI
お前は女郎の子だ。

(一五) 女活兒養的 NEWHUO ERH YANG TI
まだ結婚せぬ女から生れた奴、不義者の子、私生兒。

(一六) 隋娘改稼 SUI NI ANG KAI CHIA
支那では二つの姓をもつことを極端に嫌ふ。母に隨つて再び他家へ嫁いだ奴と云ふ意味。

(一七) 墻頭兒草帶來的子 CH'IANG T'OU ERH TS'AO TAI LAI TI TZU
塀の上の草は人が植ゑて出來た草ではない。お前の母はお前を實家から連れて嫁入りしたと云ふ意味である。

(一八) 鍋裏吃鍋裏拉 KUO LI CH'IH KUO LI LA
鍋から食べて又その鍋に糞をする。お前の家は父子姉妹で關係してゐると云ふ意

(一九) 血把灰 HSIEH PA HUI
父親が自分の娘と關係することを謂ふ。

(二〇) 把灰 PA HUI
父が子供の妻を横取りすること。

(二一) 你這把灰頭 NI CHE PA HUI T'OU
お前は子供の妻を盜む奴ぢや。

(二二) 撈毛的 LAO MAO TI
北京で遊女屋のボーイのことを撈毛的と云ふてゐる。毛をすくふ者と云ふ意味である。即ち遊女が下半身を洗つた水の中には陰毛が浮んでゐる、この水を棄てる役目はこのボーイであるが、ボーイはその浮んでゐる毛をすくひ取つて自ら樂んだり魔除として賣却したりすると云はれてゐる。

斯くまでも俗惡不潔な罵言をふんだんに持ち、然も厖大に存在する漢民族社會のすぐ隣りに生活し、且亦その漢民族に朝夕接してゐるのは我々大和民族である。日本人に對して公々然と斯した罵言が浴せられてゐるのに對して、言語の通ぜぬ日本人達は微笑を以て答へてゐる。

爲政者の三思五考を俟つてやまぬ次第である。

第十三節　暗號

(一)　搔拂ひの暗號

春林棧止宿の搔拂ひから聞いた暗號を列擧して見よう。

	暗號	發音	意味
1.	大把兒搳	TA PA ERH CHUA	手當り次第搔拂ふ盜人
2.	老二	LAO ERH	盜人・搔拂ひ
3.	有老二	YU LAO ERH	盜人がゐる
4.	線兒上的	HSIEN FRH SHANG TI	搔拂ひ仲間・同類
5.	一條線兒上的	1 TI'AO HSIEN ERH SHANG TI	同前
6.	合字	HO TZU	同前
7.	你是合字兒的麼		お前は同類か？仲間か？
8.	線兒	HSIEN ERH	內部の樣子を良く知つてゐる者
9.	聽々風兒去		外の樣子を見にゆく、聞きこみにゆく
10.	札手	CHA SHOU	難しい・面倒だぞ
11.	燙不燙	T'ANG PU T'ANG	やりよいか・難しいか
12.	燙手不燙手	YU JOU	同前
13.	有肉	YU JOU	獲物がある
14.	無肉	WU JOU	獲物がない
15.	魚多	YÜ TO	獲物が多い
16.	魚少	YÜ SHAO	獲物が少い
17.	不知魚多		獲物がとの位あるか解らない
18.	西方有水		西方に獲物がある
19.	猪	CHU	盜みに入つた家の主人のこと、肉があるから食べるに良いと云ふ意
20.	羊	YANG	同前
21.	亮子	LIANG TZU	燈火
22.	問々路	WEN WEN LU	家屋の中庭に石を放つて見ることで、

23.	問路石	WEN LU SHIH
24.	下院子	HSIA YUAN TZU
25.	蹦賬子	PENG CHANG TZU
26.	把着點兒	PA CHO TIEN ERH
27.	把合々々	PA HO PA HO
28.	臥底的	WO TI TI
29.	瞭合着	LIAO HO CHO
30.	望風兒的	WANG FENG ERH TI
31.	尋風兒的	HSUN FENG ERH TI
32.	把風兒的	PA FENG ERH TI
33.	看風兒的	K'AN FENG ERH TI

家内が寢靜つてゐるか否や等の動靜をさぐること
同前
盜みに侵入すること
他家の中庭に侵入すること
注意して見張つて呉れと云ふ意。これから盜みに入るからとか。盜品を見張つてゐてくれ等の意。
見ろ・注意せ
先に人家に侵入してゐる者のこと。
屋根で見張りをする
外で張番する者
同前
同前
同前

34.	風緊	FENG CHIN
35.	風兒緊的利害	FENG CHIN TI LI HAI
36.	西方風緊	HSI FANG FENG CHIN
37.	狗	KOU
38.	瞧狗	CH'IAO KOU
39.	出水兒	CH'U SHUEI ERH
40.	東方出水	TUNG FANG CH'U SHUI
41.	釣進去了	TIAO CHIN CH'U LA
42.	掉下去了	TIAO HSIA CH'U LA
43.	吊脚	TIAO CHIAO
44.	檢來的	CHIEN LAI TI

警戒嚴重
警戒極めて嚴重
西方が警戒嚴重だぞ
警察官
警察官が來たぞ注意せ
逃げろ
東方から逃げよう
拘引せられた
同前
捕縛せられた
盜んで來たもの

(二) 匪賊に關する暗號

南馬路の鐵管の中に寢てゐた劉と云ふ匪賊上りの男から聞いた暗號である。十月一日の國勢調査を恐れて逃げ廻つて鐵管の中にかくれてゐたものである。

暗號	發音	意味
1. 連子	LIEN TZU	馬
2. 叉子	CH'A TZU	牛
3. 鬼子	KUEI TZU	騾馬
4. 喬脚子	CH'IAO CHIAO TZU	雞
5. 鐵甲子	T'IEH CHIA TZU	猪
6. 皮子	P'I TZU	犬
7. 生點	SHENG TIEN	犬が鳴く
8. 拌副	PAN FU	飯を作る
9. 張子	CHANG TZU	餅(メリケンコを焼いて作る)
10. 翻張子	FAN CHANG TZU	烙餅
11. 漂羊子	P'IAO YANG TZU	餃子(豚饅頭)
12. 挑龍	T'IAO LUNG	うどん
13. 星々傘	HSING HSING SAN	栗飯

暗號	發音	意味
14. 啃副	K'EN FU	食事する
15. 略方子	LIAO FANG TZU	机を置く
16. 拌色	PAN SHAI	酒を飲む
17. 略蓮	LIAO LIEN	夜
18. 挑蓮	T'IAO LIEN	晝
19. 叉柵	CH'A CHA	曇天
20. 跳道子	T'IAO TAO TZU	河を横切る
21. 海	HAI	水
22. 鴨子	YA TZU	船
23. 火鴨子	HUO YA TZU	汽船
24. 白條子	PAI T'IAO TZU	雨が降る
25. 百清子	PAI CH'ING TZU	雪が降る
26. 叉襠子	CHA TANG TZU	支那服ズボン
27. 煖墻子	NUAN CH'IANG TZU	毛皮の裏をつけた長上衣
28. 順筒子	SHUN T'UNG TZU	鞋下

29.	平口子	P'ING K'ON TZU
30.	順副	SHUN FU
31.	靜底	CHING TI
32.	瓦頭	WA T'OU
33.	槽孔	TSAO K'UNG
34.	挑	T'IAO
35.	庭	T'ING
36.	靠扇	K'AO SHAN
37.	靠害	K'AO YAO
38.	渴拉	K'O LA
39.	上亮	SANG LIANG
40.	崩星子	PENG HSING TZU
41.	臺上	T'AI SHANG
42.	拐着	KUAI CHO
43.	嘈草捲	K'EN TS'AO CHÜAN

碗
箸
鍋
勺子
腹が空く
道を歩く
止る
門を開ける
庭に入る
部屋に入る
燈をつける
マッチ
オンドルに上る
坐る
煙草を吸ふ

44.	踢土	T'I T'U
45.	溜子	LIU TZU
46.	上夫子	SHANG FU TZU
47.	下夫子	HSIA FU TZU
48.	跳子	T'IAO TZU
49.	硬毛	YING MAO
50.	軟毛	JUAN MAO
51.	金	CHIN
52.	貼管兒	T'IEH KUAN ERH
53.	壽蘭	SHOU LAN
54.	寶蓋	PAO KAI
55.	連子線	LIEN TZU HSIEN
56.	抽龍	CH'OU LUNG
57.	順管	SHUN KUAN

暗號

鞋
滿洲特有の皮で作つた鞋、中に烏拉草を入れて暖い。
山を上る
山を下る
兵
林
高粱畑
錢
傷を受ける
死ぬ
馬の鞍
馬の手綱
馬の鞭
おじぎする

58.	磕	P'ENG
59.	不磕	PU P'ENG
60.	海草	HAI TS'AO
61.	晴江錯	K'EN CHIANG TS'O
62.	跑良子	P'AO LIANG TZU
63.	手花子	SHOU HUA TZU
64.	炮	P'AO
65.	竹子	CHU TZU
66.	罵駡	MA CHIA
67.	起水	CH'I SHUI
68.	水大	SHUI TA
69.	水小	SHUI HSIAO
70.	頂水	TING SHUI
71.	道子沿	TAO TZU YEN
72.	晴頂浪子	K'EN TING LANG TZU

知り合ひ	
知り合ひでない	
阿片	
豚肉を食べる	
鐵砲	
ピストル	
舊式の長銃	
輕機關銃	
戰爭する	
兵隊が來た	
兵隊が多い	
兵隊が少ない	
兵隊にぶつつかる	
河べり	
魚を食する	

73.	灣搶	WAN CH'IANG
74.	海沙子	HAI SHA TZU
75.	捽羊子	TSU YANG TZU
76.	駕良子	CHIA LIANG TZU
77.	攢線	TS'UAN HSIEN
78.	輪子	LUN TZU
79.	小輪子	HSIAO LUN TZU
80.	來袍子	LAI P'AO TZU
81.	軋連子	CHA LIEN TZU
82.	清子	CH'ING TZU
83.	洋框子	YANG K'UANG TZU
84.	進框子	CHIN K'UANG TZU
85.	登輪子	TENG LUN TZU
86.	軋鴨子	CHA YA TZU
87.	軋火鴨子	CHA HUO YA TZU
	暗號	

蝦	
鹽	
大便	
小便	
道にて掠奪する	
大車	
小車	
人が歩いてやつて來た	
騎馬の人がやつて來た	
刀	
哈爾濱	
街に入る	
車にのる	
舟にのる	
汽船にのる	

88.	軋火輪子	CHA HUO LUN TZU
89.	跳線	T'IAO HSIEN
90.	華線	HUA HSIEN
91.	找嘚拉	CHAO KO LA
92.	頓毛	TUN MAO
93.	蜜線	MI HSIEN
94.	跳硬道子	T'IAO YING TAO TZU
95.	硬扛子	YING KANG TZU
96.	小窩連	HSIAO WO LIEN
97.	大嘚拉	TA KO LA
98.	靠大扇	K'AO TA SHAN
99.	有羊子	YU YANG TZU
100.	有金	YU CHIN
101.	抓手	CHUA SHOU
102.	放亮子	FANG LIANG TZU

103.	河頭	HO T'OU
104.	燈樓	TENG LOU
105.	頂天	TING T'IEN
106.	着連	CHAO LIEN
107.	八花八花	PA HUA PA HUA
108.	申要子	SHEN YAO TZU
109.	雪花子	SHÜEH HUA TZU
110.	馬牙子	MA YA TZU
111.	紅連子	HUNG LIEN TZU
112.	粘條子	NIEN T'IAO TZU
113.	地球子	TI CH'IU TZU
114.	紫花子	TZU HUA TZU
115.	牛眼	NIU YEN
116.	頓子	TUN TZU
117.	紅羊子	HUNG YANG TZU

暗號

汽車にのる
人が行つた
警戒厳重
適當な所を探して住む
林の中に住む
こつそり行く
鐵道を横切る
山溝
小屋
大土塀
門が開かぬ
部屋の中に人がゐる
錢がある
人家の庭に入らせない
火を放つ

人の頭
目
帽子
持つて來い
見ろ
白米
メリケン粉
玉蜀黍
高粱
粟
里芋
なすび
ささぎ豆
窩瓜(胡瓜に似てゐる)
西瓜

118.	紅皮子	HUNG P'I TZŬ	赤大根
119.	綠英子	LÜ YING TZU	大根
120.	八葉	PA YIEH	大きい白菜
121.	扭軸子	NIU CHOU TZU	不明
122.	給求子	CHI CH'IU TZU	里芋を探して掘り出す
123.	申橋	SHEN CH'IAO	眠る

(三) 賭博の暗號

大觀園及びその附近で使用せらるる暗號、春林棧止宿の馮より聞いたもの。

	暗號	發音	意味
1.	賭頭	TU T'OU	賭場の主人
2.	馬子	MA TZU	賭場のボーイ
3.	點兒	TIEN ERH	外部から賭博をやりに來た者
4.	冷子	LENG TZU	警察官
7.	軍冷子	CHÜN LENG TZU	軍人
8.	便冷子	PIEN LENG TZU	普通の衣服を衣た密偵等のこと
9.	金點	CHIN TIEN	八卦家
10.	作藝的	TSO,I TI	俳優
11.	水滾子	SHUI KUN TZU	僞せ石鹼賣り
12.	裡馬	LI MA	玄人・專門家
13.	外馬	WAI MA	素人・門外漢
14.	團	T'UAN	云ふ
15.	團米	T'UAN MI	早く云へ
16.	要別	YAO PIEH	歩く・出かける
17.	鷄麻	CHI MA	早く
18.	鷄麻要別,	CHI MA YAO PIEH	走る
19.	快莫	K'UAI MO	出かけよう
20.	金身文	CHIN SHEN WEN	何處へ行くか
21.	發行	FA HSING	起る

暗號

22.	鴨攤	YA T'AN
23.	士少	SHIH SHAO
24.	何起呀	HO CH'I YA
25.	扣買賣	KO'U MAI MAI
26.	上地	SHANG TI
27.	下地	HSIA TI
28.	挑籃了麼	T'IAO LAN LA MA
29.	挑籃	T'IAO LAN
30.	魚挑籃	YÜ T'IAO LAN
31.	籃頭	LAN T'OU
32.	挺海	T'ING HAI
33.	籃頭挺海	LAN T'OU T'ING HAI
34.	籃頭罷	LAN T'OU PA
35.	?籃	不明

坐る
來たばかり
何時來るか
賭博商賣をする
街へ行くこと、賭博をやりに行くこと
賭博をやめて歸宅すること
賭博に勝ちましたか(賭場の挨拶語)
賭博に勝つ
賭博に敗ける
金錢
大變多い
金錢が多い
金錢を分けよう
負けましたよ。敗けた者が勝つた者に
金をやる時云ふ。

36.	磨托	MO T'O
37.	不拉馬子	PU LA MA TZU
38.	K'EI 蓋兒	K'EI KAI
39.	烏門	WU MFN
40.	撇枝	PIEH CHIH
41.	起了去了	CH'I LA CH'Ü LA
42.	點蓄奔	TIEN YAO PEN
43.	提成	T'I CH'ENG
44.	此窰	TZ'U YAO
45.	拔々	PA PA
46.	別	PIEH
47.	別々罷	PIEH PIEH PA
48.	拔々別冷子去	PA PA PIEH LENG TZU CH'Ü

組合つて賭博する
賭博をやめませう
牌や錢をかくす
二人が札をこつそり取換へる
骰を投げる
金を勝つて歸つた
金を負けて歸つた
賭博で儲けた金の中から幾らかづつの
金を强要すること。出さぬと色々うる
さい事を仕出かす。大抵無賴漢とか警
察官が來て、頭をはねてゆく。
派出所
見る。見張る、注意する
探す
探せ
敗けた者とか、無賴漢が警官の所へ行

暗號

49.	拔々無進此窖	PA PA WU CHIN TZ'U YAO	かぬか見ろ、注意せ
50.	拔々進此窖	PA PA CHIN TZ'U YAO	見たが警官派出所に入つて行かなかった
51.	下去	HSIA CH'Ü	派出所に入つて行つたよ・注意せ
52.	點窖奔回	TIEN YAO PEN HUI	(賭博をやめて)歸へる
53.	通窖奔	T'UNG YAO FEN	賭博で負けた者が又賭場に歸つて來た
54.	屯下	T'UN HSIA	皆逃げろ
55.	身靜	SHEN CHING	とまる
56.	何棍	HO KUN	風呂
57.	攤籃	T'AN LAN	風呂で汚を流す
58.	開着	K'AI CHAO	金錢をやる
59.	青腸蜜	CH'ING CH'ANG MI	料理屋へ行くこと
60.	鷄薄	CHI PAO	腹一杯たべる
61.	金薄	CHIN PAO	饅頭
62.	拉片	LA P'IEN	大餅子
			餅

63.	黃丸	CHU WAN	豚饅頭
64.	窩沙	WO SHA	うどん
65.	多羅	TO LA	切餅(モチ米で作つた切り賣りする餅)
66.	扛鴨	KANG YA	鍋餅(直徑一尺以上ある餅、苦力達が食す)
67.	金發	CHIN FA	不明
68.	傷餅	SHANG HAN	目藥
69.	托餅	T'O HAN	膏藥
70.	拐子	KUAI TZU	相薑と云ふ藥の名。酒に溶かしてのむと百病を治すと云はれてゐる
71.	草 K'EI	TS'AO K'EI	煙草
72.	四大地	SSU TA TI	四方
73.	道地	TAO TI	東方
74.	茄地	CH'IEH TI	西方
75.	陽地	YANG TI	南方

76.	磨地	MO TI	北方
77.	臥子	WO⁴ TZU¹	地訳
78.	在甚麼臥子	TSAI SHEN MA WO TZU	何處か
79.	柳炸子	LIU CHA TZU	一錢
80.	月炸子	YÜEH CHA TZU	二錢
81.	王炸子	WANG CHA TZU	三錢
82.	揸炸子	CHAI CHA TZU	四錢
83.	中炸子	CHUNG CHA TZU	五錢
84.	申炸子	SHEN CHA TZU	六錢
85.	興炸子	HSING CHA TZU	七錢
86.	張炸子	CHANG CHA TZU	八錢
87.	乃炸子	NAI CHA TZU	九錢
88.	柳牌兒	LIU P'AI ERH	十錢
89.	柳牌兒柳	LIU P'AI ERH LIU	十一錢
90.	柳牌兒月	LIU P'AI ERH YÜEH	十二錢

91.	柳牌兒王	LIU P'AI ERH WANG	十三錢
92.	柳牌兒揸	LIU P'AI ERH CHAI	十四錢
93.	柳牌兒中	LIU P'AI ERH CHUNG	十五錢
94.	柳牌兒申	LIU P'AI ERH SHEN	十六錢
95.	柳牌兒興	LIU P'AI ERH HSING	十七錢
96.	柳牌兒張	LIU P'AIERH CHANG	十八錢
97.	柳牌兒乃	LIU P'AI ERH NAI	十九錢
98.	月牌兒	YÜEH P'AI ERH	二十錢
99.	王牌兒	WANG P'AI ERH	三十錢
100.	揸牌兒	CHAI P'AI ERH	四十錢
101.	中牌兒	CHUNG P'AI ERH	五十錢
102.	申牌兒	SHEN P'AI ERH	六十錢
103.	興牌兒	HSING P'AI ERH	七十錢
104.	張牌兒	CHANG P'AI ERH	八十錢
105.	乃牌兒	NAI P'AI ERH	九十錢

106.	柳該	LIU KAI
107.	月該	YÜEH KAI
108.	王該	WANG KAI
109.	摘該	CHAI KAI
110.	中該	CHUNG KAI
111.	申該	SHEN KAI
112.	興該	HSING KAI
113.	張該	CHANG KAI
114.	乃該	NAI KAI
115.	朱該	CHU KAI
116.	朱該柳	CHU KAI LIU
117.	月朱	YÜEH CHU
118.	王朱	WANG CHU
119.	摘朱	CHAI CHU
120.	中朱	CHUNG CHU

一圓	
二圓	
三圓	
四圓	
五圓	
六圓	
七圓	
八圓	
九圓	
十圓	
十一圓	
二十圓	
三十圓	
四十圓	
五十圓	

121.	申朱	SHEN CEU
122.	興朱	HSING CHU
123.	張朱	CHANG CHU
124.	乃朱	NAI CHU
125.	柳拍	LIU P'AI
126.	柳拍中	LIU P'AI CHUNG
127.	月拍	YÜEH P'AI
128.	王拍	WANG P'AI
129.	摘拍	CHAI P'AI
130.	吃花葉子	CH'IH HUA YIEH TZU
131.	蘭硬方子	LAN YING FANG TZU
132.	蘭釣甲子	LAN TIAO CHIA TZU
133.	吃木絲子	CH'IH MU SSU TZU
134.	吃片子	CH'IH P'IEN TZU

六十圓	
七十圓	
八十圓	
九十圓	
一百圓	
一百五十圓	
二百圓	
三百圓	
四百圓(以下略)	
紙牌を見る	
牌九	
押寶	
碁をやる	
押黑紅牌	

(四) 金鑛掘りの暗號

河北省生れの侯と云ふ三十歳になる男から聞いた暗號である。彼は金鑛で苦力として働いてゐたことがある。

	暗號	發音	意味
1.	金鎬	CHIN KAO	鶴嘴
2.	金鍬	CHIN CH'IAO	たたく
3.	毛	MAO	土
4.	毛沙	MAO SHA	砂
5.	哥拉	KO LA	石
6.	金哥打	CHIN KO TA	一山に積まれてゐる木材
7.	金碗	CHIN WAN	碗
8.	金筷子	CHIN K'UAI TZU	箸
9.	金鍋	CHIN KUO	鍋
10.	金盤子	CHIN P'AN TZU	皿
11.	金勺子	CHIN SHAO TZU	しやもじ
12.	壽蘭	SHOU LAN	大きいブリキ製の勺子

(五) 人參掘りの暗號

滿洲では人參・金の盜掘は嚴禁せられてゐた。これをめぐつて匪賊が發生した。當然暗號もある譯である。春林棧止宿の馮より聞いたもの。

	暗號	發音	意味
1.	放山	FANG SHAN	人參を掘ること
2.	鎖洛杆	SO LAO KAN	木の棒(人參を掘るに用ふ)
3.	礽見頓子	P'ENG CHIEN TUN TZU	人參一棵見つけた
4.	礽見片兒	P'ENG CHIEN P'IEN TZU	人參二棵見つけた
5.	起了走	CH'I LA TSOU	掘つて行く
6.	拿火	NA HUO	マッチ
7.	拿片	NA PIEN	ころぶ

8.	拿飯	NA FAN	飯を喰ふ
9.	拿鍋	NA KUO	鍋
10.	拿碗	NA WAN	碗
11.	拿勺子	NA SHAO TZU	勺子
12.	拿筷子	NA K'UAI TZU	箸
13.	拿盤子	NA P'AN TZU	皿
14.	拿缸	NA KANG	缸
15.	拿覺	NA CHIAO	眠る
16.	拿水	NA SHUI	水
17.	拿烟	NA YEN	煙草
18.	拿袄	NA AO	長上衣
19.	拿袍	NA P'AO	綿入の上衣
20.	拿褲	NA K'U	支那服のズボン
21.	拿布	NA PU	布を用ゐる
22.	拿手巾	NA SHOU CHIN	手拭を用ゐる

23.	拿刀	NA TAO	刀
24.	拿線	NA HSIEN	木綿絲
25.	拿酒	NA CHIU	酒
26.	拿菜	NA TS'AI	菜
27.	拿麵	NA MIEN	うどん粉
28.	拿米	NA MI	米

(六) 賣卜者の云ふ暗號

	暗號	音	意味
1.	受過誰的串兒	SHOU KUO SHUI TI CH'UAN ERH	誰から習ひましたか
2.	金買賣	CHIN MAI MAI	賣卜者達の自職自稱
3.	冷子	LENG TZU	警察と軍人
4.	明冷	MING LENG	制帽の警官・軍人
5.	暗冷	AN LENG	私服の警官・軍人

暗號

6.	奔頭碼子	PEN T'OU MA TZU	商人
7.	卡拉	K'A LA	苦力
8.	蘭	LAN	金のこと
9.	碼子	MA TZU	人のこと
10.	春點	CH'UN TIEN	暗語のこと
11.	今天你挑蘭海減	CHIN T'IEN NI TIAO LAN HAI CHIEN	今日貴方は何程儲けましたか
12.	中乾蘭頭	CHUNG KAN LAN T'OU	五圓です
13.	劉	LIU	一
14.	月	YÜEH	二
15.	王	WANG	三
16.	在	TSAI	四
17.	中	CHUNG	五
18.	身	SHEN	六
19.	興	HSING	七
20.	張	CHANG	八

21.	耐	NAI	九
22.	居	CHÜ	十
23.	劉乾蘭頭	LIU KAN LAN T'OU	一圓
24.	月乾蘭頭	YÜEH KAN LAN T'OU	二圓
25.	王乾蘭頭	WANG KAN LAN T'OU	三圓(以下略)
26.	老游兒	HAI HSÜAN ERH	王八(罵言)
27.	山招兒	SHAN CHAO ERH	兎子(罵言)
28.	挑山招兒	T'IAO SHAN CHAO ERH	お尻を賣る意(罵言)
29.	點	TIEN	客のこと
30.	游點	HSÜAN TIEN	王八(ワンバ)や兎子(トウズ)と同樣罵言

(七) 左官職の云ふ暗號

暗號	發音	意味
1. 白線	PAI HSIEN	左官

2.	黒線	HEI HSIEN
3.	紅線	HUNG HSIEN
4.	老大	LAO TA
5.	老二	LAO ERH
6.	老三	LAO SAN

第十四節　宿泊人の末路

(一)　裸體の屍に關する民衆との會話

大觀園の裏通り、長春三道街東昇湧燒鍋(燒酎釀造業)の前の大通りの眞中に屍が一つ上向きに轉がつてゐる。この屍の直ぐ側の屋臺店で飮食してゐる連中に仲間入りをして筆者が、死體を眺めながら彼等と話をして見た。

「あの死體は何時から轉つてゐるか？」

「昨日からあつたよ」

「體が腐つてゐるが、何うしたのかね？」

大工	
石工	
石工	
大工	
左官	

「知らん。モヒ注射のあとが腐つたんだらう」

「あの死んでる男は誰か知らんか？」

「知らん。昨日だつたか、何時だつたか、其處の李家大院(大觀園裏通りの長春街を隔てた所にあり、その中に木賃宿九軒・モヒ密賣所十數軒あり)の庭でフラフラしてゐたやうだつた」

「昨日フラフラしてゐた時から、あのやうに眞裸だつたのかい？」

「まさか、ハハハ……」一同哄笑。

「時にその豆腐汁兒は美味しいかい？」

「美味しいですよ、一杯如何？」

死體の直ぐ側から盛り上るやうに雜沓する人の群。飮食してゐるもの。茶を飮んでゐるもの。盜品を賣つてゐるもの。買つてゐるもの。摺摸を路上に並べて賣つてゐるもの。ひやかしてゐるもの。壁際に胡坐しながら裁縫してゐる女(劉縫縉 CH'UNG FÊNG FU と云はれ、街頭の路傍に坐して道行く人々の鞋下、綻び等を縫つて生活の資を得て居るが、勿論淫賣もする)、それを取り卷いて淫蕩に笑ふ一群れ、かうした人達に死體が街に放棄せられてゐる度に、筆者は色々な質問をして見た。それに對する大體の答は、知らん、笑つて答へぬ、聞いて何するか、あなたは何處の者か等々であつて、中々答へて呉れる者がなかつた。私は無駄な程長い時間をかけて、多くの人達からやつと次の如き答を得た。その斷片的な答を綜合す

ると

一、何故死んだか？

(1) 腹が減つたのさ

(2) モヒがきれたんでせう

(3) 寒さのため凍え死んだんでせう

(4) 病氣でせう

(5) 老衰したんでせう

二、何故眞裸になつてゐるか？

(1) 死人に衣物は用があるまい

(2) 誰かに奪られたのさ

(3) モヒを買ふために自分で裸になつたのさ

三、何時衣物を剝がれるか？

(1) それあ、死ぬ前さ

(2) うんうん唸つてゐる時さ

(3) 燒酎をくらつて眠つてゐる時さ

(4) モヒを吸うて熟睡してゐる時さ

(5) 宿代を拂はぬ時さ

(6) 病氣になつて、金のない時さ

(7) 朝鮮人のために五十錢のモヒ代として衣物をとられたのさ

四、同じ奪るなら何故死んでからとらぬか？

(1) 死んでから奪らうたつて、それまでに誰かにとられてしまふぢやないか

(2) 死んでからとると衣服に死臭がつく、そんな衣服は何枚着ても體が暖らぬ

(3) 死んだ奴から衣物を奪つて、それを持つてゐると必らず祟られる

(4) 生きてる時なら何人でもして一緒に奪るから、剝がれた奴は一々覺えてゐないので祟られない

五、死體から衣服を剝ぐことはないか？

(1) 一寸剝げんでせう（恐しくて）

(2) 剝ぐのは市公署の衛生夫だ（死體を集めに來る市の滿系衛生夫）

(3) 墓場へ行つて棺桶から剝ぐ奴はあるさうだ

六、誰が一體剝ぐのか？

(1) 宿屋の同宿の者だらう

(2) 宿のボーイか帳場だ
(3) 乞食さ
(4) 通行人さ
(5) 腹の減つてる奴さ
(6) モヒ患者さ

七、死體が路傍になくて道の眞中にあるのは何うした譯か?

(1) あそこで死んだんだ
(2) 誰か運んで來たんだ
(3) 宿で棄てさせるんですよ
(4) 誰か軒下で死ぬとその家では五月蠅いから(かかり合ひを恐れて)道路の眞中に棄てるんだ。(他人の家の前に棄てると、その家から必ず苦情が出て悶着が起きるので、彼等は決して他人の家の前には棄てない。彼等は自分の家の前で死なれた場合でも、自分にかかり合ひが來ぬやうに他へ引ずつて行つて棄てる)。
(5) 宿で死なれたら宿で困るので街に棄てさせるんだ

八、道路に棄てられてから、まだ眞裸で生きてゐるのがあるが何うしたんだ?

(1) 執念深い奴だから生きてるんでせう
(2) 裸になつてるからつて死ぬとは限らん
(3) たつた今宿から裸にされて棄てられたんでせう
(4) 路で行倒れた時、通行人に剝がれたばつかりの時は生きてゐますよ
(5) 剝がれてからだつて幾らでも生きて歩いてる奴はありますよ

九、可哀相と思はぬか

(1) まあ、可哀相でせう
(2) 俺達に何が關係あるもんか
(3) いいぢやないですか、他人のことだもの

一〇、あんなことをして酷いとは思はぬか

(1) それあ、仕方ないよ
(2) 彼奴等には何も解らんのですよ

一一、こんなことをして祟られぬか

(1) いい死に樣はせんだらう
(2) でもお互ひだからなあ

宿泊人の末路

(3) 廟にお詣りして線香を焚いてゐさへすれば祟られんと

一二、お前達は見てゐて腹が立たぬか（この質問は支那人に對しては凡そピントがはづれてゐること
を、筆者は承知しぬいてゐるが斯う訊いて見た）

(1) 腹が立つ？何故？

(2) 俺達にそんなことをきいたつて解るもんか、關係ないぢやないか

一三、あそこに一人放り投げられてゐてまだ生きてゐる（筆者は夜中の二時頃長春街の暗い大道の眞
中で、その全裸で棄てられてゐた男を知らずに踏んだ途端に、彼は伸してゐた手をばつたり縮めた。不
意をくらつた筆者の足は心臟よりも遙かに慌てて駈け出してゐた。本能的に筆者は救ふ氣になり藥と醫
者とを探すために、店と、夜廻りと、滿系巡査とに救助を依頼した時の彼等の返辭は）

(1) 店舗で『電話はありませんよ、今に死にますよ』

(2) 市場の夜廻り『懷中電燈もマッチもない。死體なんかこつちの方にだつて轉がつてゐるよ』

(3) 滿系巡査『ふん！』と微笑して『お前は誰だい？』

以上、筆者のなした民衆との會話に於ける返辭と、この暴戻無慙な事實との中に、果して漢民族らしい
特定の心理が作用してゐないと誰が斷言出來るであらう。次に筆者の直接聞き、直接見た、形容に窮する
慘虐な事實の二、三を列擧して見よう。

(二) 生きてゐる屍・死んでゐる屍

此處では死んでゐる屍と生きてゐる屍とに就いて報告することにする。大觀園及び大觀園の附近に足を
踏み入れた者は、その邊の道路や階段の下などに、恰もたつた今墓穴からでも這ひ出して來たかのやうな、
素裸のままの屍を見ることが出來るであらう。此等の死體は、生きることに疲れ果てたモヒ患者、又は行
路病者が自ら其處まで足を運んで來て悶倒し、その死の直前に於て道行く人々に一切合財を剝奪し盡され
た亡者共の死體か、さもなければ附近の木賃宿から放り出される死體に就いて報告する。

一、木賃宿に於ける病人の仕末

是は春林棧止宿の馮登釣と云ふ男から直接聞いた話である。そして彼の談話が事實であるか何うかを確
めるためには、手間隙を要しなかつたのみか、もつともつと恐しい事實ばかりであつた。

若し木賃宿の屍臭のやうな陰暗の漾ふ屋根裏で、欠伸の連發・唾液のたれ流し、眩惑・嘔吐・下痢・更に性
器の異常なる充血・勃起・遺精・夢精等々に苦惱してゐる人間が居つたなら、そ奴の運命はきつと永いこと
はない。この男はさうした狀態を續けること四、五日にして完全に虛脫放心した狀態となる。彼は勿論モ
ヒ患者である。これは前述せし如く人間の生き通したい强靱な生命力が、死に對して執拗に抵抗する慘澹
たる現象である。一旦モヒに取憑れた人間が、モヒから離れることは死よりも苦しいのである。

この死の苦痛より救はるるためにはモヒの吸飲量を増加する外はなく、吸飲量を増加するためには、掻拂ひを多くする外はない。然し怠惰は吸飲量の増加に正比例して甚しくして行く。從つて必死の掻拂ひにもかかはらず、身體の要求するモヒに不足を來し、再び猛烈なる禁斷現象にさいなまれる。斯くする度に肉は痩せ、骨は削られるのであるが、その男の視力を失つた眼瞳が見据ゑられたやうに宙に凝固したり、還かれたやうにさめざめと歔欷いたり、忌はしい咳に虐まれながら啜るやうに呼吸を貪るかと思ふと、屍のやうに默りこくつてしまふ。この頃になると愈〻永いことはない。

微かに襲うて來る痙りのやうな發作に、吐き出される唾液すら涸渇して口も唇も乾き切つてしまふ。此の時である。此の瀕死の男の苦悶をちつと見つめながら取圍む同宿の人達は、獲物を狙ふ禿鷹のやうに此の時機の到來を待つてゐた殘忍と貪慾とに汚れた執拗な吸血鬼どもである。

人間の世界に於ては如何なる人間も人間としての唯一の證據として、衣服だけは身體に着けて死ぬことを裏ふであらう。然しそれは私達人間の世界に於ける話である。此處ではその同宿の人達の誰からともなく、餓鬼のやうに痩せ枯れた手がさつと降されたら最後、瀕死の男の身體からは見る見るうちに襤褸布が一切合財毟り取られてしまふのである。斯くの如き瀕死人からの衣服の剝奪は、その病人が糞尿の垂流しをやる直前、卽ち此の時に行はれるのである。それは病人の衣服——たとへそれが襤褸布であつても、それがモヒ患者や病毒に犯された患者の異樣な臭氣を放つ糞尿に依つて汚されゝば、その商品價値が低下するからである。

暴戾な吸血鬼どものなすが儘に剝奪せらるる病人の喉はひきつつて、切れ〴〵な唸聲すら乾きついて只有るか無しかの呼吸を貪つてゐるだけである。身に附着する一切の襤褸布の無慙な剝奪の最後に、その千からびた生きながらの屍に先を爭つて飛び着いた數名の者がある。こ奴等は此の剝奪し盡された素裸の男から尙も搾取しようとしてゐるのである。彼等はその瀕死の男の襤褸衣服かその他の分配にありつき得なかつた連中である。が然し闇の世界にも闇の秩序があつて、その飛び着いた數名の中から瀕死の男の頭と足とに手を掛けた二人の者が勝利者となつて、他の數名はおとなしく手を引く。之が此の宿の規定なのである。宿の規定に依れば斯くの如き病人を屋根裏から土間に引きずり降す者は二人限りと決められてゐる。何故か？卽ち宿の帳場からはその引きずり降した二人の男に、引降賃として一人に付き金十錢也を渡されるからである。然るが故に此等吸血鬼どもは瀕死の男の哀訴を抹殺して、二人の同宿者は病人を屋根裏から文字通り引きずり降して(屋根裏には階段がない)、一先づ奥まつた暗がりの土間に抛り投げて置くのである。

何處も彼處も一樣に壞れかかつてゐるこの病人は、彼等の凶惡な暴力に、內臟でも吐き出すかのやうに切れ〴〵な呻吟を續けてゐるが、それも暫しで、この生きながらの屍は土のやうに默りこくつてしまふ。歯車に咽喉笛でも喰ひつかれたやうな忌はしい呻聲が、因果にも帳場の「二掌櫃(アルヂヤンシグイ)」か、「ボーイ」の耳にでも

殴れたら最後、彼等の情け容赦もないたつた一撃に依つて、のろ〳〵と全身を伸してしまはねばならない。

さて、その夜の二時頃。宿泊人の中から更に二人の男が選ばれる。そしてその土間に轉つてゐる死骸——その時まだ生きてゐる屍と、既に死んでゐる屍とがある——を、土間から運び出して道路の眞中に棄て去るのである。此の屍を運び出した二人の男は、大抵その日の宿代金十錢也を支拂つてゐない男達であり、宿から道路までの死體運び賃一人に付き金十錢宛の賃銀は彼等の未拂宿代として清算せられる譯である。

筆者が康徳七年四月十四日午前二時頃傳家甸長春三道街東昇湧燒鍋の前の道路の眞中で見た棄てられたばかりの屍はたしかにまだ生きてゐた。勿論素裸のままで。

二、生きながら凍り死んだ男

これも筆者が直接見てゐた事實である。

大觀園春林棧の裏口——そこは大觀園の便所になつてゐる——。其處の凍り着いた糞尿の上に汚辱にまれた崔襖布を身に纏つた一人の男が、恰度干からびた崔襖切のやうに崩れて悶倒してゐた。骨張つた額の底に深く落込んだ眼球は死の色を湛へて動かない。只時々鼠にでも取りつかれたやうに齒を喰ひしばつて枯葉のやうに痙攣する。それは瀕死の蛇よりも執念深い生の本能の痙攣だ。朽ち木のやうに枯れ細つた腕は放り出されたままで、その指端はもう凍りついてゐた。糸屑のやうに切れ〳〵な呼吸が有るか無いかに細く、呻き聲すら無い。それを取圍んでゐた人々の目は倒れた男に吸ひ付けられた儘、淺猿しくもちつと動かない。無言。

彼等は自分自身の人生の終焉をこの悶倒してゐる男の姿の上に如實に見詰めながらも、その人々の白濁の光を失つた眼には、人間らしい良心も、感情も、些かの表情の片鱗すら見られない。獲物を狙ふ動物よりも邪悪に満ちた眼は、ちつとその時機を狙つてゐたのであらう。蛞蝓のやうな顔をした男の眼が異様に光つたと思つた途端、彼の手が倒れてゐる男の腹を狙つて下された。——支那人は金錢を下腹に隠匿してゐる——。それを潮に四方から餓鬼のやうな手が、倒れた男に一様に殺倒した。忽ちのうちに上衣が剝ぎとられ、ズボんが毟り取られ、靴が、靴下が、シャツが、襤褸が皆ばら〳〵に剝奪され盡してしまつた。獲物を得た餓鬼共は、各自の獲物の多少を見較べてゐたが、嫉妬心すら疲れてゐるのであらう。依然として無言の儘、然も何事も無かつたかのやうに寒々と人混みの中へ消えて行つた。モヒと交換するためである。

全裸に剝奪し盡された裸形の男は、全く干からびた爬虫類よりも醜く土にへばり付いて動かない。病毒に局部は腐爛し、全身は麻藥の針の跡で爛れてゐるが、滲み出る濃汁すらない。唇から頬にかけて蒼黒い一線。衣服を掠奪せられた時に吐き出された最後の汚物なのであらう。もう凍り附いてゐる。末梢神經だけまだ生きてゐたのか戰慄が續いてゐたが、それも見る〳〵うちに手から足から凍りついて行つた。彼が

完全に死ぬためには、裸にされてから五分も必要としなかつた。

用便に來る大觀園の連中は一人として足を止めて見る者とて無く、又かとも思はないのであらう。嚴冬の闇がひた〳〵に押寄せて來て、何事も無かつたかのやうに更けてゆく。

康德七年二月二十四日と私のメモに記されてある。

(三) 屍の始末

以上の如き無慙な死體は如何に始末されるか。

死體の放棄せられてある箇所は大觀園中央の階段下、春林棧裏の便所、大觀園表通り富錦街、同裏通り長春街等が最も多いやうである。大觀園の階段下には全裸の死骸が、枯柴のやうに積み上げられてゐる。三體か五體らしい。その屍の直ぐ前では一回四十錢也の淫賣代を値切る男の群で歩く餘地すらない。長春三道街では全裸の死體から六尺と離れない所で、飲食の屋臺店が客を集め、その横では調子の輕快な「數來寶」のお喋りが拍子よく流れ出て、止めどもなく群衆を笑はして居り、それに續いて左右に開けた「鬼市」(KUEI SHIH 盜品路上即賣所)には人が盛り上る程うよついてゐる。

斯くして相當の死體が集積せられた頃に、市公署の衛生自動車が來て是等を拾ひ歩くのである。衛生夫は丁度魚屋が魚を勘定する時に用ゐるやうな大きな鈎を持つてゐて、死骸の首に引懸けて大きな乾鱈でも引ずるやうにして自動車に積み上る。不愉快さうである。と云ふのは死體が赤裸で、一物をも衛生夫達のために身につけてゐて呉れないからである。時たま衣を着けた儘の死骸にぶつつかると彼等は我が意を得たりと悦ぶのである。死骸の衣服は勿論彼等の役得である。

衣服を纏つた儘の死骸は筆者の直接算へた所に依れば、八十餘個の死體中六體しかなかつた。滿洲國政府の刑務所で獄死した人間すら、刑務所から墓場まで來る間に完全に素裸になつてゐるのである。勿論運搬夫の收入である。

さて市公署では斯くして集められた死體の足首に、番號の入つた小さいブリキ製の札を結びつけて、俗稱「萬人坑」(WAN JEN K'ENG 萬人も入る大きな穴と云ふ意味で、市では豫め大きな穴を掘つておいてそれに死體を抛りこむので斯く云つてゐる)。正確には『南崗大有坊市立貧民義地』の大穴に文字通り抛りこむのである。

一、萬人坑(南崗大有坊貧民義地)

義地とは共同墓地と云ふことで、元來貧民のために官より土地を與へて墓地となせる土地、又は慈善家の義捐に依つて開いた墓地のことである。

本墓地は西暦一九三六年創設せられ、一七、〇〇〇平方米の總面積をもつて居り、市公署に於て管理してゐる。此の墓地には滿人小屋が一軒あつて四人の滿人が墓守をしてゐる。その中一人だけは正式に市公署から一月二十圓の給料を貰つてゐるが、他の三人は葬式があつて、一つの穴を掘る度にその家から金六

十四錢を貰ふことになつてゐる。六十四錢と云ふ端數のあるのは、大同元年頃までの哈爾濱大洋（銀）の相場を、その儘その當時の國幣に換算して（滿洲國幣一圓が哈爾濱大洋で八十錢だつたため ∞×∞＝∞ の數となる）、それが現在までその儘要求されてゐる譯である。この貧民義地には誰でも市公署に一圓五十錢を納入しさへすれば、埋葬させて呉れることになつてゐる。

さて大觀園附近で集められた死體は行路死亡者として、此處の萬人坑に抛りこまれるのであるが、その穴の大きさは縱七米・横二米・深さ二米位の大きさを持つて居り、一個の穴で八十體から百體位を收容出來るのであるが、夏季は腐爛して惡臭を放つため、穴に抛り込んで土を薄く被せて置くが、冬季は穴一杯になるのを待つて土を被せるのである。私達が二月初め此處に行つた時には、斯くの如き穴が八つも掘られてゐて、その一つの穴には八十餘個の死體が枯柴のやうに積まれてあつたが、四月再び訪れた時には、穴が三つより殘つてゐなかつた。恐らく何の穴も、何の穴も、あの無數な妻を以て埋め盡されてあるのだらう。私達の歩む足元のぶよぶよした土の中から子供の手、大人の足がのぞいてゐる。（口繪寫眞）

番人小屋の机の上には行路死亡者埋葬數記入中の表が一枚あつた。その表には

三月滿	人	男	九四
滿	人	女	八

四月（十七日まで）	滿	人	男	八四
	滿	人	女	二

	俄（ロシヤ人）	人	男	六
	俄（ロシヤ人）	人	女	三
	總計			一一一

	俄	人	男	一
	俄	人	女	
	小計			八七

とあつた。此の數字は市公署發表のものと異るが、それは身許不詳の行路病者は必らずしも此處に埋葬するとは限らないからである。

二、陸家義地（太平橋公益街）

私達が康德七年二月初めて傳家甸を訪れた時、斯うした話を聞いた。『先日警察派出所前に、日本の叭に人間の腸が一杯入れられて放棄せられてあつた。又街頭に棄てられてある死體中には、日本人らしきものが毎月必らず見られる。身許不詳の引取人のない死體は、萬人坑その他の墓地に葬られるが、首や手足のない死體は、陸家義地の鬼王廟に持つて行つて埋められる。鬼王廟からは屍を蓙包みにして他へ發送してゐる者がある。引取人のない屍は解氷を待つて松花江に流し、棺桶は薪にして仕まふ』云々と。

その陸家義地である。總面積四九、九八〇平方米、陸氏の創設に係かはる墓地である。維持費負擔者は滿系天主教會となつてゐる所を見ると、陸氏は天主教信者なのかも知れない。墓守り陸氏の語る所に依れば、此處の墓地は宣統三年陸氏の開いたもので、現在十五晌（一晌は日本の六反歩餘に當る）の墓地を持つ

て居り、主人の陸文英、五十六歳は公益街三五號が本宅であるが、今新市街趙家大院兒に住んでゐる。現在此の墓地を一家十二人で所有してゐて、その收入で一家が樂に暮してゐる。收入としては埋葬料、棺桶一時預料、葬儀屋よりの謝禮金等が主なるもので、その他墓詣りに來た者よりの臨時收入も亦バカにならない。埋葬料としては葬家から三圓を貰ひ、葬儀取扱店からは一年に四圓づつ貰つてゐる。棺桶一年間の預料としては大體二十圓・十圓・五圓(交渉の仕方如何に依つては價格に相異がある)になつてゐる。二十圓の分は墓守陸家の家屋に隣接した小屋の中に預り、十圓の方はその庭に預り、五圓の口は門外から續く墓場に預つて置くのである。靈柩の預り期間は何年でもよく、大抵二年三年、長いのになると五年六年と云ふのもある。

支那人は埋葬に際しては『風水先生(フォンスイシエンシヨン)』(FÊNG SHUI HSIEN SHÊNG)といふ土地の地相或は方角、又は埋葬の期日をトする陰陽家の說を聞いて、葬儀萬端のことを取計ふのであるが、風水宜敷きを得ば子孫繁昌すといはれてゐる。此の支那人の迷信を奇貨として、風水先生は富裕者に對しては、尤もらしい理窟と共に何の方角に何年間停靈(靈柩を埋葬せずして置くこと)して置いて、何年後に何の方角に埋葬せよと御託宣をやるのであるが、此の間墓守と風水先生との間に結托があることは屢〻聞く所である。即ち金持に一年でも長く停靈さしておいて預料をせしめ、それを山分けすると云ふ寸法である。それはそれとして、私はこの陸家義地に於て、風水先生との間に斯くの如き結托があるか無いかは知る必要もないのであるが、この墓地では年五、六百圓の純益を擧げてゐると云ふのは彼自身の話であるから間違ひあるまい。

此の陸家義地には鬼王庙があるために人々は『鬼王庙(クイワンミヤオ)』(KUEI WANG MIAO)と呼稱してゐる。この鬼王庙は大平橋在住の人々が金を出し合つて、宣統三年に建立したもので現在慈善會で祀つて呉れてゐる。清明節(陰曆三月の節句にしてこの日祖先の墳墓に詣で祭祀をなす)・七月十五日・十月一日を『鬼節(クイジエ)』(KUEI CHIEH)として祭つてゐる。自分の墓が不明になつた家族は、この鬼王庙の前で紙を燒いて(支那人は葬式又は墓詣りに紙を燒き靈を祀る)歸る。

三、墓地數

哈爾濱特別市所在公墓は總計二十九箇所ある。

市公署籍墓地五箇所、滿洲人籍墓地十五箇所、外國籍墓地七箇所、不明墓地二箇所、計二十九箇所である。

墓地及び貧民墓地管理規則に關しては、市公署衛生科の調査表(計數に誤植又は誤記あるもすべて、原資料の儘とす)に依らう。

附表(一) 哈爾濱特別市所在公墓義地一覽表(其ノ一)

哈爾濱特別市公署行政處衛生科調査
康德三年五月編造

墓地名	所在地	管理者代表	維持費負擔者	墓地ノ種類別 有料	墓地ノ種類別 無料	墓地ノ種類別 廢棄	創設年號(西曆)(經過年數)	面積(平方米) 既葬面積	面積(平方米) 未葬面積	面積(平方米) 總面積
市公署籍 極樂寺市公墓	南岡大直街東寄り	市ヨリ極樂寺ニ依託管理	極樂寺	有料			一九二四(一一)	二九、六五五	九、二五七(實二〇一七)	三八、九一二
市公署籍 貧民義地	南岡太平橋街	市公署	同上		無料		一九二五(一〇)			一四、七四五

市公署籍	圏河義地	道外太平橋公益街三棵樹東方	市公署	極樂寺		無料		一九一七（一八）			三、八四九
	馮家窯子義地	馮家窯子	同	同上		無料		一九二〇（一五）	一〇、七二〇八	二四五、六三四・一	二三六、五四四九
	大有坊貧民義地	南崗大有坊	同	同上		無料		一九三六			一七、〇〇〇
滿洲國籍	三江義地	洛道屯三棵樹驛西南	何陰棠	三江會館	有料			一九一〇（二五）	七二、四〇五四	三五、七〇三六	一〇七、一〇八
	京直義地	右同	陳耀忠	京直會館	有料			一九二一（一四）	四七二八	七、二四〇五	五四、一一六八五
	山東義地	右同	傳亘川	山東會館	有料			一九一五（二〇）	六六、五四五八	七、二四〇五	八五、六八六五〇
	基督教義地	南太平橋街	崔紹先	滿系基督教會	有料			一九二一（一四）	一四三七	四、二三四六三	五、六八五六
	南潮義地	洛道屯三棵樹驛西南	陳耀忠	京直會館	有料			一九一六（一九）			三、四三〇
	顧郷屯義地	顧郷屯西南北鐵南方	馮春盛	顧郷屯農會	有料			一九二五（一〇）	三、四三〇	三五、七〇〇	三七、一三〇
	回教義地	南崗太安街	白羽生	回教教會		無料		一九〇五（三〇）			三三、四七五八四
	紅卍字會義地	太平橋街	傳亘川	世界紅卍字會濱江分會		無料		一九三三（二）	三、三七九三〇	七、九九七四四	一一、三七六六四
	天主教公義地	道外二十道街公園南頭	アリスフオ	滿系天主教會	有料			一九一一（二四）	七、二四〇五	二八、三六三・一	三五七、〇三六
	連貴堂義地	香坊上號北門外	張希曾孫曉峯	同上			廢棄	一九一九（一六）	二四、九九二九	二四、九九一八	四九九、八四七
	王家義地	香坊上號北門外	王國鈞	同上			廢棄	一八七六（五九）			七、二四〇
	陸家義地	太平橋公益街	陸氏	同上	有料			一九〇〇（三五）			四九、九八〇
	王兆屯陸軍義地	王兆屯	第四軍管區陸軍病院	中央寺院		無料		不明			二五〇、〇〇〇
	沙曼屯陸軍義地	沙曼屯	不明	不明			廢棄	不明			一〇七、一〇〇
	正陽河無名義地	正陽河	無	無			廢棄	不明			三七、一三〇
外國籍	日本義地	太平橋街	日本居留民會	同上		無料		一九一二（二三）	一〇五八五八四	三三〇	一〇九一五八四
	朝鮮義地	太安街	朝鮮居留民會	同上		無料		一九一七（一八）	一二四六五		五、四六五
	俄僑公墓	大直街東	ニコライエフスキ教堂	中央寺院	有料			一九〇二（三三）	三二、八七五	三四、一二五	二三八、〇〇〇
	俄僑貧民義地	右同	右同	同上	有料			一九三〇（五）	二、八九四八〇	七、二八〇	一〇、一七四八〇
	猶太公墓	太安街	リベラマアロオン	猶太宗教會	有料			一九〇三（三二）	三、八八九七〇	一一、三七五	二四、二六四七〇
	七國義地	太安街	ドイツ外駐哈各領事館內教會長	同上	有料			一八九八（三七）	三三、五七八	三三、四四九六〇	四五、九七六六〇
	俄僑舊墓	大直街奉天街角	ヤニトハコロフスキ教堂	同上	有料			一八九八（三七）			一〇、九一八八三
不明	防疫會義地	南太平橋街	不明	無			廢棄	一九三三（二）			七二四〇
	北鐵滿工義地	南太平橋	不明	不明	有料			一九三三（二）	三〇七二〇	九、五四三八八	九、八五〇八八
	計 二九				一五	九	五				

本表ニ於ケル換算率　一方丈＝一〇二四平方米　一晌＝七二〇六丈
一晌＝一四〇平方米＝二一六〇坪

哈爾濱特別市公署行政處衛生科調査

哈爾濱特別市所在公墓義地一覽表（其ノ二）

墓地名	既葬數目 男	既葬數目 女	既葬數目 計	今後ノ可能數 年數	今後ノ可能數 收容數	創設後平均一個年埋葬數	寄託棺ノ設備有無	徵收料金 使用料	徵收料金 埋葬料	徵收料金 手續料	規則有無
極樂寺市公墓			二、二八五 寄託棺 三一九	一個年	一五〇	一七四	有	一等九六元 二等四八元	三等三二元 四等一六元		有
貧民義地			二、三四五	數個月	數十	貧民六九八 合葬二二二四	無				有

關河義地			一〇〇〇〇以上 寄託棺二、六〇〇	滿了			有	寄託棺一具ニ付六十錢也		一年九元	有
馮家窪子義地			一、九九二	三十年	約四、〇〇〇		無				有
大有坊貧民義地				二年							
三江義地			一、二〇〇 寄託棺二一〇	十數年	二、〇〇〇	四八	有	無	無	心付	有
京直義地			一、四〇〇	三個年	三〇〇	一〇〇	不明	無	無	三元	不明
山東義地	七、五七〇	二、二二〇	九、七九〇 寄託棺一四三	一個年	七〇〇	四八九	有	一棺三元	無	一棺一元	有
基督教義地			二八〇	數十年	一、一五〇	一八	無	無	一棺四元	一棺一元六角	無
兩湖義地			三〇	數十年		一六	無	無	無	一棺三元	無
顧鄉屯義地	四六五	二四六	七一〇	數十年	二、〇〇〇	七一	無	一棺二元四角	一棺八角	無	有
回教義地			一、一〇〇	數十年	一、五〇〇	三六	無				無
紅卍字會義地			四八〇	數年	一、〇〇〇以上	一六〇	無				無
天主教公義地			二、二五〇	數十年	一〇、〇〇〇	九三	無	無	無	心付	無
適貴堂義地			約七、〇〇〇						一棺二元		
王家義地			五〇〇								
陸家義地			三五、五六〇	不明			無		若干		無
王兆屯陸軍義地			一〇、〇〇〇		一二、〇〇〇						
沙曼屯陸軍義地			二〇〇								
正陽河無名義地			七、〇〇〇								

日本義地	八八〇	八三〇	一、七〇〇	數年	五〇〇	七四	無				無
朝鮮義地			一、〇九〇			五四	無				無
俄僑公墓			二三、五四八	數年	四、〇〇〇	七一五	無	無	一棺四元	無	無
俄僑貧民義地			六四五	八年	一、五〇〇	一三〇	無	無	一棺一元二角	無	無
猶太公墓			二、二七〇	數十年	二、〇〇〇	七〇	無	冬期六元 夏期三元	無	無	
七國義地			一、九〇〇	三十年	二、〇〇〇	五四	無	一具五元	無	心付	無
俄僑舊墓			一、〇〇〇以上								
防疫會義地			一五〇								
北鐵滿工義地	八	二	一九	數十年	六〇〇	三	無	一棺一元	無	無	無
			一三〇、一四三 寄託棺二、二七二								

哈爾濱特別市所在公墓義地一覽表（其ノ三）

哈爾濱特別市公署行政處衛生科調查

墓地名	墓地內施設ノ一端 建築物	從業員	同上給料	樹木	埋葬ニ對スル制限	摘要
極樂寺市公墓	靈堂看守小屋派出所	四	事務員一五元 更夫一〇元（一月）	有	無	墓地使用料ハ國幣ニ換算シタルモノ
貧民義地	看守小屋一間	二	日給七〇 日給六五	有	無	

圖河義地	看守小屋三間	二	日給 六〇	有	滿系	現在寄託棺ノミ受理	
馮家鑑子義地	無			無	滿系	圖河義地看守人兼務ヨリ七里半餘平常使用セス	
大有坊貧民義地	無			無		四ノ使用滿了後本墓地ニ使用	
三江義地	看守小屋寄託棺室	二	一個月一二元	有	滿系	江蘇、安徽、江西、浙江、福建、廣東、廣西七省出身者ニ限ル	
京直義地	看守小屋	一	八元	有	滿系	河北省出身者ニ限ル	
山東義地	看守小屋寄託棺室	三	三五元(一)二二元(二)	有	滿系	山東省出身者ニ限ル	
基督教義地	看守小屋	一		有	滿系	滿系基督教徒ニ限ル	
南湖義地	無	無	無	無	滿系	湖北、湖南二省民出身者ニ限ル	
關郷屯義地	看守小屋	一	八元	有	滿系		
回教義地	無	無	無	無	滿系	回教徒ニ限ル	
紅卍字會義地	無	無	無	有	滿系	五、〇八九、二八平方米ハ市公署ニ貸與ス	
天主教公義地	看守小屋	一	若干	無	滿系	滿人天主教教徒ニ限ル	
通貴堂義地	無	一		有	滿系	濱江省ヨリ使用停止命令(民國十九年)	
玉家義地	無	無		無	滿系	使用滿了ニ依ル廢業	
陸家義地	看守小屋	四	一名六元	有	滿系	滿人ニ限ル	
王兆屯陸軍義地			一月一六元	有	滿系	第四軍管區軍人死亡者埋葬ニ供シテイル	
沙曼屯陸軍義地				不明		警護路軍使用ノモノ	
正陽河無名義地	無			無		本來墓地ニ非ス附近住民ノ任意ニ埋葬ニセルモノナリ	

日本義地	火葬場休憩場看守小屋	二	一名一個月二〇元	有	日系	火葬場使用料金一人宛二圓	
朝鮮義地	無			有	朝鮮人	朝鮮墓地ハ俄國公墓ト同一箇所ニアリ且下該公墓ニ借用中ナリ	
俄僑公墓	看守小屋教堂ローソク工場	二四		有	白系露人スチグ族	上記ローソク工場ハ墓地内ノミノ使用ニ充	
俄僑貧民義地	無	有	一名六〇圓	有	右同		
猶太公墓	管理事務室	三	二名各二〇〇元	有	ユダヤ人		
七圖義地	看守小屋二間	二	滿人一五〇元	有	七圖人	ドイツ、タタール、ポーランド、モルガン、リトラスコゴライインム、フランス等	
俄僑舊墓	教會堂看守小屋	二	露人二〇〇元	無	上記該教徒	大同元年傳染病死亡者ノ埋葬ニ供シ其後防疫會解散シ現在所屬不明	
防疫會義地	無					康德二年三月北鐵裝收後所有權不明ニ歸ス	
北鐵滿工義地	看守小屋一間	二		有	北滿鐵路滿人工夫		

註 本表內各數字ハ康德二年度分ヲホス

附表(二) 哈爾濱市貧民墓地等理規則 (大同二年六月二十三日民政部令總字第一一號ニヨリ左規則制定)

第一條 貧民墓地ハ本市ヨリ之ヲ管理ス凡ソ該地ニ埋葬セントスルモノハ埋葬許可書ノ發給ヲ受ケタル後之ヲ許可ス

第二條 凡ソ貧民墓地內ニ埋葬セントスル者ハ該管警察署ヨリ給與セラレタル證明書ヲ提出シ本市ガ審査宿泊人の末路

シタル後許可書ヲ發給スベシ

第三條　貧民墓地ニハ看守夫ヲ置キ專ラ埋葬事務ヲ管理スルト共ニ看守ノ責ヲ負シム凡ソ墓地ニ埋葬セントスル者ハ本市發給ノ許可證ヲ看守夫ニ交付シ其ノ番號ニ依リテ埋葬スベシ

第四條　看守夫ハ埋葬事務處理ニ際シ當事務者ニ財物ヲ要求スベカラズ之ニ違反シタル者ハ重罰ス

第五條　凡ソ墓地ニ埋葬スル者ハ死亡者生前ノ姓名、年齡、本籍、職業及死因、死亡期日ヲ本市ニ屆出ヅベシ

第六條　凡ソ墓地ニ埋葬ズル者ハ番號ニ依リテ木質ノ標識ヲ設置シ死亡者ノ姓名ヲ明記シ以テ將來ノ移葬ニ備フベシ

第七條　凡ソ埋葬スベキ掘下深度ハ五尺ヲ以テ限度トシ淺キニ過グルヲ得ズ

第八條　凡ソ埋葬者ガ墓地ニ棺ヲ送リ込ミタル後看守人ハ人夫ヲ雇ヒ墓穴ヲ掘鑿セシメ一穴ニ付埋葬費トシテ一圓六十錢ヲ給與スベシ本署ヨリハ慈善費ノ項目中ヨリ之ヲ支辨ス

附　則

本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

本規則ノ不備ノ點アル時ハ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

哈爾濱市貧民墓地埋葬規則（大同二年六月二十三日民政部令總字第一一一號ニヨリ暫規則援用）

第一條　凡ソ本市ニ在ル滿籍貧民ニシテ死亡後確カニ土地ヲ購入シテ埋葬ヲ爲ス力無キ者ハ本規則ノ規定ニ依ル事ヲ得但シ「ペスト」及「コレラ」ノ流行時ニ在リテハ暫時其ノ時ノ埋葬ヲ停止ス其ノ停止期間ハ本市ヨリ之ヲ公布ス

第二條　貧民墓地ハ極樂寺東太平橋附近ノ土地ニ千五百二十六號ヲ區劃シ一劃ニ一棺ヲ番號順序ニ依リ埋葬セシムベシ其ノ順序ヲ亂スヲ得ズ

第三條　貧民墓地ハ男女ヲ分タズ均シク埋葬スルコトヲ得尙八十號ヲ特ニ區劃シ專ラ未成年者屍體埋葬ノ用ニ供ス若墓地滿號トナリタル時ハ別ニ法ヲ設ケテ之ヲ擴張スベシ

第四條　死亡人ノ家族或ハ代表者ガ所轄警察署ノ檢證證明書ヲ携行來署シ審査ヲ經タル後埋葬許可證ノ發給ヲ受クレバ始メテ屍體ヲ墓地ニ搬入シ埋葬スルコトヲ許可セラルベシ

第五條　貧民墓地ハ一切費用ヲ徵收セズ其ノ墓穴掘鑿費等モ均シク本署ヨリ之ヲ負擔ス

第六號　凡ソ墓地ノ埋葬ノ屍體ヲ若其ノ家族或ハ代表者ニ於テ之ガ改葬ヲナサントスルトキハ本署ニ申請シ認可ヲ經タル後改葬ヲ許サルベシ原葬地ハ之ヲ填土シ地均シスベシ

第七條　若冬季埋葬不能ノ場合ニハ指定號數ノ地上ニ安置シ解氷ヲ待ツテ之ガ埋葬ヲナスベシ

附　則

第八條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九條　本則ニ若不備ノ點アル時ハ隨時之ガ改正ヲナスコトヲ得

寄泊人の末路

哈爾濱市公共墓地管理規程

（大同二年六月二十三日民政部令總字第一一號ニヨリ舊規則援用）

第一章　總則

第一條　哈爾濱公共墓地ハ哈爾濱市公署之ヲ管理ス總テ墓地內一切ノ事務ハ極樂寺方丈ニ委任シ手近ニ辦理セシメ竝ニ方丈ヨリ適當ナル人ヲ派シ墓地ニ常駐看守セシム

第二章

第二條　本署ヨリ毎月一回人ヲ派シ公墓ヲ視察セシメ特別ノ事情發生シタル時ハ隨時人ヲ派シテ處理セシム

第三條　極樂寺方丈ハ本署ノ委任ヲ受ケ公共墓地ヲ管理スルニハ規定ニ依リ左記事項ヲ處理スベシ若特別ノ事情アルトキハ隨時本署ト協議ノ上處理スベシ

一、埋葬及寄托棺安置地ノ測量

二、埋葬或ハ寄托棺ガ合法ナリヤ否ヤノ監視

三、埋葬及寄托棺ノ名簿作成

四、墓地ニ關スル往復文件ノ收發及彙報

五、滿期セル寄托假埋葬柩掘起ノ監視

六、墓地建築物ノ監視及保管

七、墓地花木ノ栽植及保管

八、各家屬墓參者ノ接待

九、其ノ他公共墓ガ直接處理スベキ事項

第三章　經費

第四條　埋葬地價及寄托棺ノ借地料等ハスベテ極樂寺方丈之ヲ收納シテ公共墓地經營ノ人件費及臺帳墓標其ノ他一切ノ小修理雜費等ニ充當支出ス植樹道路鋪修等ノ大工事ニ就テハ本署ハ別ニ經費ヲ支出シテ之ヲ處理ス

第四章　埋葬及寄托棺

第五條　總テ滿籍市民ガ死亡シタルトキハ本規程竝ニ埋葬或ハ寄托スルコトヲ得

第六條　埋葬及寄托棺ノ何レタルトヲ問ハズ何レモ先ヅ本署ニ至リ公墓地圖ヲ閱覽シテ地點ヲ選定シ證書ヲ領收シテ極樂寺ニ至リ地價或ハ借地料ヲ納付シ本署ノ發行セル正式領收書ヲ受領シタル後始メテ時期ヲ定メ柩ヲ搬入スルコトヲ得

第七條　墓地全部ヲ甲乙丙丁戊己庚辛壬癸ノ十區ニ分ツ當分丙丁戊己ノ四區ヲ男子埋葬地ト爲シ庚辛兩區ヲ女子埋葬地ニ乙壬兩區ヲ夫婦合葬地トシ甲癸兩區ヲ寄托棺地ト定ム男女兩埋葬地ノ大キサハ夫々十五平方沙繩トシ夫婦合葬地區ノ大キサハ十五沙繩トシ寄托棺地ハ長サ十五沙繩幅一沙繩トス

宿泊人の末路

第八條　埋葬地ノ地價ハ卽チ地點ノ便利或ハ要衝地ナリヤ否ヤニ依リ之ヲ四等ニ分ツ詳細ナル位置地圖ヲ參閱シテ地點ヲ指定シ地價ヲ一回ニ納付スベシ規定價格左ノ如シ

1. 男及女埋葬地區內

一、	一等地價每號	百二十圓
二、	二等地價同	六十圓
三、	三等地價同	四十圓
四、	四等地價同	二十圓

2. 夫婦合葬地區內

一、	一等地價每號	百五十圓
二、	二等地價同	八十圓
三、	三等地價同	六十圓
四、	四等地價同	三十圓

第九條　寄托棺ノ年限ハ多クモ三年ヲ超ユルベカラズ其ノ借地料ハ每年每號十二元トシ二期ニ分納半年ヲ以テ一期トス

第十條　埋葬ノ靈棺墓地ニ到着シタルトキハ其ノ堅固程度ヲ檢查スベシ若必要アルトキハ鐵板包ミトセシメタル後埋葬セシムルコトヲ得ベシ家族ハ之ニ抗命スルヲ得ズ

第十一條　埋葬及置棺ノ詳細ナル規則ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

第十二條　本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　本規程ニ若不備ノ點アルトキハ隨時之ヲ改正スルコトヲ得

(四) 死體數

行路死亡者其の他の死體數に關しては、警務廳では年三千名前後と見、哈爾濱市公署年鑑によると每年大體二千四、五百となつてゐるが、此處では姑らく哈爾濱市社會事業聯合會附屬慈善舍の死亡數と、市公署調査の行旅死亡者數とを擧げることにする。

一、哈爾濱市社會事業聯合會附屬慈善舍

此の慈善舍は以前滿洲人の慈善家に依る貧民の收容所であつたが、乞食達すらが、此處に收容せらるるよりは、無期徒刑の方が遙かにましだと云つて恐れた所である。收容せられたる最後絕對助からないのである。それを今年卽ち康德七年四月一日より、慈善家の手より離して市社會事業聯合會附屬慈善舍となしたのである。

十月四日收容現在員四六九名であるが、四月一日より十月四日までの全收容人員は一、六八六人であり、

四月一日より十月四日までの死亡者數計五〇一人である。收容人員の三分の一が死んでゐる譯である。そして此處で死ぬ連中も勿論素裸であるが、これも衣服は監視人達の役得である。

二、哈爾濱市公署衛生科調査による死亡者數

康德五、六、七年上期行旅死亡者狀況表

1. 行旅死亡者年齡

年別 / 年齡	一〇歲以下	二〇歲以下	三〇歲以下	四〇歲以下	五〇歲以下	五一歲以上	計
康德五年	一〇〇人	二九人	四七五人	三六〇人	九四人	三六人	一〇九四人
〃六年	一〇三〃	三六〃	三〇七〃	三一一〃	九七〃	九二〃	九四六〃
康德七年上期(六月)	六五〃	五三〃	二一三〃	二六九〃	七三〃	四八〃	七二一〃

2. 死亡の原因

年別 / 死別	病死	麻藥中毒	其他	計
康德五年	一七五人	八九〇人	二九人	一〇九四人
康德六年	二七一〃	六四〇〃	三五〃	九四六〃
康德七年上半期	一五三〃	五五九〃	九〃	七二一〃

3. 死亡當時 場所(外路・屋內)及死亡の月別

年度別 / 月別	康德二年度 屋內	外路	計	康德六年度 屋內	外路	計	康德七年上期(六月) 屋內	外路	計
一月	四七人	五五〇人	九七人	七〇人	四五人	一一五人	三一人	六〇人	九一人
二月	四八〃	一〇一〃	一四九〃	五四〃	三八〃	九二〃	五〇〃	七五〃	一二五〃
三月	三一〃	八〇〃	一一一〃	三八〃	五六〃	九四〃	三四〃	八一〃	一一五〃
四月	五七〃	六一〃	一一八〃	四〇〃	二六〃	六六〃	七一〃	六〇〃	一三一〃
五月	六九〃	四三〃	一一三〃	五三〃	三七〃	九〇〃	八五〃	六一〃	一四六〃
六月	五〇〃	五〇〃	一〇〇〃	三六〃	三五〃	七一〃	五一〃	六一〃	一一二〃
七月	二三〃	三五〃	五八〃	二二〃	四二〃	六四〃			
八月	二四〃	三四〃	五八〃	二一〃	四三〃	六四〃			
九月	一五〃	三九〃	五四〃	二八〃	四〇〃	六八〃			
十月	一六〃	六一〃	七七〃	二七〃	四三〃	七〇〃			
十一月	三六〃	四三〃	七九〃	三〇〃	四八〃	七八〃			
十二月	三六〃	四五〃	八一〃	三八〃	三六〃	七四〃			
計	四五二〃	六四二〃	一〇九四〃	四五七〃	四八九〃	九四六〃	三二三〃	三九八〃	七二一〃

4. 性別及身許判明不明別

年別 ＼ 性別及身許別	男	女	計	身許判明セルモノ	身許判明セザルモノ	計
康徳五年	一〇三九人	五五人	一〇九四人	四八〇人	六一四人	一〇九四人
康徳六年	八七四〃	七二〃	九四六〃	四四三〃	五〇三〃	九四六〃
康徳七年上期(六月)	六八九〃	三二〃	七二一〃	三一七〃	四〇四〃	七二一〃

(五) 死體の輸送

參考までに死體の運送に關して一言して置く。但し本項目に關しては特に調査せしものにあらず、只目に觸れしものを其の儘報告するに止め、詳細なる調査は他日に讓る。

一、死體運送法

(1) 槓房(ガンファン) KANG FANG に依頼して送る

槓房とは葬儀萬端請負業のことである。槓とは擔ぎ棒又は棺を擔ぐ臺のことである。

(2) 棚舖(ポンプ) P'ENG P'U に依頼して送る

棚舖とは婚禮・葬禮等に際して、庭に一時的の假小屋等を造るが之を棚と云ふ。客を饗應する所である。其他一切の飾り附け等も請負ふ。又大陸の夏季は酷暑が嚴しく、家屋に日光の直射するを遽るため、屋根の上にアンペラで更に屋根を造る。卽ち屋上屋を重ねて暑さを防ぐ譯であるが、これを『天棚(テンポン) T'IEN P'ENG』と云ひ、棚舖ではこの仕事も請負うてゐる。

(3) 旅館に依頼して送る

旅館にしても○○棧と云ふ支那舊來の宿屋に於て取扱つて呉れる。この棧は各地の棧との間に、同鄉出身とか血緣とかの密接な聯絡を持ちをり、旅行者も亦皆この血緣地緣を辿つて旅行し宿泊してゐる。從つて昔から他鄉よりの吉凶禍福は、皆此の棧に宿泊せる同鄉者に依頼したものである。その遺習として今日に於ても棧に依頼して死體を輸送する者が相當數あるのである。

(4) 華北より來りたる死體運送者に依頼して送る

華北、持に山東より專門に死體輸送をなす者が來て、九月末頃より死體輸送依托者を物色して棺を預り、大車に依りて營口又は安東等に運び、ヂャンク船に積みて山東に到り、其處より再び約束の故鄉まで大車にて送り届けるのである。以前は滿洲にて大車及び馬を購入して、それに積載して山東に至り、送り届けたる後、馬及び大車を高値にて賣却し居りたる由なるも、近年馬匹の購入仲々困難とのことである。輸送に要する期間は二箇月から二箇月半を要し、彼等は此の仕事終了の時期が丁度舊正月直前になるやうに日取を見越してやつてゐる。

(5) 個人輸送をする

宿泊人の末路

これは個人で萬端の用意をして大車を雇ふか或は汽車に托送する方法である。

以上は大體死體輸送法であるが、(1)より(4)までの死體輸送引受の際は『舖保(プパーオ)』(P'U PAO)と云ふて、確實信用のある滿人店舖の保證を得て引受けてゐる。支那社會に於ては人間を信用せざるため、個人が個人の資格で他人を保證すること少く、店舖の保證を最も確實なものとしてゐる。これは人間は逃亡する虞れありて信用出來ぬが、店舖には品物あり、一切をひつくるめて逃亡すること先づ無きため、店舖に責任を負はしめる制度が發達してゐるのである。

二、死體運送取扱店

參考までに街頭に貼付せられてある死體輸送廣告を見よう。

『本店は汽車汽船に依る各地向けの靈柩運送一切を請負仕る可く候。期日正確、一切の手續敏捷、價格亦勉强致す可く、若し各墓地寄托中の靈柩或は骨箱にして、原籍地に回送の上安葬致し度き御希望有之候節は、何卒御來店の上直接御交渉下され度く、此段謹んで廣告申上候

尙道外小六道街東側　義合棚舖

道外南和街西側六十號　楊久昌

に御相談下さるも結構にして價格手續等弊店と同樣に御座候へば右御含置被下度候

本市代理店

道外豐潤南大六道街西側五號

(中央舞臺東隣り)

電話　九一二七番　四合公運輸處帳場

一例として廣告から死體輸送取扱店の二、三を拾つて見ると

住所	取扱地	代表者
太平橋公益街十六號		
南十五道街新江泉北華鑫車舖西側四合館	滿洲國內	車居正
北六道街慈光向ヒ德泰隆	山東	吳安泰
南十道街東側吳家床子同興泰		
道外中十五道街	各地	陳長齡
新江泉北華鑫車舖郭家棚舖		
道外豐潤街中央舞臺西運發棧	國內・山西・河南 河北・寧津	張學林
小六道街義和棚舖		閏益三
中十六道街華榮向ヒ一五三〇號		

宿泊人の末路

太古南十五道街二六號馬神井 太古小六道街一九號 新安埠安陽胡同二三號合順祥	各地	呂憲三 彭桂林
太古五道街路北久記皮莊 太古九道街西側信成旅店 中七道街興順棧 十九道街馮家店	各地	劉樹田 韓相廷
太古十五道街馬家大院北慶發祥 黎明街二盛合 中小六道街劉家柵舖 北六道街德泰隆 太古十五道街南市場西口西側	各地	劉其魁 閏慶榮
南勳五道街德源茂 大水昌街南頭豐泰義 七道八雜市南西側茶館	各地	德信成

三、死體輸送と密輸關係

支那社會の基底は家族であり、社會道德の根源は孝である、と云ふのが吾々の常識である。この常識から出發して支那人は鄕里に關する觀念が强烈であり、從つて如何なる遠隔の他鄕に於て死亡しても、必らず故鄕に輸送して靈を慰めると云ふのが是亦常識であり、然も外國人も特に日本人は此の習慣を道德的に極めて高價なものとして買つてゐるのである。此の外國人の常識と錯覺とを利用したのが、支那社會に於て公然と行はれてゐる密輸である。阿片・モヒ・武器・金塊その他の密輸品は、殆ど此の最も安全な靈柩の中に作爲されることは支那社會の常識である。

死體が何處から入手出來るか、傅家甸だけでも上述の如く年に二千や三千の身許不詳の死體があるではないか。街頭から一個拾つて來て、死體の背中を裂いて金塊を詰めこんで、立派な衣服を着せて立派な棺に入れる。現在の滿洲國警察官は、死亡證明書等賄賂一つでいくらでも發給して呉れる。正式な手續のもとに滿鐵に依賴する。滿鐵では臭氣の發散せざるやうに嚴重なる荷造りのものにあらざれば受理しない。寔に有難い話である。百五十圓から二百圓の運賃で極めて安全に天津濟南まで送り屆けられるのである。

今更事の眞僞を詮議するまでもない。結論は『死體の國外輸送を絕對に禁止せよ』である。

第十五節　性格

(一)　一般的性格

彼等の行動には妖氣が絡んでゐる。來世の地獄に脅かされるにはあまりに此の世の地獄に狎れ切つてゐる。彼等には宗教がないからであらうか。彼等の行動は邪惡に充ち滿ちてゐる。人間性の懇ろな慈愛を忘れ、德の戒律による心性の向上を信じ得ないからであらうか。

とまれ彼等に對して斷定的な評語を下すことは愼むべきことであり、そして又精緻な心理的分析をなすことは不可能にも近い。只彼等の出身地・前身・現在の生活基礎・行動・思想等々から斷片的に捉へ得らるる性格としては次表の如くなる——

出身地 省名	出身地 俗稱	前身	現在生活基礎	性格
山東	山東棒子	浮浪者	日傭	無自覺
	海南委	極貧者	乞食	無理想
河北	樂嚾兒	棄子	屑拾ひ	廢退的
	關裡人	不具者	搔拂ひ	不道德
河南	關裡人	癈疾者	淫賣	虛無的
山西	老西兒	白痴	施與	無責任
	老西子	農夫	被護	非共同的
關東州	假鬼子	職人	强盜	非組織的
滿洲	白帽子	苦力	竊盜	孤立的
	老韃子	小商賣人	横領	衝動的
	關東人	家出人	强請	發作的
	關外人	老衰者	恐喝	刹那的
	東三省人	行路病者	暴行	不和雷動
	東北人	警察官	傷害	意志薄弱
朝鮮	臭高麗	軍人	僞密偵	自制力無し
	高麗棒子	官吏	誘拐	臆病
		密偵	賭博	決斷力無し
		腿子	高利貸	放恣
		無賴漢	麻藥密賣	怠惰
		前科者	掏摸	依賴的
		犯罪者		妄想的
		密貿易者		官能的

以上の如く此の大觀園の木賃宿に止宿し又はこの大觀園に出入して此處のこの汚濁した空氣を呼吸してゐる彼等の前身は、ルンペン・極貧者・乘子・不具者・癈疾者・白痴等の如く先天的に精神的肉體的缺陷をもつ者、又は農夫・職人・苦力・小商賣人・家出人・老衰者・行路病者等の如く自ら大地の重壓に締め出されて落ち込んで來た者、又警察官・憲兵・密偵・腿子（トエーズ）（T'UI TZU 密偵の手先）・無賴漢・前科者・犯罪者・密貿易者・麻藥密賣者等々で、生れながらにして惡の刻印を捺されたやうな者のみであり、然も彼等の現在の生活基礎は日傭・乞食・屑拾ひ・掻拂ひ・淫賣・施與・救濟更に强盜・竊盜・橫領・强請・恐喝・暴行・詐僞・僞密偵・誘拐・賭博・高利貸・麻藥の密賣等々である。

斯くの如く大觀園は精神病者又は精神病的傾向に屬する人々の集合所であり、そこに作用する心理法則は常態的でなく寧ろ變態的である。從つてこの大觀園から放出せらるる性格は、一般的には生理的諸障碍から來る不健康と、理智能力の狹隘からくる基準の顚倒と、道德の倒錯からくる殘忍刻薄・冷酷とであり、これらが汚濁に淀んだ大觀園の空氣の底に相交錯して放射せられてゐるのである。

一部の者は饑渴よりくる衝動に生き、或る者は意志薄弱にして自制力無く、癈病にして決斷力を缺き、或る者は放恣、怠惰、依賴的であり、或る者は妄想的にして官能的空氣に惑溺し、或る者は病的にして刹那的・發作的にして永續性を持たず、刺戟の異狀性・變態性にのみ興味を感じてゐる。

彼等は一樣に無自覺にして自己意識なく、無理想にして虛榮的色彩濃厚であり、その行動はすべて非道德的にして虛僞、虛言、無責任等で氾濫してゐる。そして此處では彼等の共同生活は萎縮してゐて、極めて非共同的・非組織的であり完全に孤立的である。賭博・竊盜その他に於て共同的動作がとらるることあるも、多くは刹那的・衝動的もしくは群衆の暗示心理に支配せられてなす 附和雷同的である。從つて彼等の一般的性格自體が總じて反社會的である。然も彼等は常に密集してはゐるが明かに分散してゐる。

(二) 政治的性格

大觀園は滿洲のもつ所有る重壓によつて追ひたてられ社會の底へ底へと追ひ詰められた人間どもが、その絕滅の一步手前に於て暫しの足を留める所である。

彼等のもつ反社會性を獨斷的に評價することは避けたい。只明白なことは傳家甸の如く獨占的封鎖的にして守舊的な然も徹底的に漢民族的な存在の仕方をしてゐる都市に於ては、殊にこれを取圍む社會の急激なる變革期に際して、斯かる都市の存在は正常なる國家的發展の前に於ける一つの障害となり、その結果多數の人間をボイコットし急激なるルンペン化を促してゐることは事實である。更に傳家甸を圍繞する滿洲の一般的危機の繼續は多數のルンペン群を激增せしめてをり、それが一樣に傳家甸を目指して來哈し、遂にはこの大觀園に轉落して來ることも亦事實である。

彼等は經濟的に云へば傳家句の生產過程からは遊離して居り、從つて直接には經濟的收奪の對象とはならぬが、彼等の居住する大觀園社會——それは漢民族社會から絞り取られた殘滓ではあるが——に於ては最後の血の一滴、果てはその肉體までもが收奪の對象となつてゐるのである。然しながら彼等は斯くの如く生產過程には隔絕しながらも消費過程・享樂過程には參加してゐるのである。

政治的に云へば彼等は一般被支配階級と同樣に被抑壓社會層ではあるが、彼等の生活基礎及びその一般的性格が前述の如く自己に對する些かの自覺も理想もなく、從つて建設的なる組織的意志なく、まして民族的意識等あらう筈なく、自己を取圍む急激な社會の變革に對してすら全く無關心にして些かも革新への意圖をもたず、階級意識等毛頭ない。

以上の如く生產過程より遊離して存在するこの厖大な社會群は無智にして衝動的なるが故に、彼等自身が政治的陰謀や複雜な術策を弄することは不可能であるが、暗示力絕大而も激發的にして反社會的なるが故に反動に買收せらるる危險は充分にあり、然も彼等群衆の行動は無智と動物的本能とに支配せらるるのみならず、附和雷同的にして傳播性と擴大性とを有し、常に群衆の波動に追隨して居り、煽動者が衝動的暗示を與へることに依つて容易に彼等をして激越なる破壞的行動に出でしめ得るであらう。

要するに彼等は傾向上破壞的であり、一旦彼等が兇暴化せし場合は、彼等の反社會性と、その數量的壓倒とのもとに於て、それ以上の物理力を以て鎭壓若くは退散せしむる以外ない。この意味に於て大觀園は

謀略と密接に結びついて存在してゐることを知る可きであらう。

われわれは以上の不充分な調査資料によつて結論し得ることは、大觀園は明かに漢民族の社會であり、漢民族のみの社會であると云ふことである。この大觀園を中心に蝟集する彼等の姿を、明かに漢民族の姿でありとすれば、漢民族、それはまさしく妖怪である。